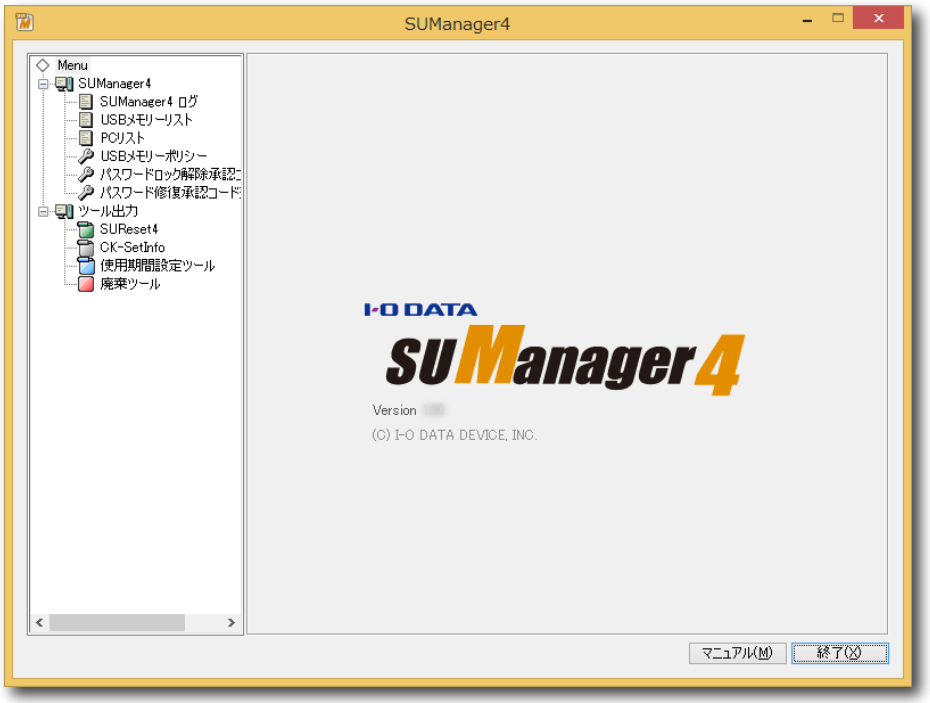
画面で見るマニュアル

セキュリティ USB メモリー　管理者用ソフトウェア
SUManager4



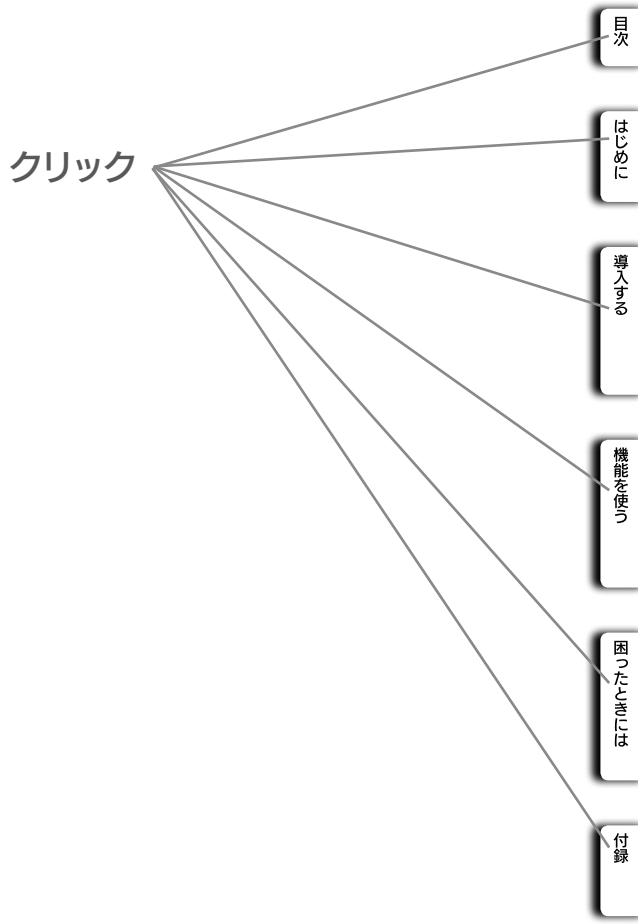
【マニュアルアンケートはこちら】
よりよいマニュアル作りのためアンケートにご協力願います。

© I-O DATA DEVICE, INC.
03 版

本書について

見出しの操作

ページの端にある見出しをクリックすると、該当のページに移動できます。



マークの説明

ヒント **知っておくと便利な情報を記載しています**

注　意 **使う上での注意事項を記載しています**

本マニュアルでの表記

● Windows 8 の画面で説明しています。
● 本マニュアルでは「ユーザー」および「管理者」を以下のように定義しています。

ユーザー	対応USBメモリーを使用する者
管理者	社内のシステム管理者および管理者権限（Administrator権限）を有する者

目次

はじめに 6

本製品の特長 ・・・

パスワードロック解除承認コードを発行する ····· 69
パスワード修復承認コードを発行する ····· 72
SUReset4 について ····· 75
簡易 PC 識別（CK-SetInfo）について ····· 79
使用期間設定ツールについて ····· 83
廃棄ツールについて ····· 87

困ったときには 95

SUKeyID4 でのトラブル ([No.Dxxx]) ····· 96
SUManager4 でのトラブル ([No.Cxxx]) ····· 97
CK-SetInfo でのトラブル ([No.Exxx]) ····· 102
SUGetInfoAG でのトラブル ([No.Fxxxx]) ····· 103
SUReset4 でのトラブル ([No.Bxxx]) ····· 104
対応 USB メモリーおよび SUGate4 でのトラブル ([No.Axxx]) 105
使用期間設定ツールでのトラブル ([No.Mxxx]) ····· 108
廃棄ツールでのトラブル ([No.Jxxx]) ····· 110

付録 113

パソコンを入れ替える場合（環境移行する）····· 113
アンインストールする場合 ····· 116
バージョン情報の確認 ····· 117
アフターサービス ····· 118

はじめに

本製品の特長

■ SUManager4 とは

対応するセキュリティ USB メモリーのための管理者用ソフトウェアです。
以下の項目について管理することができます。

【管理項目】

- USB メモリーの初期化
- パスワードの連続ミス回数のリセット
- パスワードの変更
- USB メモリー操作ログの表示
- 「SUManager4」操作ログの表示・出力
- USB メモリーポリシーの設定
- データ保存領域のサイズ変更
- データ保存領域の書き込み禁止設定
- 初期化済 USB メモリー情報の表示と保存・出力
- SUReset4 の生成
- CK-SetInfo の生成
- 使用期間設定ツールの生成
- 廃棄ツールの生成
- 特定 PC での使用許可操作
- マスターパスワード機能
- ウイルスチェック機能 (ED-SV4 シリーズのみ)

動作環境

■ 対応 OS

SUManager4	Windows 10（32/64ビット版） Windows 8.1（32/64ビット版） Windows 8（32/64ビット版） Windows 7（32/64ビット版） ※日本語版のみ対応です。 ※インストールには、管理者権限が必要です。 ※ Guest 権限ではご利用いただけません。 ※ Active Directory 固定プロファイル環境ではご利用いただけません。 ※ Active Directory 環境のように使用するパソコンが都度異なる場合には、使用するすべてのパソコンで設定をする必要があります。 ※ PC 識別機能をご利用の際は、USB メモリーを使用するパソコンにネットワークアダプターが必要です。
SUKeyID4	Windows 10（32/64ビット版） Windows 8.1（32/64ビット版） Windows 8（32/64ビット版） Windows 7（32/64ビット版） ※日本語版のみ対応です。 ※ Guest 権限ではご利用いただけません。
SUGetInfoAG	Windows 10（32/64ビット版） Windows 8.1（32/64ビット版） Windows 8（32/64ビット版） Windows 7（32/64ビット版） Windows Server 2012 R2（64ビット版） Windows Server 2012（64ビット版） Windows Server 2008 R2（32/64ビット版） Windows Server 2008（32/64ビット版） ※ Guest 権限ではご利用いただけません。 ※ USB メモリーを使用するパソコンにネットワークアダプターが必要です。
SUReset4	Windows 10（32/64ビット版） Windows 8.1（32/64ビット版） Windows 8（32/64ビット版） Windows 7（32/64ビット版） Windows Server 2012 R2（64ビット版） Windows Server 2012（64ビット版） Windows Server 2008 R2（32/64ビット版） Windows Server 2008（32/64ビット版） ※ Guest 権限ではご利用いただけません。 ※ Windows Server 2012 R2/2012/2008 R2/2008 の場合 ・管理者権限を持ったローカルユーザーでのみ使用可能です。 ・起動時に「管理者として実行」の選択が必要な場合があります。

CK-SetInfo	Windows 10（32/64ビット版） Windows 8.1（32/64ビット版） Windows 8（32/64ビット版） Windows 7（32/64ビット版） Windows Server 2012 R2（64ビット版） Windows Server 2012（64ビット版） Windows Server 2008 R2（32/64ビット版） Windows Server 2008（32/64ビット版） ※ Guest 権限ではご利用いただけません。
使用期間設定ツール	Windows 10（32/64ビット版） Windows 8.1（32/64ビット版） Windows 8（32/64ビット版） Windows 7（32/64ビット版） ※日本語版のみ対応です。 ※ Guest 権限ではご利用いただけません。 ※ Active Directory 固定プロファイル環境ではご利用いただけません。
セキュリティUSB メモリー廃棄ツール	Windows 10（32/64ビット版） Windows 8.1（32/64ビット版） Windows 8（32/64ビット版） Windows 7（32/64ビット版） ※ Guest 権限ではご利用いただけません。 ※ Active Directory 固定プロファイル環境ではご利用いただけません。

※ 2015 年 8 月 21 日時点の情報です。最新情報は弊社ホームページをご覧ください。
http://www.iodata.jp/

■ 対応 USB メモリー

・ED-S4 シリーズ
・ED-SV4 シリーズ
・ED-S4/MOT シリーズ

※上記以外の製品では、ご利用いただけません。
※本マニュアルでは上記対応 USB メモリーを「USB メモリー」と表記します。
※ USB メモリーの対応 OS 等については、各 USB メモリーの画面で見るマニュアルを参照してください。
※ 2015 年 8 月 21 日時点の情報です。最新情報は弊社ホームページをご覧ください。
http://www.iodata.jp/

導入する

KEY-ID ファイルを生成する 10 ページ

インストールする 12 ページ

SUManager4 を起動する 14 ページ

USB メモリーポリシーを設定する 16 ページ

USB メモリーを初期化する 30 ページ

KEY-ID ファイルを生成する

SUManager4 をインストールする前に、お客様専用の設定ファイル（KEY-ID ファイル）を生成します。
KEY-ID ファイルは、他のお客様が導入した SUManager4 でお客様の USB メモリーを操作されないようにするための、お客様専用の ID です。

注　意

生成した KEY-ID ファイルは大切に保管してください

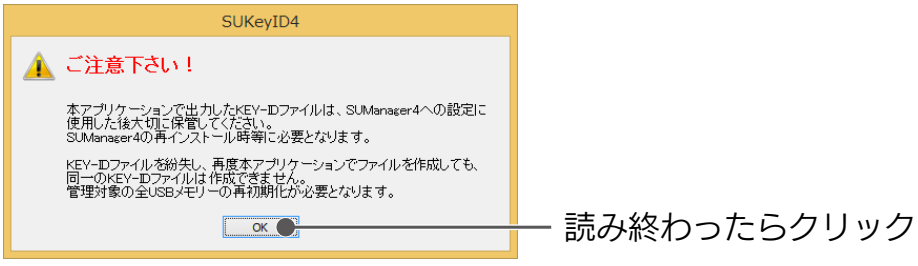
KEY-ID ファイルは SUManager4 の再インストール時等にも必要となります。
再度、KEY-ID ファイルを生成しても、同一の KEY-ID ファイルは生成できません。
KEY-ID ファイルを紛失した場合、管理対象の全 USB メモリーの初期化が必要となります。
あらかじめご了承ください。

1 SUManager4のCD-ROMをセットします。

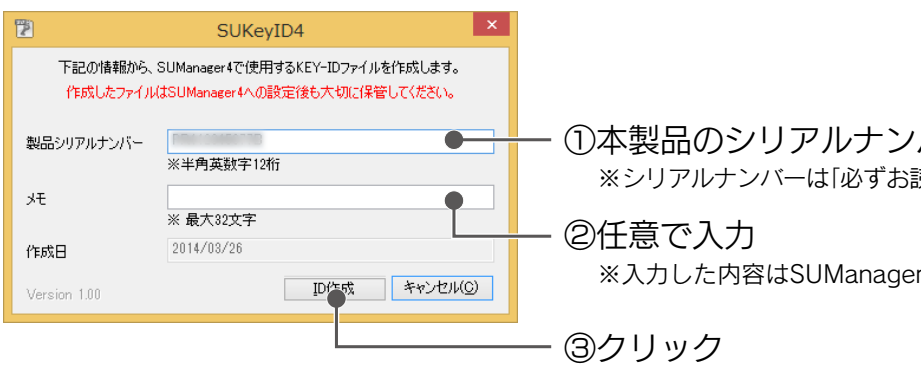
2 [PC]（または[コンピューター]）からCD-ROMを開き、[SUKeyID4]フォルダー内の[SUKeyID4（.exe）]を起動します。



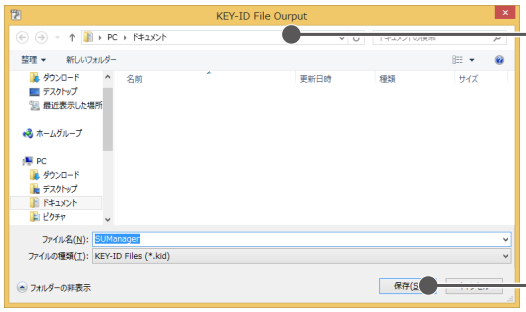
3 表示されたメッセージをよく読みます。



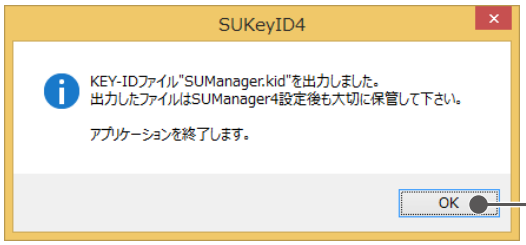
4 KEY-IDファイルを作成します。



5 保存先を選択し、KEY-IDファイルを保存します。



6 [OK]をクリックします。



以上で KEY-ID ファイルの生成は完了です。
【インストールする】（12 ページ）へお進みください。

インストールする

注　意

- **管理者 (Administrator) 権限を持つアカウントでインストールしてください**
- **最初に KEY-ID の登録をしたアカウントでのみ、SUManager4 を利用できます**

1 SUManager4のCD-ROMをセットします。

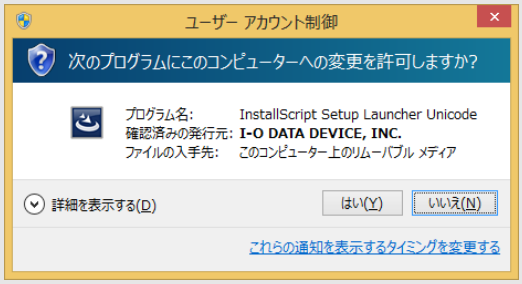
2 [PC](または[コンピューター])からCD-ROM開き、[SUManager4]フォルダー内の[Setup(.exe)]を起動します。



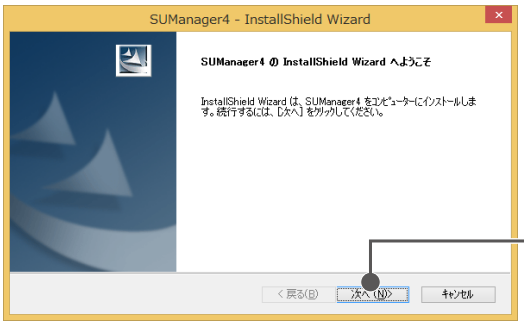
ヒント

ユーザアカウント制御の画面が表示された場合

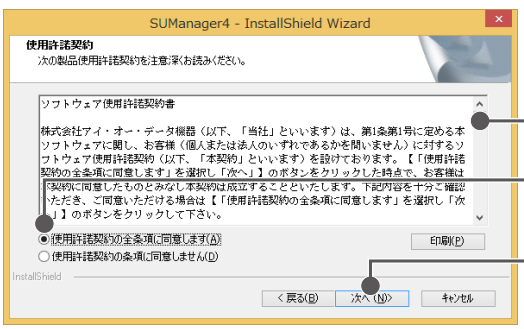
[はい] をクリックします。



3 [次へ]をクリックします。



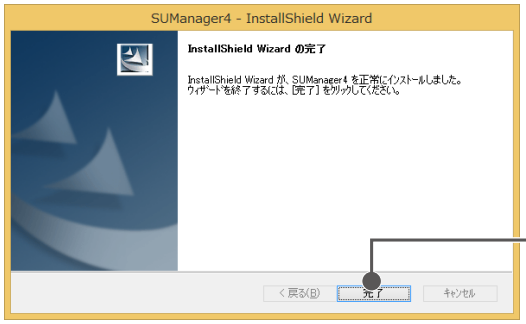
4 使用許諾契約に同意する場合は、[使用許諾契約の全条項に同意します]にチェックし、[次へ]をクリックします。



5 [インストール]をクリックします。



6 [完了]をクリックします。



以上でインストールは完了です。

SUManager4 を起動する

初回起動時のみ、KEY-ID ファイルの読み込みが必要です。
2 回目以降は必要ありません。

ヒント

USB メモリーを接続しないでください

SUGate4 が動作していると SUManager4 は起動しません。USB メモリーを取り外してください。

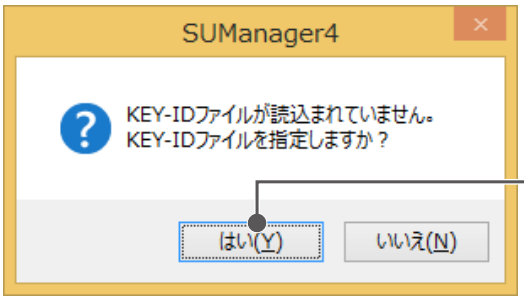
1 すべてのアプリ（プログラム）から[SUManager4]を起動します。

Windows 10: ① [スタート]ボタンー[すべてのアプリ]をクリック
② [I-O DATA]ー[SUManager4]をクリック

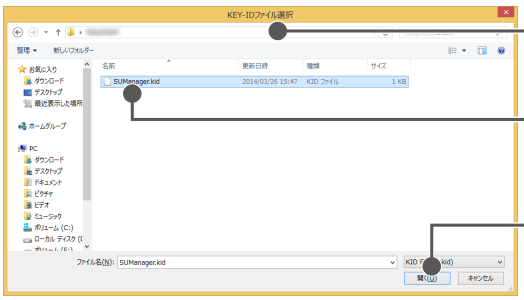
Windows 8: すべてのアプリ画面を表示し、[SUManager4]をクリック

Windows 7: ①[スタート]ボタンー[すべてのプログラム]をクリック
② [I-O DATA]ー[SUManager4]をクリック

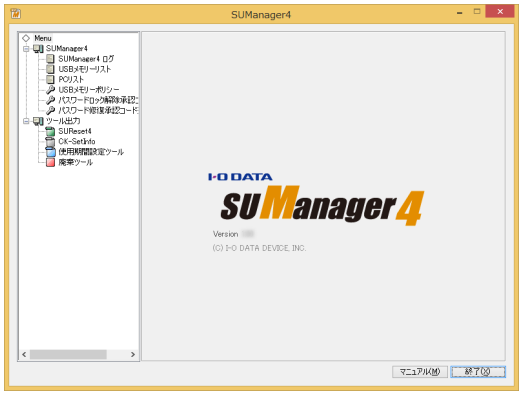
2 （初回のみ）[はい]をクリックします。



3 （初回のみ）【KEY-IDファイルを生成する】で保存したKEY-IDファイルを選択します。



4 SUManager4が起動します。

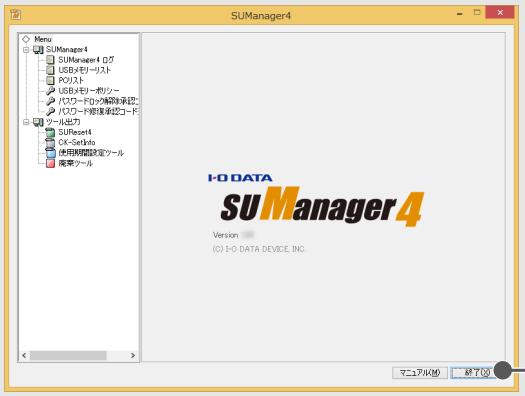


以上で SUManager4 の起動は完了です。

ヒント

終了方法

[終了] をクリックします。

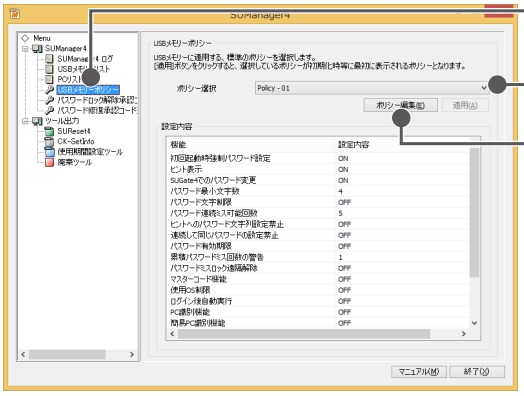


USB メモリーポリシーを設定する

使用する USB メモリーに適用するポリシーを設定します。
※ポリシーは 10 種類登録できます。

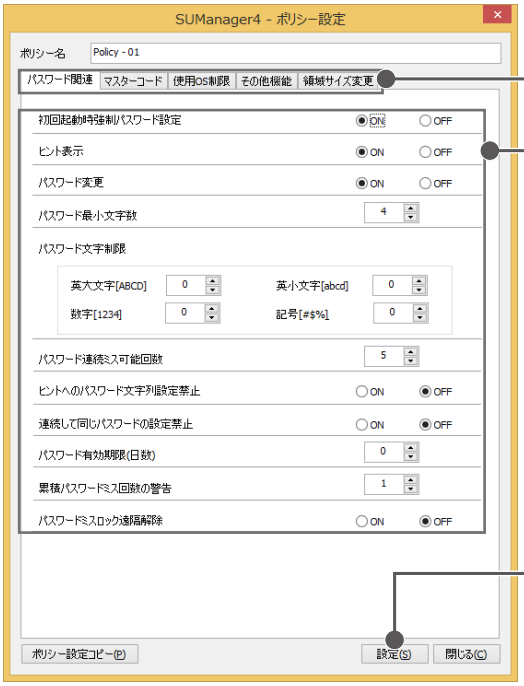
1 SUManager4を起動します。

2 ポリシー設定画面を表示します。



①[USBメモリーポリシー]をクリック
②設定するポリシー名を選択
③[ポリシー編集]をクリック

3 設定します。



①タブを選択
②設定
③[設定]をクリック

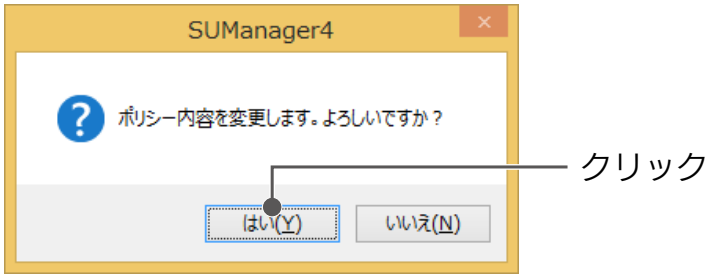
ポリシー名	直接入力し[設定]をクリックするとポリシー名を編集できます。 (全角半角の区別なしで1～32文字)
タブ選択	編集する機能のタブを選択します。
■ パスワード関連	SUGate4のログインパスワードに関する設定をします。
■ マスターコード	マスターコード機能に関する設定をします。
■ 使用OS制限	USBメモリーが動作するOSを設定します。
■ その他機能	パスワード以外のSUGate4機能に関する設定をします。
■ 領域サイズ変更	データ保存領域の容量に関する設定をします。

注　意

USB メモリーを Mac OS で使用する際、ご利用いただけないポリシーがあります

詳細は、表の [タブ選択] から、タブの名称をクリックしてご確認ください。

4 [はい]をクリックします。



以上で USB メモリーポリシーの設定は完了です。

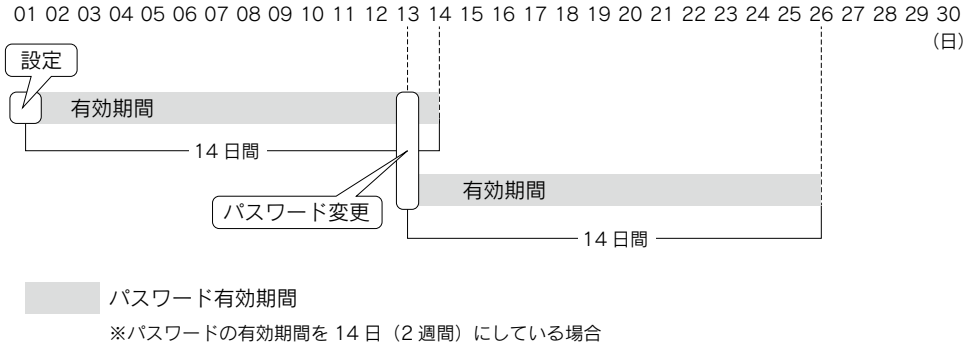
■ パスワード関連

SUGate4 のログインパスワードに関して設定します。



パスワード関連	SUGate4のログインパスワードに関する規則を設定します。 ※SUGate4のパスワード変更や初期化時にも本設定内容が適用されます。
初回起動時強制パスワード設定	SUGate4の初回起動時（初期化直後）にユーザーが自身でパスワード設定をするかどうかを設定します。 ON：ユーザーが自身でパスワード設定をします。 OFF：管理者がSUManager4で初期化する際に設定したパスワードが初期パスワードとして設定されます。
ヒント表示	ON：パスワード入力時にヒントを表示します。 OFF：パスワード入力時にヒントを非表示にします。
パスワード変更	ON：ユーザーは自由にパスワード変更をできます。 OFF：ユーザーはパスワード変更ができません。SUManager4でのみ変更可能です。
最小文字数	パスワードとして設定できる最小文字数を1～16文字の間で設定します。
文字制限 ［パスワード文字制限有効］	パスワードに使用できる文字を制限します。 有効にすると、それぞれ設定した分の文字数を必ずパスワードに含める必要があります。 ABCD：半角/英字/大文字で0～16文字まで設定可能 abcd：半角/英字/小文字で0～16文字まで設定可能 1234：半角/数字で0～16文字まで設定可能 #$%&：半角/記号で0～16文字まで設定可能 使用可能な文字 ⇒ !"#$%&' ()+,-./:;<=>?@[]^_`{|}~ （参考） 最小文字数：8、ABCD：1、abcd：1、1234：2、#$%&：1 の場合 （残り3文字は任意の文字を設定） パスワード例：12A34b5#
パスワード連続ミス可能回数	1～100の間で設定できます。 設定した回数パスワード入力ミスをするとロックがかかり、USBメモリーにログインまたはパスワード変更ができなくなります。
ヒントへのパスワード文字列設定禁止	ON：ヒントにパスワードと同じ文字列またはパスワードを含む文字列を設定できないようにします。 OFF：ヒントへは任意の文字列を設定できます。（ヒントにパスワードと同じ文字列を設定すると、第三者が容易にパスワードを類推できます） （参考） パスワード『rose』の場合の、ヒントの内容 OK：パスワードは花の名前です。 NG：パスワードはroseです。
連続して同じパスワードの設定禁止	ON：パスワードを変更する際、前回と同じパスワードを設定できないようにします。 OFF：パスワードを変更する際、任意の文字列を設定できます。

<table>
<tr><td>パスワード有効期限（日数）</td><td>パスワードの有効期限を、0～36500日の間で設定します。
※0の場合、無期限になります。
※有効期限の基準日は、SUGate4で初回起動時のパスワードを設定した日となります。
初回起動時強制パスワード設定を[OFF]にしている場合は、初期化した日となります。
※有効期限が過ぎた場合、パスワード変更が必要となります。設定したUSBメモリーポリシー（パスワード変更の[ON]/[OFF]）に従い、SUGate4起動時またはSUManager4にてパスワードを変更してください。

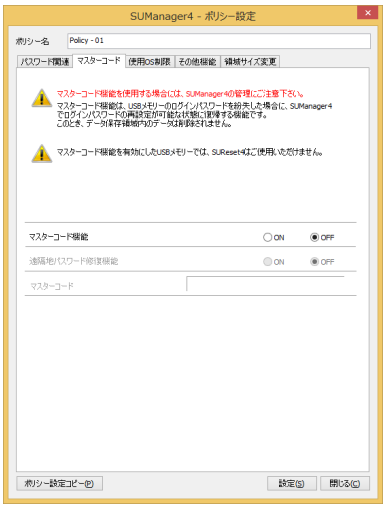
（参考）
有効期限内にパスワードを変更した場合（例：有効期限を14日に設定したが、13日にパスワードを変更した場合）、再度パスワードを変更した日を基準に再設定されます。


※パスワードの有効期間を 14 日（2 週間）にしている場合</td></tr>
<tr><td>累積パスワードミス回数の警告</td><td>パスワードを累積100回連続でミスすると、USBメモリーの初期化が必要となります。
設定した回数前にSUGate4で警告メッセージを表示します。1～99の間で設定します。</td></tr>
<tr><td>パスワードミスロックの遠隔解除（※1）
【パスワードロック解除承認コードを発行する】（69ページ）</td><td><table>
<tr><td>ON</td><td>パスワード連続ミス回数が規定回数に達してもSUManager4から発行する『解除承認コード』を入力することで、ユーザーがミス回数をリセット（パスワードミスロック解除）できます。</td></tr>
<tr><td>OFF</td><td>遠隔解除機能を無効にします。
パスワードミスロックしたUSBメモリーはSUManager4で解除します。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

※1：[ON]に設定しても、Mac OSでは本機能をご利用いただけません。

■ マスターコード

マスターコード機能に関して設定します。
ユーザーが SUGate4 のログインパスワードを忘れた場合、パスワードをロックしてしまった場合、データ保存領域内のファイルを削除せずにパスワードを再設定できる機能です。
(【パスワードを修復する】(50 ページ)、【パスワード修復承認コードを発行する】(72 ページ) 参照)



マスターコード	
マスターコード機能	ON: USBメモリーにパスワードロックがかかった場合、データ保存領域内のファイルを削除せずに、パスワードを再設定できます。 OFF: USBメモリーにパスワードロックがかかった時は、SUManager4でのパスワードミス回数のリセットのほか、SUManager4から出力したSUReset4を利用してパスワードを再設定します。(データ保存領域内のファイルは削除されます) ⇒【パスワードの連続ミス回数をリセットする】(48ページ) ⇒【SUReset4について】(75ページ) ※マスターコード機能を有効にしたUSBメモリーでは、SUManager4で生成される初期化アプリケーション「SUReset4」は使用できません。
遠隔地パスワード修復機能(※1) 【パスワード修復承認コードを発行する】(72ページ)	ON: 遠隔地にいるユーザーのUSBメモリーがパスワードロックしてしまった場合、パスワード修復コードを使用してパスワードを再設定することができます。 再設定手順は【パスワード修復承認コードを発行する】(72ページ)を参照してください。 ※【パスワードを修復する】(50ページ)も使用できます。 OFF: USBメモリーにパスワードロックがかかった時は、SUManager4で[パスワード修復]をしてください。 ⇒【パスワードを修復する】(50ページ)
マスターコード	マスターコード機能を使う際に必ず設定が必要です。 【SUManager4の情報を確認する】(39ページ)で設定してください。

※1:[ON]に設定しても、Mac OSでは本機能をご利用いただけません。

■ 使用 OS 制限

USB メモリーが動作する OS を設定します。



使用OS制限	
使用OS制限	ON　チェックをつけたOSで動作します。 OFF　USBメモリーが対応しているOSすべてで動作します。
バージョン情報直接指定	USBメモリーが動作するOSのバージョン情報を直接指定できます。 指定する場合は、□にチェックを付け、以下を指定します。 Windows：Major/Minor/Build/PlatformIDの各値 Mac OS：Major/Minor/Bugfixの各値 ※空欄の場合は、制限が指定されません。

■ その他機能

パスワード、マスターコード、使用 OS 制限以外の SUGate4 の機能に関して設定します。

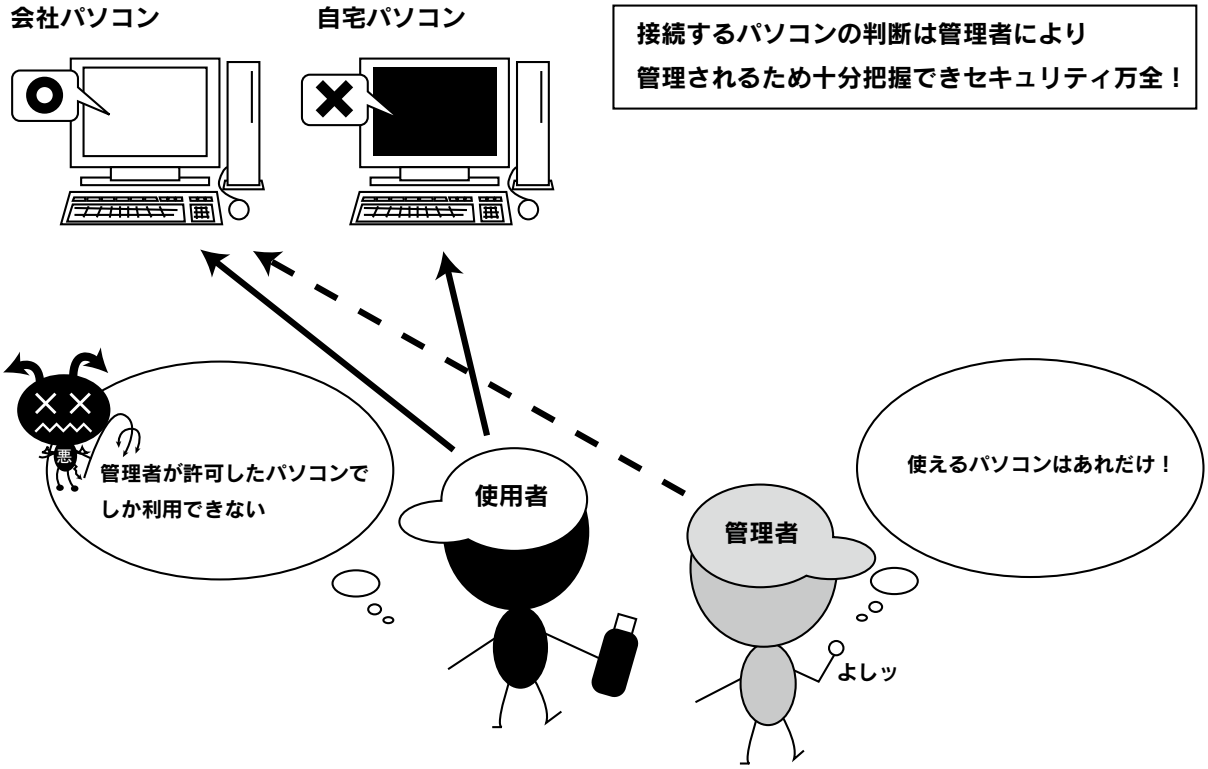


その他機能	
PC識別(※1,2) 【PC識別する】(54ページ)	SUManager4で許可したパソコンでのみUSBメモリーが使えるようになります。 重要なUSBメモリーなどを使用する場面に適しています。 ただし、管理者がUSBメモリーに対する設定をする必要があります。 ON：USBメモリーが動作するパソコンを限定することができます。 OFF：対応OSを満たしていればどのパソコンでもUSBメモリーを使用できます。
簡易PC識別(※1,2) 【簡易PC識別(CK-SetInfo)について】(79ページ)	PC識別とは異なり、パソコンの情報を収集、登録することなく使用したいパソコンの設定ができます。本機能を[ON]にして初期化したUSBメモリーはSUManager4から生成したCK-SetInfoを実行したパソコンでのみUSBメモリーが使えるようになります。 ON：CK-SetInfoを実行したパソコンでUSBメモリーが使用できるようにします。 OFF：対応OSを満たしていればどのパソコンでもUSBメモリーを使用できます。
Autorun.inf自動削除	USBメモリーログイン時にデータ保存領域内の「Autorun.inf」を自動で削除する機能です。 ※Autorunウイルスなどの動作を必ず防止できる機能ではありません。 ON：Autorun.infを自動的に削除します。 ※Autorun.infに設定されている動作をOSが実行する前に削除できるとは限りません。 OFF：Autorun.infを削除しません。
ログイン後ファイル自動実行(※1)	ログイン後に指定したファイルを実行します。 ５つまで指定できます。 実行ファイル形式や、JPEGファイルなどの画像ファイルも指定できます。また、URLを指定してログイン時にWebサイトを開くこともできます。 ※Windowsでファイルを開くアプリケーションが関連づけされている必要があります。
ウイルスチェック(※1,3) (ED-SV4シリーズのみ)	USBメモリーログイン時にウイルスチェックをする機能です。 ON：データ保存領域内のファイルのウイルスチェックをします。 OFF：データ保存領域内のファイルのウイルスチェックをしません。
MacOS ログイン許可 (ED-SV4シリーズのみ)	ウイルスチェック機能が利用できない環境(Mac OS等)でもログイン操作を許可する機能です。 ON：ログイン操作を許可します。 ただし、Mac OSではウイルスチェック機能は利用できません。 OFF：ログイン操作を許可しません。
LanScope Cat監視(※1) (ED-S4/MOTシリーズのみ)	"LanScope Cat"の動作を監視します。 ON："LanScope Cat"非動作環境ではUSBメモリーを使用することができません。 OFF："LanScope Cat"の動作に関係なくUSBメモリーを使用できます。

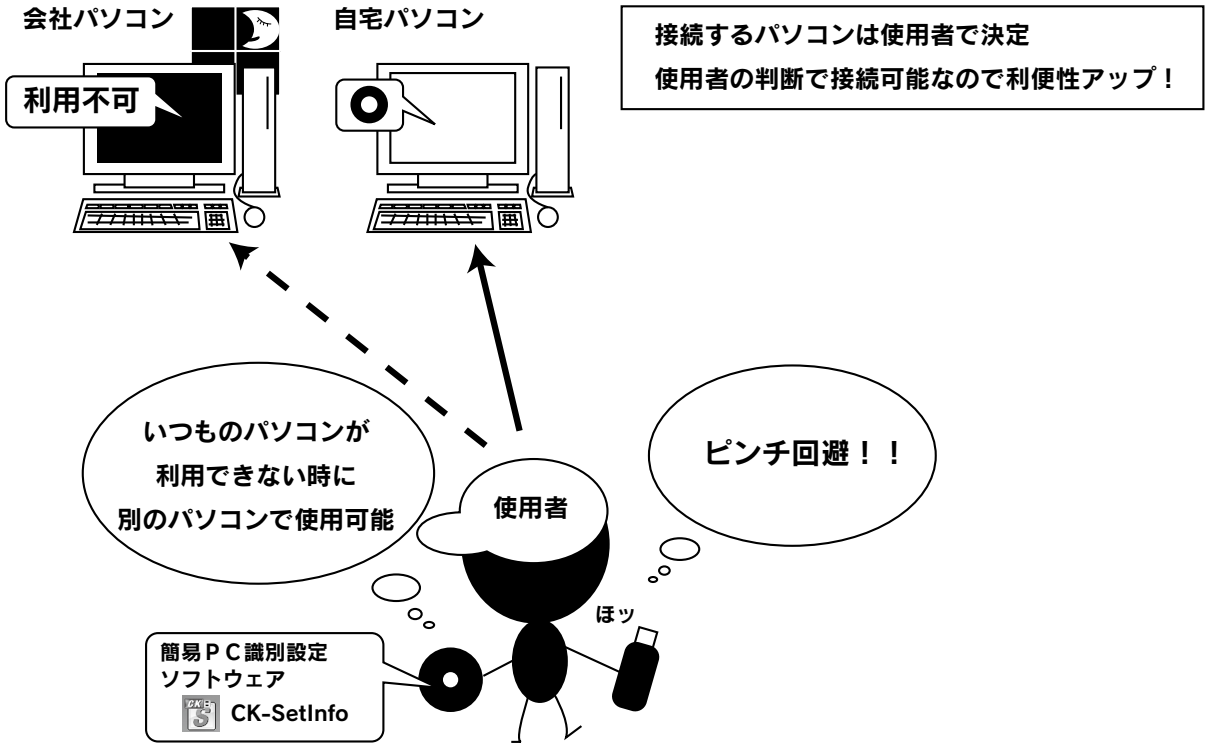
※1：[ON]に設定しても、Mac OSでは本機能をご利用いただけません。
※2：PC識別と簡易PC識別を両方[ON]にした場合、USBメモリーを使用するには両方設定する必要があります。
※3：USBメモリーをMac OSで使用する場合は、以下のうちいずれかの設定をしてください。
・[ウイルスチェック]を[OFF]に設定する
・「MacOS ログイン許可」を[ON]に設定する

「PC 識別」と「簡易 PC 識別」の違い

▼ PC 識別



▼簡易 PC 識別



■ 領域サイズ変更

ユーザーが使用できる USB メモリーの容量を制限します。
ユーザーに最低限の容量のみを使わせたい場合などに設定します。



領域サイズ変更	ユーザーが使用できるUSBメモリーの容量を制限します。	
データ保存領域サイズ変更	ON	スライダーを動かし、データ保存領域のサイズを制限します。 スライダーを動かすと設定した容量の目安が表示されます。 ※最小値はED-S4シリーズは16MB、ED-SV4シリーズはウイルスパターンファイルを保存する領域が必要なため267MBです。
	OFF	データ保存領域は購入時の容量で使用します。

※データ保存領域とはデータの読み書きができる領域です。
　詳しくはUSBメモリーの画面で見るマニュアルをご覧ください。

■ 編集中のポリシーに別のポリシーの設定をコピーする

編集中のポリシーに、別のポリシーの設定内容をコピーできます。
※編集中の設定内容に上書きされます。
※ポリシー名はコピーされません。

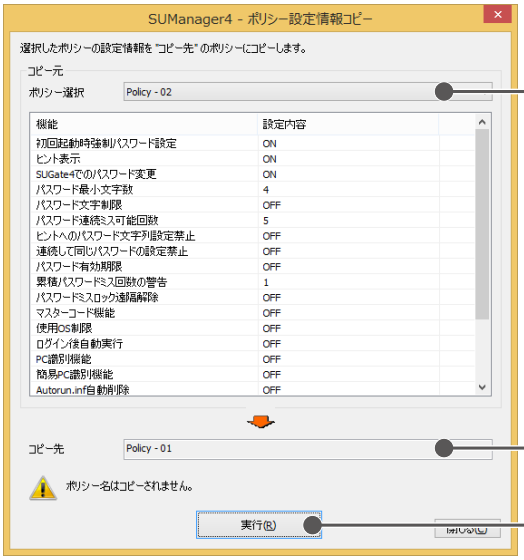
以下は例として、[Policy - 02] の設定内容を [Policy - 01] にコピーします。

1 [ポリシー設定コピー]をクリックします。



クリック

2 コピー元のポリシーを選択し、実行します。

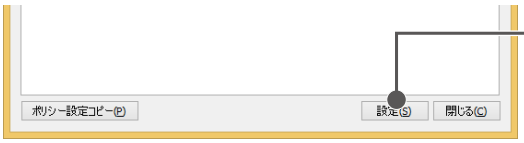


①コピー元のポリシーを選択

②コピー先のポリシーを確認

③[実行]をクリック

3 [設定]をクリックします。



クリック

■ USB メモリーポリシーの設定例

設定例 1 (26 ページ)　：配布用に仮パスワードを設定し、ユーザーにパスワード設定をさせたい場合

設定例 2 (27 ページ)　：管理する USB メモリーのパスワードを固定したい場合

設定例 3 (28 ページ)　：データ保存領域の容量と使用可能なパソコンを制限したい
かつ、パスワードロック時はユーザー側で解除可能にしたい場合

設定例 4 (29 ページ)　：パスワードを忘れた時でも初期化しないで保存しているデータを取り出したい場合
※通常よりセキュリティは弱くなります。

設定例 1：配布用に仮パスワードを設定し、ユーザーにパスワードを設定させたい場合

設定する内容

項目	値
初回起動時強制パスワード設定	OFF※
パスワード変更	ON

※ 管理者で初期化時に設定したパスワードを管理しておく必要があります。

同時に、[ヒントへのパスワード文字列設定禁止]、[連続して同じパスワードの設定禁止]、[ヒント表示] を [ON] に設定すると、ユーザーがパスワードを変更する際に、仮パスワードで設定した文字列が使用できません。
また、ヒントにもパスワード文字列を設定できませんので、パスワード漏洩を防げます。



設定例 2：管理する USB メモリーのパスワードを固定したい場合

設定する内容

項目	値
初回起動時強制パスワード設定	OFF※
パスワード変更	OFF

※ 管理者で初期化時に設定したパスワードを管理しておく必要があります。

SUGate4 の初回起動時（初期化直後）、パスワード入力画面が表示されます。
ログインパスワードは、SUManager4 で USB メモリーを初期化する際に設定します。
また、SUGate4 アイコンを右クリックしても、パスワード変更メニューは表示されません。
パスワードを変更したい場合は、管理者が SUManager4 でパスワードを変更します。



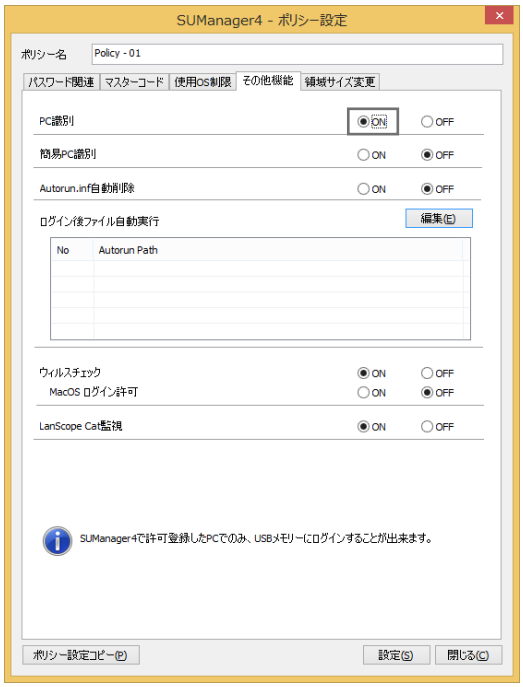
設定例 3：データ保存領域の容量と使用可能なパソコンを制限したい かつ、パスワードロック時はユーザー側で解除可能にしたい場合

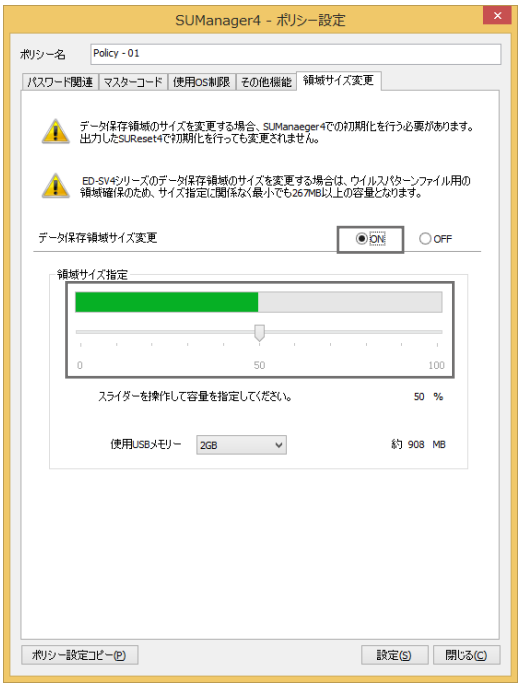
設定する内容

項目	値
累計パスワードミス回数の警告	任意の値に設定※1
パスワード変更	ON
PC識別	ON
データ保存領域サイズ変更	ON※2

※1 100- 設定した（値）回数の時にパスワードミスをすると警告画面が表示されます。
※2 容量は任意に設定してください。





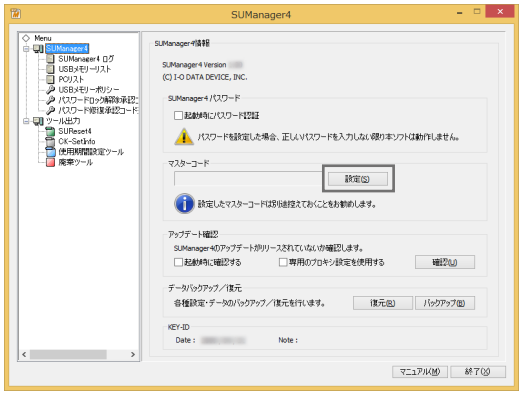


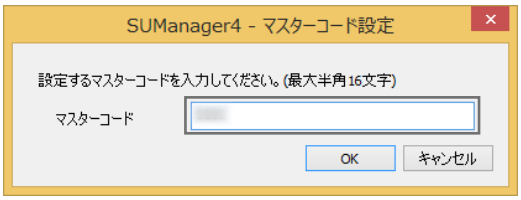
設定例 4：パスワードを忘れた時でも初期化しないで保存しているデータを取り出したい場合

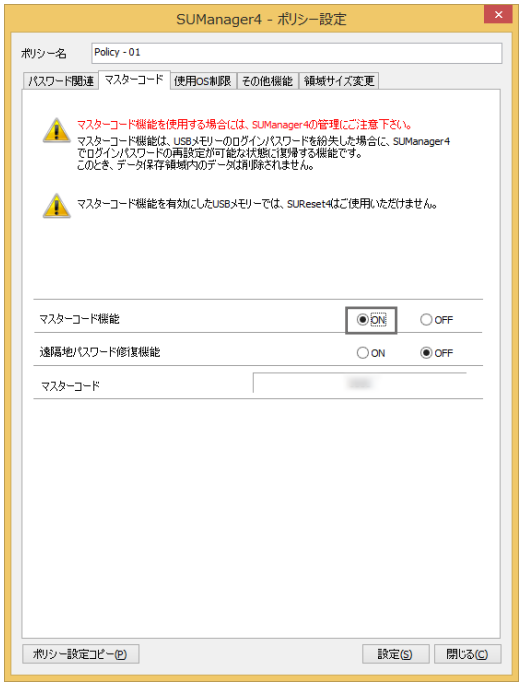
設定する内容

項目	値
マスターコード機能	ON

※マスターコード機能を [ON] にした場合、初回起動時強制パスワード設定は強制的に [ON] になります。







USB メモリーを初期化する

USB メモリーを初期化します。
SUManager4 で USB メモリーを初期化した後に、初めて SUManager4 のすべての機能を利用することができます。
※初期化後は自動的に取り外し処理されます。挿しなおすことで、機能を使用できます。

注　意

- **必要なデータがある場合は、あらかじめ USB メモリー内のデータのバックアップをしてください**
  初期化すると、データ保存領域のデータはすべて消去されます。必要なデータがある場合は、初期化の前にデータを別のメディア（DVD やハードディスク）にコピーするなどして、バックアップをしてください。
- **USB メモリーの設定は初期化時に選択したポリシーに変更されます**
  初期化前の設定状態は保持されません。
- **SUManager4 で初期化した USB メモリーは、USB メモリー添付の初期化ソフトウェア「SUReset4」では初期化できません**
  SUManager4 から出力した「SUReset4」を利用してください。
  ⇒【SUReset4 について】（75 ページ）参照

1 SUManager4を起動します。

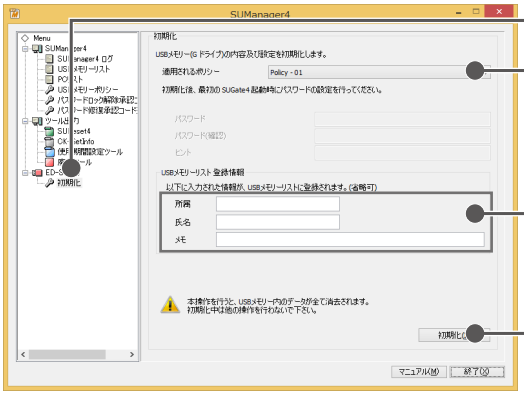
ヒント

まだ USB メモリーを接続しないでください

SUGate4 が動作しているとSUManager4 は起動しません。USB メモリーを取り外してください。

2 USBメモリーをパソコンのUSBポートに接続します。

3 ポリシーを選択し、初期化します。

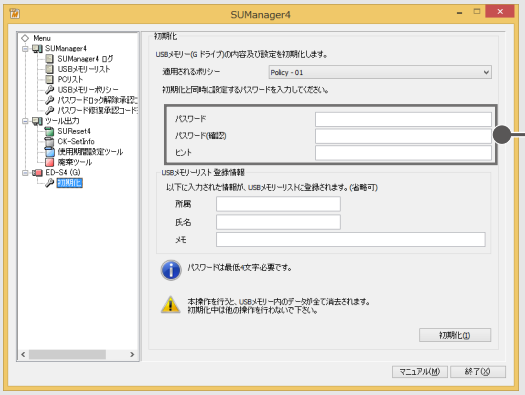


①[初期化]をクリック
②適用するポリシーを選択
③[USBメモリーリスト登録情報]を任意で入力
※入力した内容は[USBメモリーリスト]画面に表示されます。
④[初期化]をクリック

ヒント

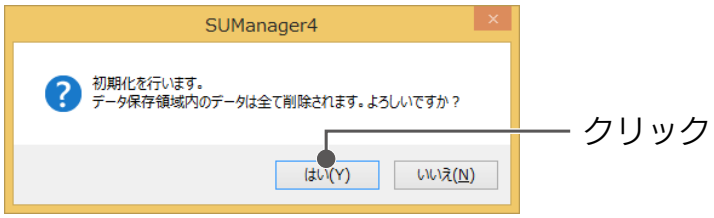
選択したポリシーが「初回起動時強制パスワード設定」を[OFF]にしている場合

初期化と同時に、パスワードとヒント（任意）を設定します。



パスワード	パスワードとして設定する文字列を入力します。 （設定可能な文字や文字数は、設定したUSBメモリーポリシーにより異なります） ※大文字・小文字は区別されます。
パスワード（確認）	[パスワード]と同じ文字列を入力します。
ヒント	ヒントとして設定する文字列を入力します。（最大64文字） ※文字数に半角・全角の区別はありません。 ※適用されるUSBメモリーポリシーで[ヒント表示]が[ON]の場合のみ、設定が可能です。

4 確認画面が表示されるので、[はい]をクリックします。

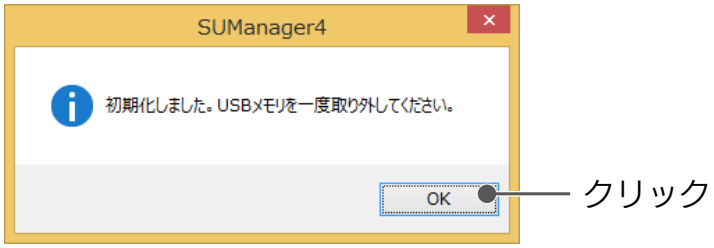


⇒初期化が始まります。

注　意

- **初期化中、USBメモリーを取り外したり、他の操作をしないでください**
- **許可 PC 情報や、操作ログが多数保存されている USB メモリーを初期化する場合は、処理に時間がかかることがあります**

5 [OK]をクリックします。



6 USBメモリーをパソコンから取り外します。

※OSの取り外し処理は不要です。そのまま取り外してください。
　USBメモリーを使用する場合はSUManager4を終了した後、挿しなおしてください。

以上で、USB メモリーの初期化は完了です。

■ 一括初期化する

複数の USB メモリーを最大 4 本まで一度に初期化することができます。

1 SUManager4を起動します。

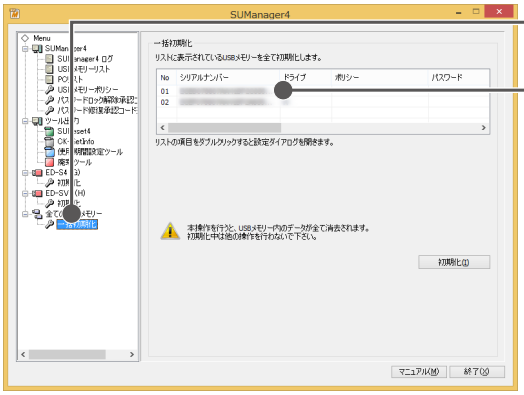
ヒント

まだ USB メモリーを接続しないでください

SUGate4 が動作していると SUManager4 は起動しません。USB メモリーを取り外してください。

2 USBメモリーを2～4本、パソコンのUSBポートに接続します。

3 初期化するUSBメモリーを選択します。



①[一括初期化]をクリック

②USBメモリーをダブルクリック

4 適用するポリシーを選択します。



①適用するポリシーを選択

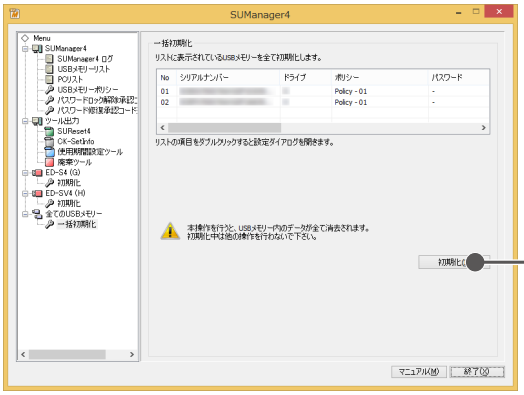
②[USBメモリーリスト登録情報]を任意で入力
※入力した内容は[USBメモリーリスト]画面に表示されます。

③全て同じ設定にする場合はチェック

④[OK]をクリック

※個別にポリシーを設定する場合は、手順 3 4 を繰り返してください。

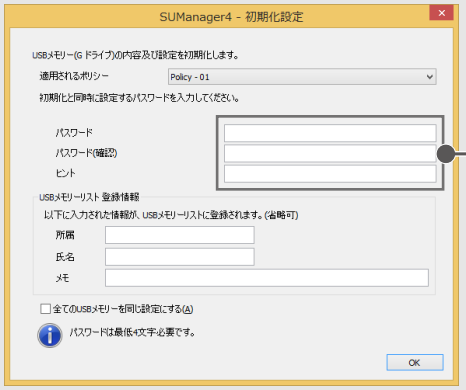
5 [初期化]をクリックします。



ヒント

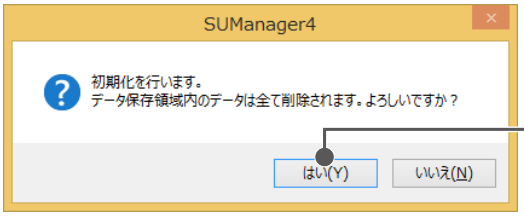
選択したポリシーが「初回起動時強制パスワード設定」を[OFF]にしている場合

一括初期化と同時に、パスワードとヒント（任意）を設定します。



パスワード	パスワードとして設定する文字列を入力します。 （設定可能な文字や文字数は、設定したUSBメモリーポリシーにより異なります） ※大文字・小文字は区別されます。
パスワード（確認）	[パスワード]と同じ文字列を入力します。
ヒント	ヒントとして設定する文字列を入力します。（最大64文字） ※文字数に半角・全角の区別はありません。 ※適用されるUSBメモリーポリシーで[ヒント表示]が[ON]の場合のみ、設定が可能です。

6 確認画面が表示されるので、[はい]をクリックします。

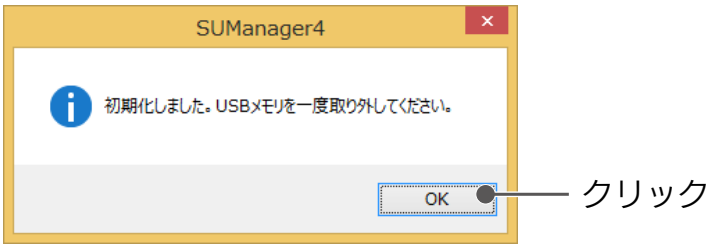


⇒初期化が始まります。

注　意

- **初期化中、USBメモリーを取り外したり、他の操作をしないでください**
- **許可 PC 情報や、操作ログが多数保存されている USB メモリーを初期化する場合は、処理に時間がかかることがあります**

7 [OK]をクリックします。



8 USBメモリーをパソコンから取り外します。

※OSの取り外し処理は不要です。そのまま取り外してください。
USBメモリーを使用する場合はSUManager4を終了した後、挿しなおしてください。

以上で、USB メモリーの初期化は完了です。

機能を使う

機能から探す

<SUManager4 関連>

SUManager4 のメイン画面について 37 ページ

SUManager4 の情報を確認する 39 ページ

SUManager4 の操作ログを表示する 42 ページ

<USB メモリー関連>

USB メモリー操作ログを確認する 44 ページ

パスワードを変更する 46 ページ

パスワードの連続ミス回数をリセットする 48 ページ

パスワードを修復する 50 ページ

書き込み禁止にする 52 ページ

初期化した USB メモリーの情報を確認する 53 ページ

PC 識別する 54 ページ

パスワードロック解除承認コードを発行する 69 ページ

パスワード修復承認コードを発行する 72 ページ

<ツール関連>

SUReset4 について 75 ページ

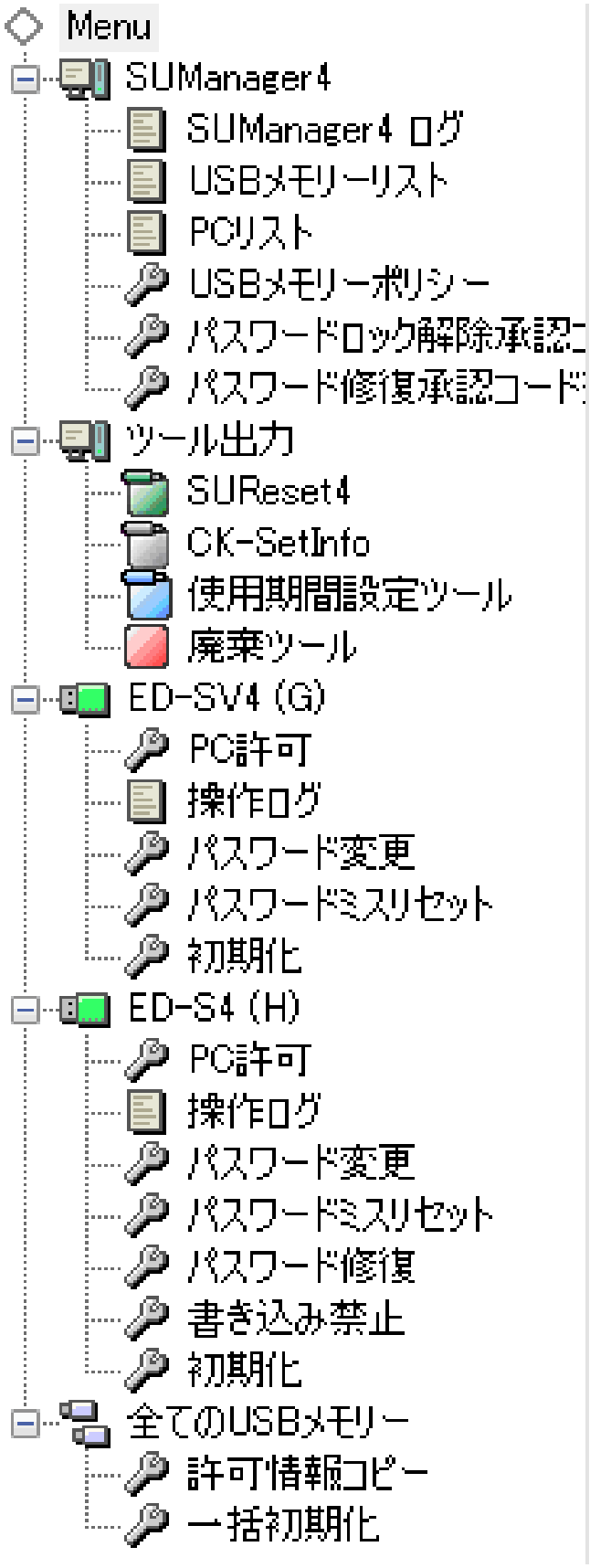
簡易 PC 識別（CK-SetInfo）について 79 ページ

使用期間設定ツールについて 83 ページ

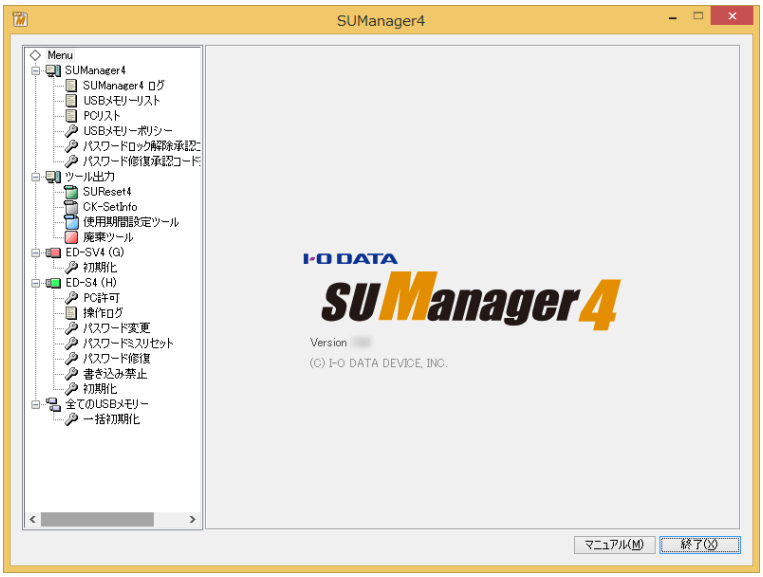
廃棄ツールについて 87 ページ

画面から探す

各メニューの上にマウスを合わせクリックすると、該当のページに移動します。



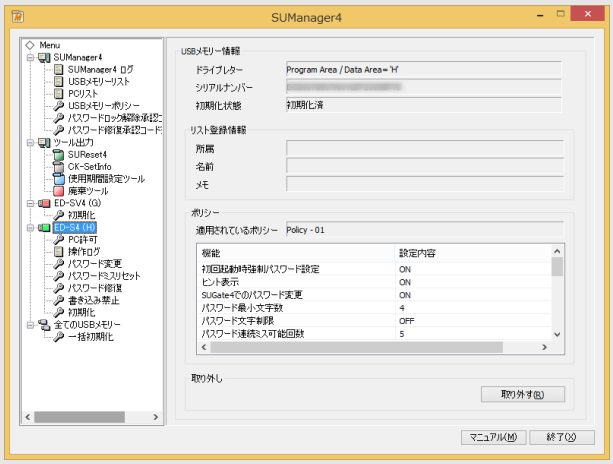
SUManager4 のメイン画面について



SUManager4	SUManager4の情報を表示します。
SUManager4ログ	SUManager4の操作ログを表示します。
USBメモリーリスト	初期化したUSBメモリーの情報を表示/編集します。
PCリスト	SUManager4が保持またはUSBメモリーが保有している許可PCおよび、許可候補PCのリストを表示します。また、SUGetInfoAG.exeを利用して収集したPC情報を読み込み表示することもできます。
USBメモリーポリシー	SUGate4の動作ポリシーを表示/編集します。
パスワードロック解除承認コード	SUManager4で初期化したUSBメモリー用のパスワードロックを解除するコードを出力します。
パスワード修復承認コード	SUManager4で初期化したUSBメモリー用のパスワード再設定用のコードを出力します。
ツール出力	SUManager4で初期化したUSBメモリーで使用するツールを出力する。
SUReset4	SUManager4で初期化したUSBメモリー用のSUReset4を出力します。
CK-SetInfo	簡易PC識別機能を利用時に使用する設定ツールCK-SetInfoを出力します。
使用期間設定ツール	SUManager4で初期化したUSBメモリー用の使用期間設定ツールを出力します。
廃棄ツール	SUManager4で初期化したUSBメモリー用の廃棄ツールを出力します。
製品名	装着されているUSBメモリーの情報を表示します。 ※USBメモリーが接続されているときのみ表示されます。
PC許可	収集したパソコン情報から、使いたいパソコンでの使用を許可します。([PC識別]機能が[ON]のときのみ表示)
操作ログ	SUGate4の操作ログを表示します。
パスワード変更	SUGate4のログインパスワードを変更します。
パスワードミスリセット	SUGate4のログインパスワード連続ミス回数をリセットします。
パスワード修復	データ保存領域内にあるデータを削除せずにパスワードを再設定できます。([マスターコード]機能が[ON]のときのみ表示)
書き込み禁止	USBメモリーを書き込みできないよう設定します。([ウイルスチェック]機能が[ON]の場合は使用できません)
初期化	USBメモリーを初期化します。
全てのUSBメモリー	USBメモリーが2本以上接続されている場合のみ表示します。
許可情報コピー	許可PCと許可候補PC情報をコピーできます。 ([PC識別]機能を[ON]にした複数のUSBメモリーを接続しているときのみ表示)
一括初期化	接続している全てのUSBメモリーを初期化します。

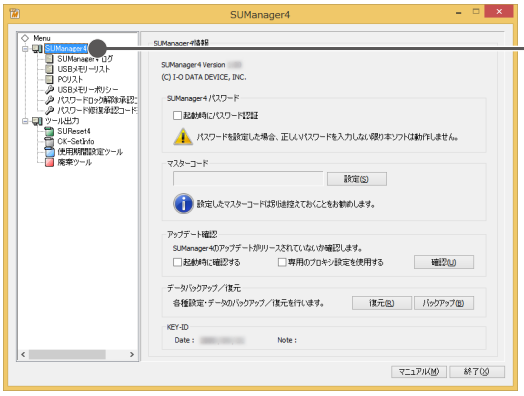
ヒント

USB メモリーが装着されている場合、その USB メモリーの情報が表示されます



USBメモリー情報	接続されているUSBメモリーの情報を表示します。
ドライブレター	USBメモリー本体のドライブ文字(番号)が表示されます。
シリアルナンバー	接続されているUSBメモリーのシリアルナンバーを表示します。 ※USBメモリーに貼られているハードウェアシリアル番号(S/N)ではなく、USBメモリー自体の個別情報です。
リスト登録情報	USBメモリーの初期化時にリスト登録情報に設定した内容が表示されます。
ポリシー	USBメモリーの初期化時に適用したポリシーの設定内容が表示されます。
取り外す	クリックするとUSBメモリーをパソコンから取り外します。

SUManager4 の情報を確認する



画面について説明します。

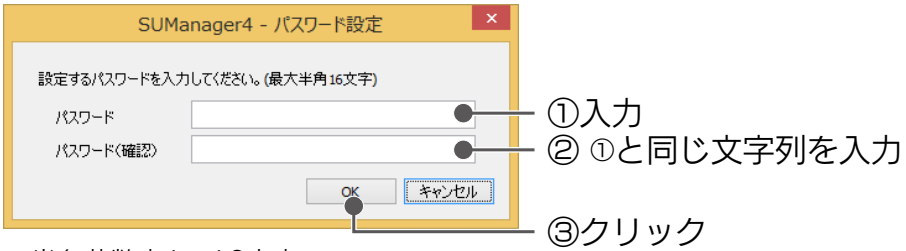
■ SUManager4 パスワード

SUManager4 の起動に、パスワードロックをかけることができます。設定すると次回の SUManager4 起動時から、パスワード入力が必要になります。

> **注　意**
>
> **パスワードを忘れた場合、SUManager4 を起動できません**
>
> SUManager4 をアンインストールし、再インストールする必要があります。

▼設定方法

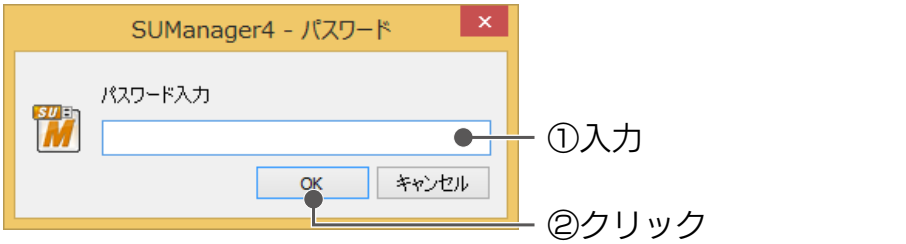
1. **[起動時にパスワード認証]にチェックします。**
2. **パスワードを設定します。**



※半角英数字1～16文字
※大文字、小文字は区別されます。
※使用できる半角記号は　!"#$%&' ()+,-./:;<=>?@[]^_`{|}~

▼解除方法

1. **[起動時にパスワード認証]のチェックを外します。**
2. **設定しているパスワードを入力します。**



■ マスターコード

「マスターコード機能」を使うときに設定が必要です。
任意の文字列を半角 16 文字以内で入力してください。
※「マスターコード機能」を使わないときは、設定不要です。

注　意

マスターコードを設定後に変更した場合、「パスワード修復機能」「パスワードミスロック遠隔解除」等が利用できなくなります

「マスターコード機能」及び「パスワードミスロック遠隔解除」を利用する USB メモリーには、マスターコードに紐づく情報が埋め込まれるためです。
変更するときは十分ご注意ください。

■ アップデート確認

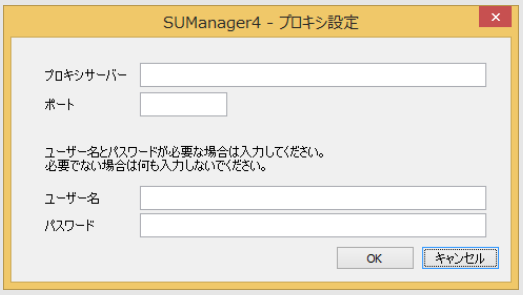
アップデート可能な最新のソフトウェアがないか確認します。
アップデートファイルが見つかった場合、ダウンロードするための Web サイトを開く案内画面が表示されます。
定期的なアップデートの確認をお勧めします。
※インターネット接続環境が必要です。

起動時に確認する	チェックすると、SUManager4の起動時に自動で確認します。
専用のプロキシ設定を使用する	専用のプロキシ設定が必要な場合は、チェックして、設定します。
確認	今すぐ手動で確認します。

ヒント

プロキシ設定をする

[専用のプロキシ設定を使用する] にチェックし、以下を設定します。



プロキシサーバー	プロキシサーバーのアドレスを入力します。
ポート	プロキシサーバーのポートを入力します。
ユーザー名	必要に応じて、プロキシにアクセスする際のユーザー名を入力します。
パスワード	必要に応じて、プロキシにアクセスする際のパスワードを入力します。

■ データバックアップ／復元

SUManager4 の各種設定・データファイルのバックアップ・復元ができます。
※復元は現在の設定内容に上書きされます。

必要に応じて、バックアップ・復元する情報を選択できます。(SUManager4 設定 / SUManager4 ログ /USB メモリーリスト /PC リスト / ポリシー)

注　意

バックアップ・復元する情報を選択する場合

「SUManager4 設定」と「ポリシー」には、KEY-ID 情報が含まれます。
そのため、「SUManager4 設定」を復元せずに「ポリシー」を復元することできません。
また、異なる KEY-ID を設定した SUManager4 で出力した「ポリシー」を復元することはできません。

ヒント

パソコンを入れ替える場合

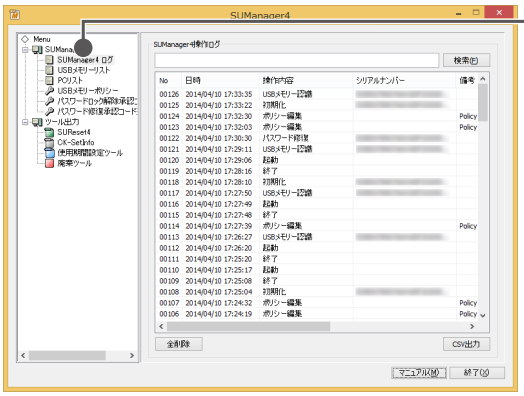
SUManager4 をインストールしているパソコンを入れ替える場合、本機能を利用すると環境を移行できます。
詳しくは【パソコンを入れ替える場合（環境移行する)】（113 ページ）をご覧ください。

■ KEY-ID

以下を表示します。
Date：KEY-ID の生成日
Note：KEY-ID 生成時に入力したメモ

SUManager4 の操作ログを表示する

保存可能なログは最大 10,000 件です。
10,000 件を超えた場合、最も古いログから順に上書きして保存されます。



操作ログ	
検索	入力した文字列をログの中から検索します。
日時	操作した日付･時間
操作内容	操作内容
シリアルナンバー	操作対象のUSBメモリーのシリアルナンバー ※USBメモリーに貼られているハードウェアシリアル番号(S/N)ではなく､USBメモリー自体の個別情報です。
備考	操作対象のパソコン情報等を表示
全削除	操作ログをすべて消去します。
CSV出力	CSVファイル形式で操作ログを出力します。

▼操作内容一覧

操作内容	
起動	SUManager4を起動した。
起動失敗 - パスワードミス	誤った起動パスワードを入力し､SUManager4の起動に失敗した。
終了	SUManager4を終了した。
USBメモリー認識	対象USBメモリーを認識した。
USBメモリー取り外し	対象USBメモリーが取り外された。
USBメモリーリストから削除	USBメモリーリストから選択したUSBメモリー情報を削除した。
USBメモリーリストをCSVファイルに保存	USBメモリーリストをCSV形式のファイルに保存した。
パスワード変更	対象USBメモリーのパスワードを変更した。
パスワード変更失敗	現在のパスワードに誤ったパスワードを指定した。
パスワード変更失敗 - ミス連続回数が制限値に到達	現在のパスワードに誤ったパスワードを設定し､既定ミス回数に達した。
パスワード変更失敗 - ミス連続回数が制限値に到達(2)	現在のパスワードに誤ったパスワードを指定し､最大累積ミス回数(100回)に達した。
許可設定	パソコンの許可設定をした。
許可候補設定	パソコンの許可候補設定をした。
PCリストに追加	PCリストにパソコン情報が追加された。
PCリストから削除	PCリストからパソコン情報を削除した。
パスワードロック解除承認コード発行	パスワードロック解除承認コードを発行した。

パスワードロック解除承認コード発行 - 失敗	パスワードロック解除コードの発行に失敗した。
パスワードミスリセット	対象USBメモリーのパスワードミス回数をリセットした。
パスワード修復	対象USBメモリーのパスワードを修復した。
パスワード修復 - 失敗	対象USBメモリーのパスワードの修復に失敗した。
書き込み禁止	データ保存領域を書き込み禁止状態にした。
書き込み許可	データ保存領域を書き込み可能状態にした。
初期化	対象USBメモリーを初期化した。
ポリシー編集	[USBメモリーポリシー]を編集した。
標準ポリシー変更	標準で表示されるポリシーを変更した。
SUReset4出力	SUReset4を出力した。
CK-SetInfo出力	CK-SetInfoを出力した。
使用期間設定ツール出力	使用期間設定ツールを出力した。
起動パスワード有効	SUManager4の起動パスワードを設定した。
起動パスワード無効	SUManager4の起動パスワードを解除した。
USBメモリー操作ログを削除	対象USBメモリーの操作ログを削除した。
USBメモリー操作ログをファイルに保存	対象USBメモリーの操作ログをファイルに保存した。
パスワード修復承認コード発行	パスワード修復承認コードを発行した。
パスワード修復承認コード発行 - 失敗	パスワード修復承認コードの発行に失敗した。
廃棄ツール出力	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールを出力した。
マスターコード 設定	マスターコードを設定･変更した。
アップデート 確認	アップデート有無を確認した。
アップデート 発見	新しいバージョンが公開されていることを発見した。
起動時にアップデート確認設定	SUManager4起動時のアップデート確認動作の設定をした。
プロキシ設定 変更	プロキシ設定を変更した。
バックアップ 実行	各種データファイルをバックアップした。
復元 実行	各種データファイルを復元した。

USB メモリー操作ログを確認する

SUGate4 などの操作ログを確認します。
保存可能なログは最大 1,000 件です。
1,000 件を超えた場合、最も古いログから順に上書きして保存されます。

1 SUManager4を起動します。

ヒント

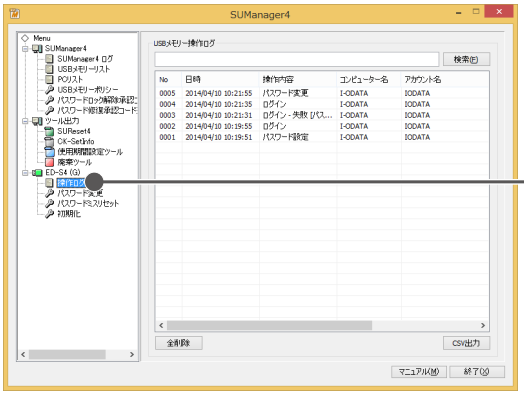
まだ USB メモリーを接続しないでください

SUGate4 が動作しているとSUManager4 は起動しません。USB メモリーを取り外してください。

2 USBメモリーをパソコンのUSBポートに接続します。

※初期化済みのUSBメモリーを接続してください。

3 [操作ログ]をクリックします。



操作ログ	
検索	入力した文字列をログの中から検索します。
日時	操作した日付･時間
操作内容	操作内容
コンピューター名	操作したコンピューター(パソコン)名 ※Mac OSでコンピューター名に日本語を使用している場合、ローマ字に変換して表示されます。
アカウント名	利用者(ユーザー名)
MAC	パソコンのＭＡＣアドレス
備考	操作したアプリケーション名を表示
全削除	操作ログをすべて消去します。
CSV出力	CSVファイル形式で操作ログを出力します。

▼操作内容一覧

操作内容	
ログイン	ログインした。
ログイン(書き込み禁止)	SUGate4にて「書き込み禁止」にチェックをつけた状態でログインした。
ログイン - 失敗	ログインに失敗した。
ログイン - 失敗 [パスワードミス]	誤ったパスワードでログインしようとした。
ログイン - 失敗[ミス連続回数が制限値に到達]	誤ったパスワードでログインしようとし、最大連続ミス回数に達した。

ログイン - 失敗[ミス連続回数が制限値に到達(2)]	誤ったパスワードでログインしようとし、最大累積ミス回数(100回)に達した。
パスワード変更	パスワード変更をした。
パスワード変更 - 失敗[パスワードミス]	現在のパスワードに誤ったパスワードを指定した。
パスワード変更 - 失敗[ミス連続回数が制限値に到達]	現在のパスワードに誤ったパスワードを指定し、最大連続ミス回数に達した。
パスワード変更 - 失敗[ミス連続回数が制限値に到達(2)]	現在のパスワードに誤ったパスワードを指定し、最大累積ミス回数(100回)に達した。
パスワード設定	SUGate4初回起動時のパスワードを設定した。
パスワード設定 - 失敗[ミス連続回数が制限値に到達]	現在のパスワードに誤ったパスワードを指定し、最大連続ミス回数に達した。
パスワード設定 - 失敗[ミス連続回数が制限値に到達(2)]	現在のパスワードに誤ったパスワードを指定し、最大累積ミス回数(100回)に達した。
パスワード修復申請コード発行	遠隔パスワード修復用の申請コードを発行した。
パスワードロック解除申請コード発行	遠隔ロック解除用の解除申請コードを発行した。
パスワード有効期限切れ	USBメモリーポリシーで設定したパスワード有効期限に達した。
パスワード修復	パスワード修復をした。
パスワード修復 - 失敗	パスワード修復に失敗した。
書き込み禁止	データ保存領域を書き込み禁止設定にした。
書き込み禁止 - 失敗	データ保存領域の書き込み禁止設定に失敗した。
書き込み許可	データ保存領域を書き込み可能状態にした。
書き込み許可 - 失敗	データ保存領域の書き込み許可に失敗した。
SUReset4実行	SUReset4で初期化した。
SUReset4 - 成功	SUReset4での初期化が正常に終了した。
SUReset4 - 失敗	SUReset4での初期化に失敗した。
パスワードミスリセット実行	SUManager4でパスワードミスリセットをした。
パスワードミスリセット - 失敗	パスワードミスリセットに失敗した。
承認コードによるパスワード修復 – 成功	パスワード修復承認コードによるパスワード修復処理に成功した。
承認コードによるパスワード修復 – 失敗 [承認コード不適合]	誤ったパスワード修復承認コードで、パスワード修復処理をしようとした。
承認コードによるパスワードロック解除 – 成功	パスワードロック解除承認コードによるパスワードロック解除処理に成功した。
承認コードによるパスワードロック解除– 失敗 [承認コード不適合]	誤ったパスワードロック解除承認コードで、パスワードロック解除処理をしようとした。
プログラム領域アップデート - 成功	プログラム領域をアップデートした。
プログラム領域アップデート - 失敗	プログラム領域のアップデートに失敗した。
プログラム領域アップデート - 発見	プログラム領域のアップデートが見つかった。
プログラム領域アップデート - キャンセル	プログラム領域のアップデートをキャンセルした。
TMUSBアクティベーション	TMUSBのアクティベーションをした。
TMUSBライセンス更新	TMUSBライセンスを更新した。
TMUSBライセンス更新- 失敗	TMUSBライセンスの更新に失敗した。
アップデート – 成功	別途提供するUSBメモリー用アップデーター等でアップデートした。
アップデート – 失敗	別途提供するUSBメモリー用アップデーター等でのアップデートに失敗した。
アップデート – 発見	アップデートを発見した。
その他アップデート	別途提供するその他のアップデーター等でアップデートした。
その他アップデート- 失敗	別途提供するその他のアップデーター等でのアップデートに失敗した。
使用期間制限 - 期間設定	使用期間設定ツールで、使用期間を設定した。
使用期間制限 - 使用開始	使用期間内で初めて利用した。
使用期間制限 - 期間超過	使用期間を超えて利用しようとした。
LanScope Cat未起動	LanScope Catが動作していない環境で、SUGate4を実行し、起動が制限された。

パスワードを変更する

SUManager4 で初期化した USB メモリーのパスワードおよびヒントを変更します。
パスワードおよびヒントを変更しても、USB メモリー内のデータは消去されません。
※パスワードを設定してない USB メモリーは、パスワード変更はできません。

注　意

以下の場合、パスワード変更はできません

・パスワードを忘れてしまったとき

・累積パスワードミス回数が 99 回に達したとき

SUManager4 で初期化が必要です。初期化するとデータ保存領域内のデータはすべて消去されます。
※ [マスターコード機能 (20 ページ)] を ON にしている場合、[パスワード修復機能 (50 ページ)] を使うことで、パスワードを再設定（実質パスワードの変更）できます。

1 SUManager4を起動します。

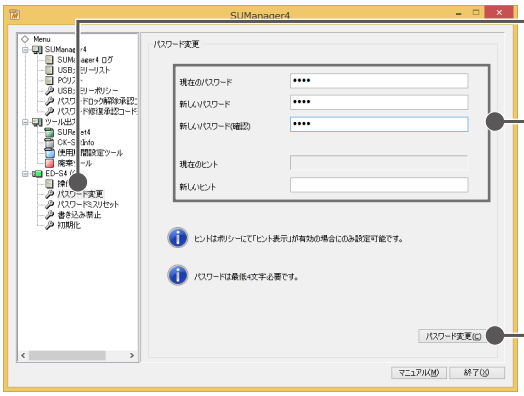
ヒント

まだ USB メモリーを接続しないでください

SUGate4 が動作しているとSUManager4 は起動しません。USB メモリーを取り外してください。

2 USBメモリーをパソコンのUSBポートに接続します。

3 パスワードを変更します。



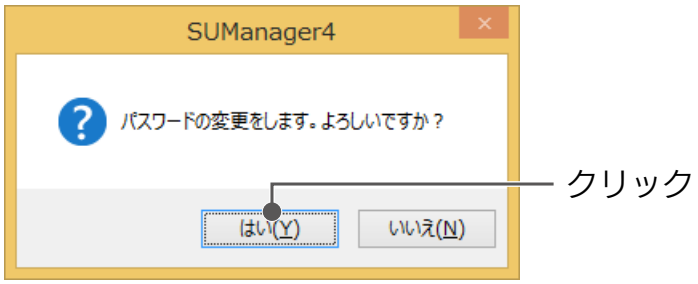
①[パスワード変更]をクリック

②入力

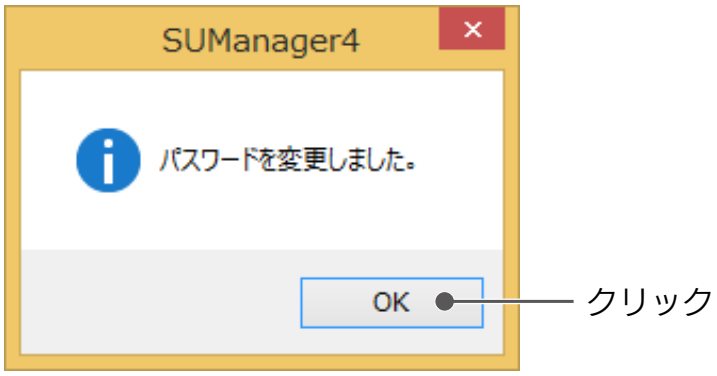
③[パスワード変更]をクリック

現在のパスワード	現在設定されているパスワードを入力します。 （設定可能な文字や文字数は、設定したUSBメモリーポリシーにより異なります。） ※大文字・小文字は区別されます。
新しいパスワード	新たにパスワードとして設定する文字列を入力します。 （設定可能な文字や文字数は、設定したUSBメモリーポリシーにより異なります。） ※大文字・小文字は区別されます。
新しいパスワード（確認）	「新しいパスワード」と同じ文字列を入力します。
現在のヒント	現在設定されているヒントを表示します。
ヒント	任意で、新たにヒントとして設定する文字列を入力します。 （最大64文字） ※文字数に半角・全角の区別はありません。 ※適用されるUSBメモリーポリシーで［ヒント表示］が[ON]の場合のみ、設定が可能です。

4 [はい]をクリックします。



5 [OK]をクリックします。



以上で、パスワード・ヒントの変更は完了です。

パスワードの連続ミス回数をリセットする

パスワード入力の連続ミス回数をリセットします。
ログインやパスワード変更時にパスワード入力を連続でミスして、USB メモリーにログインできなくなった場合に、このリセットにより再びログイン操作ができるようになります。(パスワードミス可能回数は設定した USB メモリーポリシーにより異なります)

1 SUManager4を起動します。

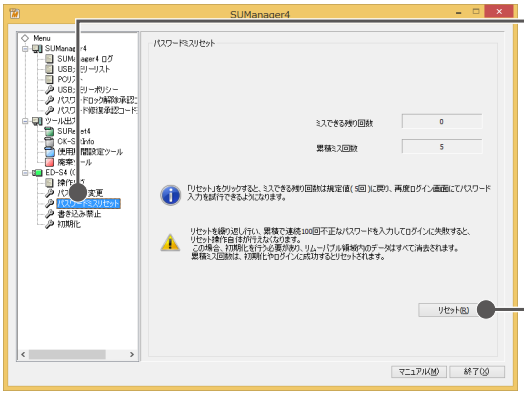
ヒント

まだ USB メモリーを接続しないでください

SUGate4 が動作しているとSUManager4 は起動しません。USB メモリーを取り外してください。

2 USBメモリーをパソコンのUSBポートに接続します。

3 パスワードミス回数をリセットします。



①[パスワードリセット]をクリック

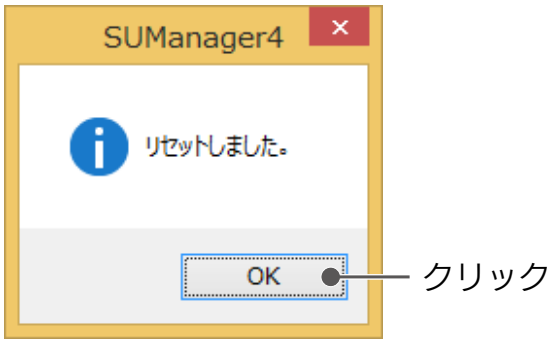
[リセット]をクリック

ミスできる残り回数	パスワードをミスできる残り回数。 ログインやパスワードの変更に成功、または初期化するとUSBメモリーポリシーで設定したパスワード連続ミス回数に戻ります。
累積ミス回数	累積のパスワードミス回数。 ログインやパスワードの変更に成功、または初期化すると"0"に戻ります。
リセット	パスワードの連続ミス回数をリセットします。 入力ミスを一回もしていない状態や累積ミス回数が100の状態ではリセットできません。

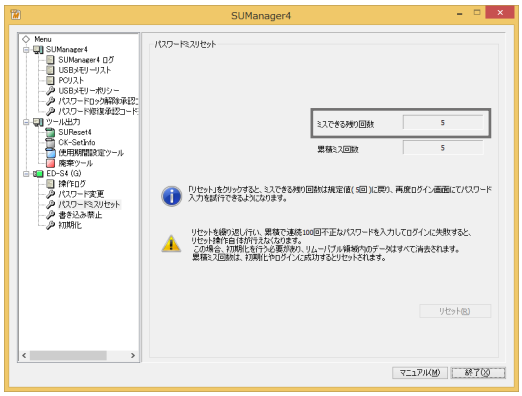
ヒント

連続で入力ミスをしても、一度ログインまたはパスワード変更ができれば、ミス回数は自動でリセットされます

4 [OK]をクリックします。



⇒ [ミスできる残り回数] が USB メモリーポリシーで設定したパスワード連続ミス回数に戻ります。



以上で、パスワードの連続ミス回数のリセットは完了です。

注　意

リセットを繰り返し、累積で連続 100 回パスワード入力ミスすると、リセット自体できなくなります

その場合、初期化する必要があり、データ保存領域内のデータはすべて消去されます。

パスワードを修復する

パスワードを忘れた場合などに、次回に接続した時に再設定するためのパスワード入力（再設定）画面を表示できるようにします。
パスワードおよびヒントを変更しても、USB メモリー内のデータは消えません。
※ USB メモリーポリシーで「マスターコード（20 ページ）」の項目をあらかじめ有効にしておく必要があります。

1 SUManager4を起動します。

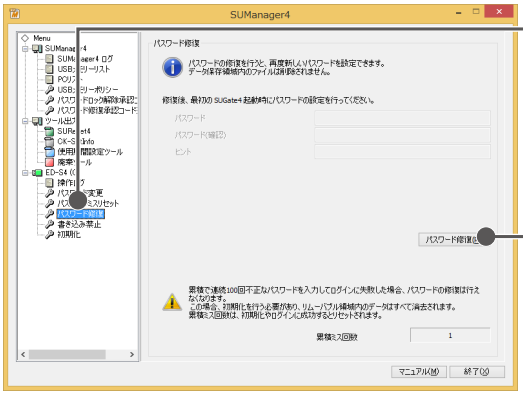
ヒント

まだ USB メモリーを接続しないでください

SUGate4 が動作しているとSUManager4 は起動しません。USB メモリーを取り外してください。

2 USBメモリーをパソコンのUSBポートに接続します。

3 パスワードを修復します。



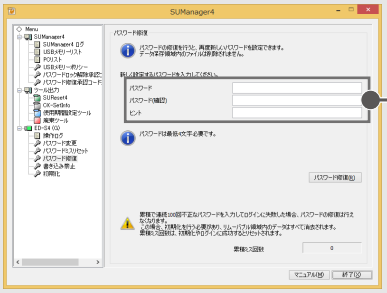
①[パスワード修復]をクリック

②[パスワード修復]をクリック

ヒント

USBメモリーに適用中のポリシーが、「初回起動時強制パスワード設定」を[OFF]になっている場合

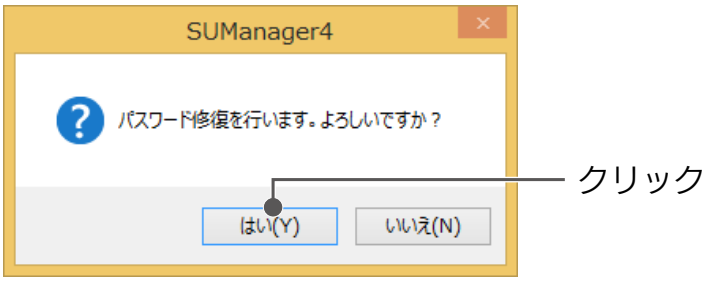
パスワードとヒント（任意）を設定します。



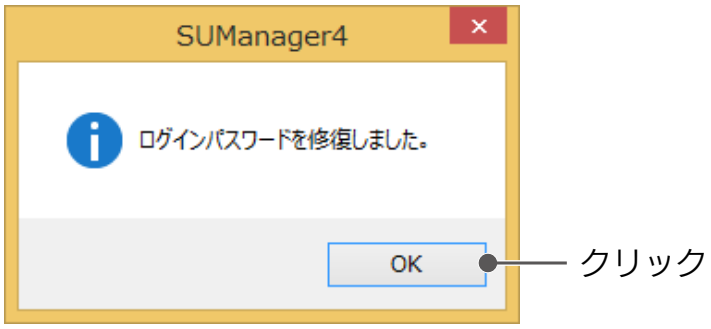
入力する

パスワード	パスワードとして設定する文字列を入力します。 （設定可能な文字や文字数は、設定したUSBメモリーポリシーにより異なります） ※大文字・小文字は区別されます。
パスワード（確認）	[パスワード]と同じ文字列を入力します。
ヒント	ヒントとして設定する文字列を入力します。（最大64文字） ※文字数に半角・全角の区別はありません。 ※適用されるUSBメモリーポリシーで[ヒント表示]が[ON]の場合のみ、設定が可能です。

4 [はい]をクリックします。



5 [OK]をクリックします。



以上で、パスワード修復は完了です。

注　意

累積で連続 100 回パスワード入力ミスすると、パスワード修復はできなくなります

その場合、初期化する必要があり、データ保存領域内のデータはすべて消去されます。

書き込み禁止にする

データ保存領域を書き込み禁止にすることができます。
※ ED-SV4 シリーズで［ウイルスチェック機能（22 ページ）］が [ON] の場合は、本機能をご使用いただけません。

1 SUManager4を起動します。

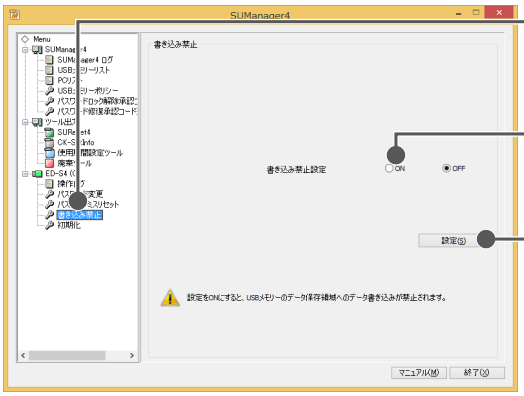
ヒント

まだ USB メモリーを接続しないでください

SUGate4 が動作しているとSUManager4 は起動しません。USB メモリーを取り外してください。

2 USBメモリーをパソコンのUSBポートに接続します。

3 書き込み禁止設定をします。



①[書き込み禁止]をクリック

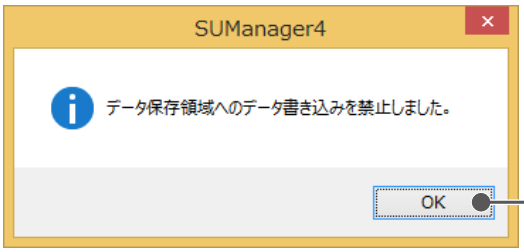
②[ON]にチェック

③[設定]をクリック

ヒント

書き込み禁止設定を解除する場合は、[OFF]にチェックをつけます

4 [OK]をクリックします。

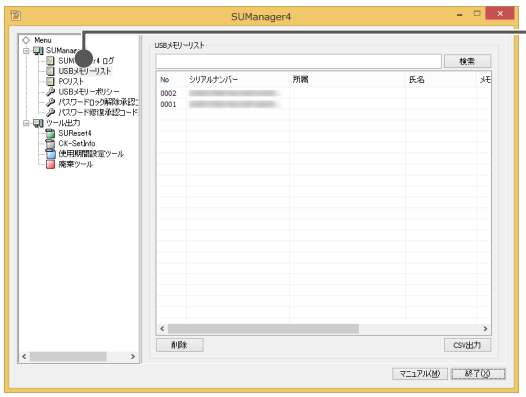


クリック

以上で、書き込み禁止設定は完了です。

初期化した USB メモリーの情報を確認する

SUManager4 で初期化した USB メモリーの情報を表示します。

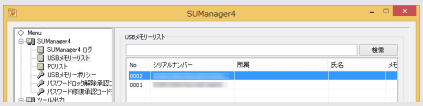


操作ログ	
シリアルナンバー	初期化したUSBメモリーのシリアルナンバー ※USBメモリーに貼られているハードウェアシリアル番号(S/N)ではなく、USBメモリー自体の個別情報です。
所属	初期化時に入力した登録情報を表示します。下記、[登録情報編集]の手順で任意に変更することができます。
氏名	
メモ	
削除	USBメモリーのリストから、該当するUSBメモリーを削除します。
CSV出力	CSVファイル形式でUSBメモリー情報を出力します。

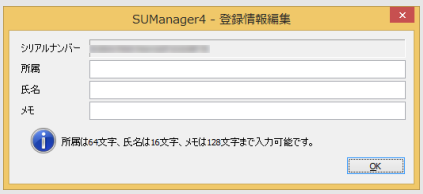
ヒント

登録情報を編集する場合

①情報を変更したい USB メモリーのリストをダブルクリックします。



②所属 / 氏名 / メモのそれぞれの欄に、任意の文字列を入力し、[OK] をクリックします。



PC 識別する

PC 識別機能を使うと、USB メモリーが動作するパソコンを限定できます。
※本機能は Mac OS ではご利用いただけません。

注　意

本機能を使う場合、USB メモリーを使うパソコンにネットワークアダプターが必要です

■ パソコン情報を取得し、SUManager4 で許可設定をする

以下の手順で USB メモリーに使用するパソコンの許可設定をしてください。

Step1：USB メモリーポリシーを設定する　55 ページ

Step2：USB メモリーを初期化する　56 ページ

Step3：PC 情報を収集する　58 ページ

Step4：PC 許可する　62 ページ

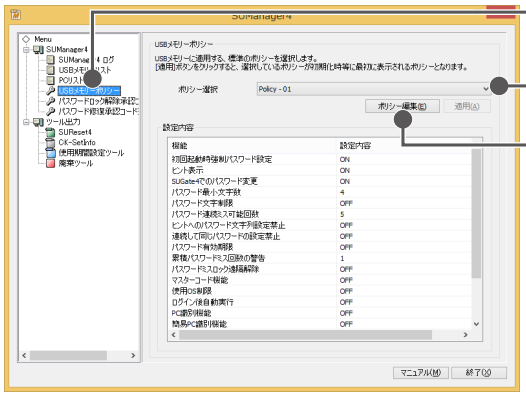
ヒント

- **USB メモリー内の許可 PC･許可候補 PC 情報を別の USB メモリーにコピーできます**
  【■ 許可情報のコピー】（67 ページ）をご覧ください。
- **パソコンに USB メモリーを挿すと、許可されているパソコンかどうか USB メモリー内を検索します**
  ※検索時間は USB メモリーを使用する環境により異なります。
  パソコンの検索は途中でキャンセルできません。

Step1：USB メモリーポリシーを設定する

1 SUManager4を起動します。

2 ポリシー設定画面を表示します。

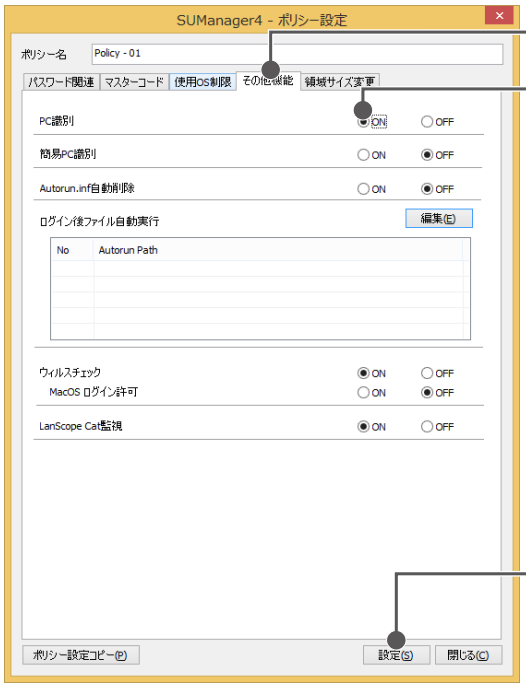


①[USBメモリーポリシー]をクリック

②設定するポリシー名を選択

③[ポリシー編集]をクリック

3 [その他機能]タブの[PC識別]を[ON]にし、[設定]をクリックします。



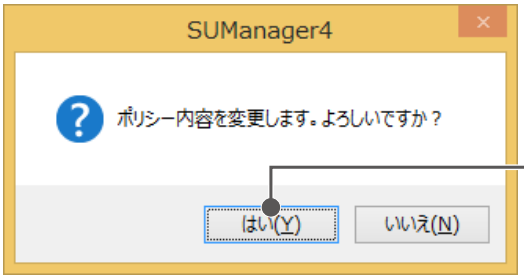
①[その他機能]タブをクリック

②[PC識別]を[ON]にチェック

③[設定]をクリック

※[PC識別]機能以外の項目は、任意で設定してください。

4 [はい]をクリックします。



クリック

以上で、USB メモリーポリシーの設定は完了です。

【Step2：USB メモリーを初期化する】（56 ページ）にお進みください。

Step2：USB メモリーを初期化する

[PC 識別] 機能を [ON] にしたポリシーを USB メモリーに適用するために、初期化します。

注　意

- **必要なデータがある場合は、あらかじめ USB メモリー内のデータのバックアップをしてください**
  初期化すると、データ保存領域のデータはすべて消去されます。必要なデータがある場合は、初期化の前にデータを別のメディア（DVD やハードディスク）にコピーするなどして、バックアップをしてください。
- **SUManager4 で初期化した USB メモリーは、USB メモリー添付の初期化ソフトウェア「SUReset4」では初期化できません**
  SUManager4 から出力した「SUReset4」を利用してください。
  ⇒【SUReset4 について】（75 ページ）参照

1 SUManager4を起動します。

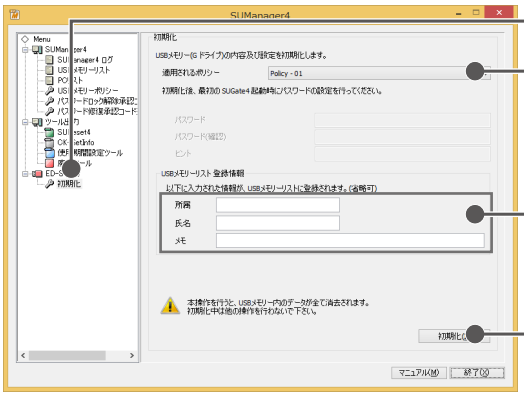
ヒント

まだ USB メモリーを接続しないでください

SUGate4 が動作しているとSUManager4 は起動しません。USB メモリーを取り外してください。

2 USBメモリーをパソコンのUSBポートに接続します。

3 [適用されるポリシー]にて[PC識別]機能を[ON]にしたポリシーを選択し、初期化します。

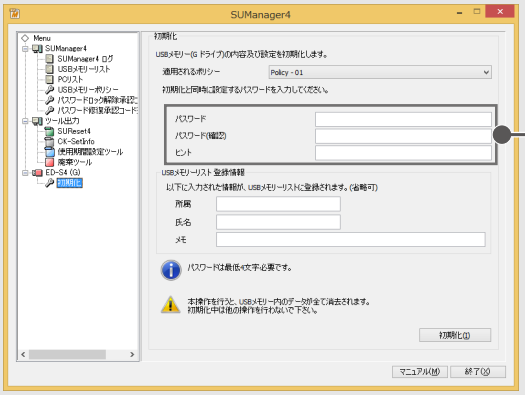


①[初期化]をクリック
②適用するポリシーを選択
③[USBメモリーリスト登録情報]を任意で入力
※入力した内容は[USBメモリーリスト]画面に表示されます。
④[初期化]をクリック

ヒント

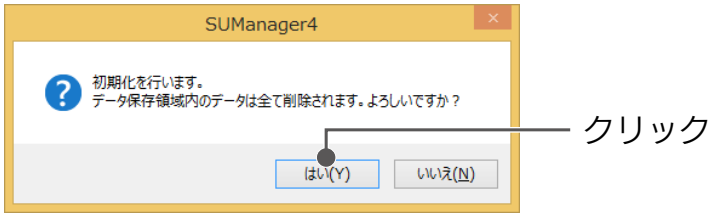
選択したポリシーが「初回起動時強制パスワード設定」を[OFF]にしている場合

初期化と同時に、パスワードとヒント（任意）を設定します。



パスワード	パスワードとして設定する文字列を入力します。 （設定可能な文字や文字数は、設定したUSBメモリーポリシーにより異なります） ※大文字・小文字は区別されます。
パスワード（確認）	[パスワード]と同じ文字列を入力します。
ヒント	ヒントとして設定する文字列を入力します。（最大64文字） ※文字数に半角・全角の区別はありません。 ※適用されるUSBメモリーポリシーで[ヒント表示]が[ON]の場合のみ、設定が可能です。

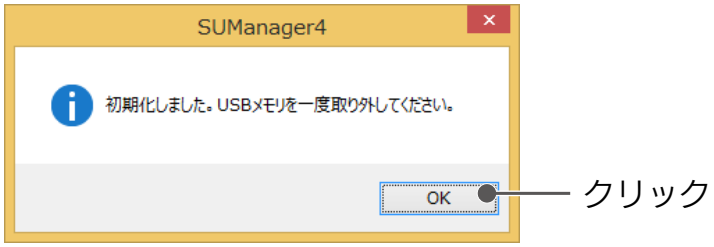
4 確認画面が表示されるので、[はい]をクリックします。



⇒初期化が始まります。

注　意　**初期化中、USBメモリーを取り外したり、他の操作をしないでください**

5 [OK]をクリックします。



6 USBメモリーをパソコンから取り外します。

※OSの取り外し処理は不要です。そのまま取り外してください。
　USBメモリーを使用する場合はSUManager4を終了した後、挿しなおしてください。

以上で、USB メモリーの初期化は完了です。

【Step3：PC 情報を収集する】（58 ページ）にお進みください。

Step3：PC 情報を収集する

USB メモリーを使用するパソコンの情報を、SUManager4 で許可する必要があります。
まず USB メモリーが使用できる許可 PC および許可候補 PC の情報を、以下のいずれかの手順で収集します。

▼USB メモリーを使用するパソコンに接続する　58 ページ
▼USB メモリーを接続せずに PC 情報を収集する　60 ページ

※ USB メモリーを使用するパソコンが近くにない場合は「USB メモリーを接続せずに PC 情報を収集する」が便利です。

▼USB メモリーを使用するパソコンに接続する

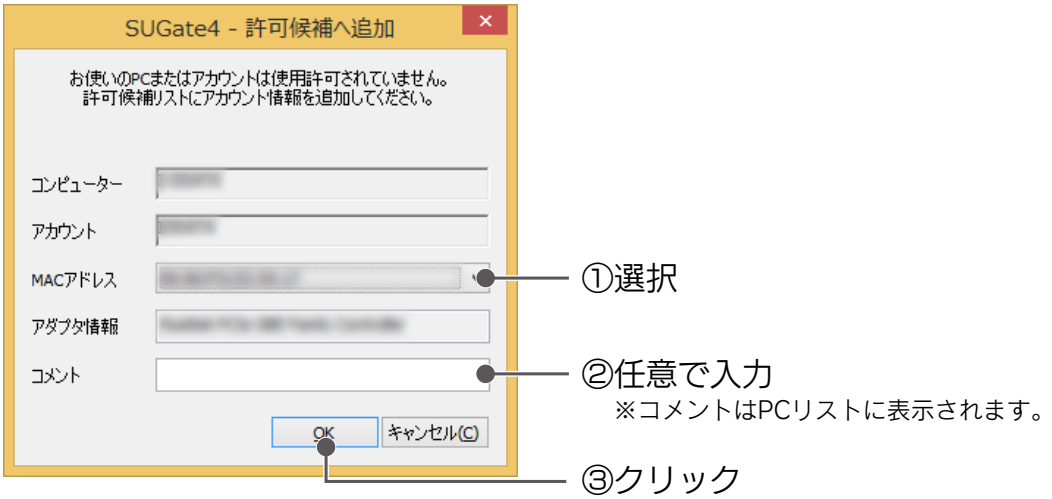
注　意

- **USB メモリーを使用するアカウントで操作してください**
- **同一のパソコンでも、複数のアカウントで使用する場合は、使用するすべてのアカウントでの情報を収集する必要があります**
- **Active Directory 環境のように使用するパソコンが都度異なる場合には、使用するすべてのパソコンやそのアカウントの情報を収集する必要があります**

管理者以外のユーザー（USB メモリーの使用者等）が本操作をすることもできます。

1 **USBメモリーを使用するパソコンに接続し、SUGate4を起動します。**
⇒許可候補へ追加画面が表示されます。

2 **MACアドレスが複数ある場合は選択し、[OK]をクリックします。**

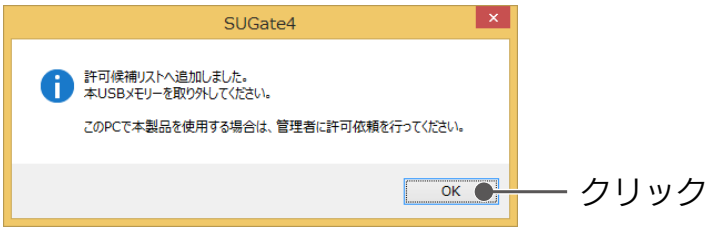


ヒント

アダプター情報を参考に MAC アドレスを選択してください

取り外し可能なネットワークアダプターを選択した場合、USB メモリーの接続時にネットワークアダプターが接続されていないとパソコンが認証されず、ご使用いただけません。

3 [OK]をクリックします。



4 USBメモリーをパソコンから取り外します。

※取り外し手順についてはUSBメモリーに添付の取扱説明書をご覧ください。

5 USBメモリーを管理者へ渡します。

以上で、PC 情報の収集は完了です。
【Step4：PC 許可する】（62 ページ）にお進みください。

▼USB メモリーを接続せずに PC 情報を収集する

SUGetInfoAG.exe を利用し、USB メモリーを接続せずに PC 情報を収集します。

注　意

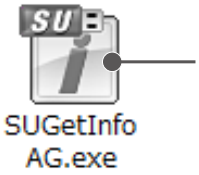
- **USB メモリーを使用するアカウントで操作してください**
- **同一のパソコンでも、複数のアカウントで使用する場合は、使用するすべてのアカウントでの情報を収集する必要があります**
- **Active Directory 環境のように使用するパソコンが都度異なる場合には、使用するすべてのパソコンやそのアカウントの情報を収集する必要があります**

ヒント

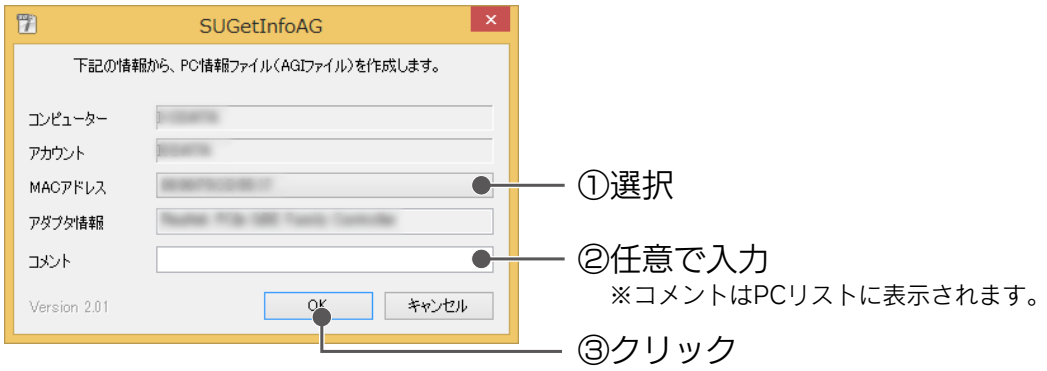
- **SUGetInfoAG の対応 OS は【動作環境】（7 ページ）をご覧ください**
- **管理者以外が agi ファイルを作成する場合**
  『SUManager4』CD-ROM 内の SUGetInfoAG フォルダーをユーザーに配布し、操作をしてもらってください。

1 「SUGetInfoAG.exe」ファイルをユーザーのパソコンにコピーします。

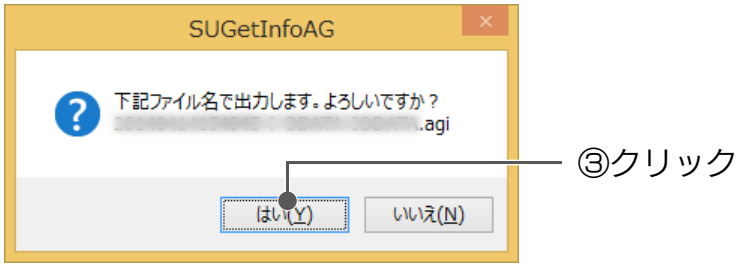
2 コピーした「SUGetInfoAG.exe」をダブルクリックします。



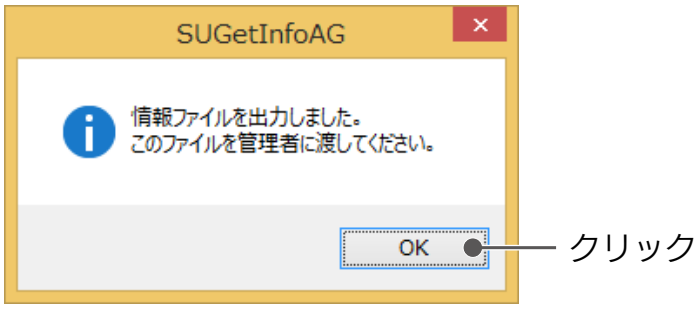
3 MACアドレスが複数ある場合は選択し、[OK]をクリックします。



4 [はい]をクリックします。



5 [OK]をクリックします。



agi ファイルは「SUGetInfoAG.exe」が保存されている同じフォルダーに作成されます。



6 agiファイルを管理者へ渡します。

以上で、PC 情報の収集は完了です。
【Step4：PC 許可する】（62 ページ）にお進みください。

Step4：PC 許可する

【PC 情報を収集する】で集めた USB メモリーを使用するパソコンの情報を、SUManager4 で許可します。

○ USB メモリーを使用するパソコンに接続し、PC の情報を収集した場合

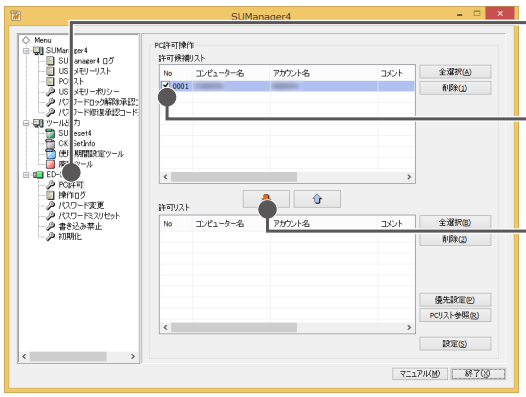
○ SUGetInfoAG.exe を利用して、PC の情報を収集した場合

▼USB メモリーを使用するパソコンに接続し、PC の情報を収集した場合

1 SUManager4を起動します。

2 USBメモリーを管理者のパソコンに接続します。

3 使用するパソコンの情報を許可リストへ移動します。



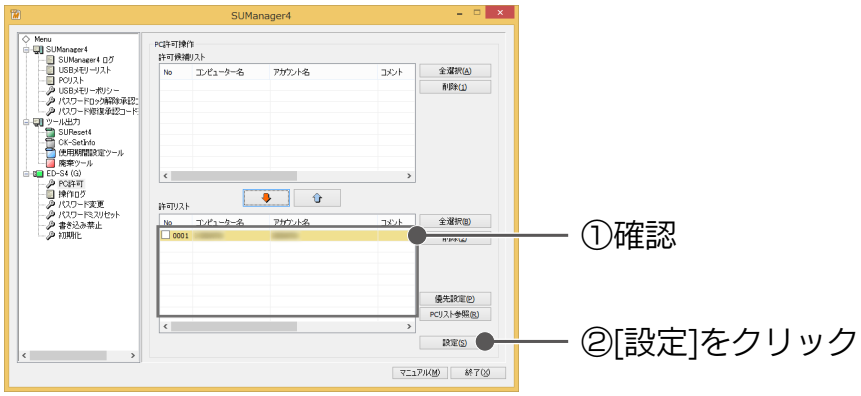
ヒント

[PC 許可操作] 表示内容一覧

選択されたパソコン情報は［⬇］［⬆］で許可候補リストや許可リストに移動します。

許可候補リスト	USBメモリーに保存されている許可候補PCのリスト
コンピューター名	コンピューター(パソコン)名
アカウント名	パソコンのアカウント名
コメント	許可候補へ追加またはagiファイル作成時にコメントを入力した場合に表示されます。
MAC	MACアドレス
回数	許可したパソコンに接続した回数
全選択	リストの全項目を選択します。
削除	選択された項目を削除します。
優先設定	SUGate4の使用許可PC探索時に、優先的に扱われるパソコンを設定します。(最大10台まで設定可能)
PCリスト参照	PCリストからパソコン情報を追加します。
設定	[許可リスト]の内容の設定を確定します。

4 許可リストに移動したことを確認し、[設定]をクリックします。

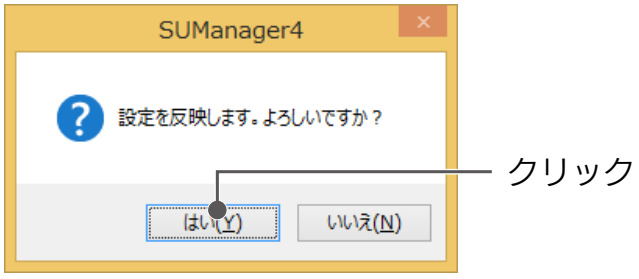


ヒント

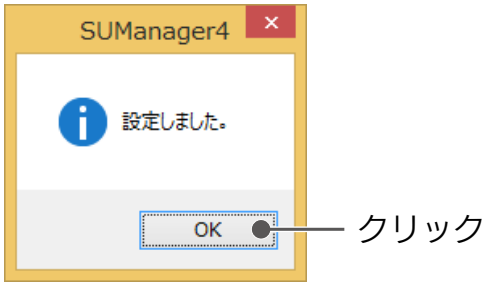
- **[設定] をクリックすることで、操作した内容が有効になります**
- **[優先設定] について**

  優先設定されたパソコンは、SUGate4 の使用許可 PC 探索時に、優先的に扱われます。（最大 10 台まで設定可能。許可リスト No.0001 ～ 0010 まで。）
  また、優先設定されていないパソコンについては、回数（接続回数）の多いパソコンから順に上位 50 台までは優先的に探索されます。
  ① 許可リストから優先設定したいパソコンにチェックをつけます。
  ②［優先設定］をクリックします。
  ③ 優先設定されたパソコンが許可リストの上位に表示され、背景色がオレンジ色になります。

5 [はい]をクリックします。



6 [OK]をクリックします。



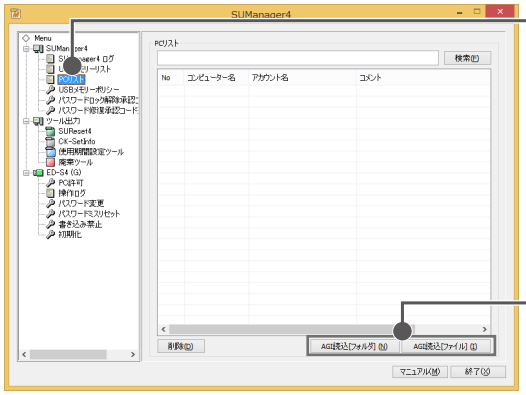
以上で使用 PC の許可設定は終了しました。
これで使用許可したパソコンで USB メモリーを使用できます。

▼SUGetInfoAG.exe を利用を利用して PC 情報を収集した場合

1 SUManager4を起動します。

2 USBメモリーを管理者のパソコンに接続します。

3 agiファイルを読み込みます。



①[PCリスト]をクリック

②[AGI読込(フォルダ)]または
[AGI読込(ファイル)]をクリック

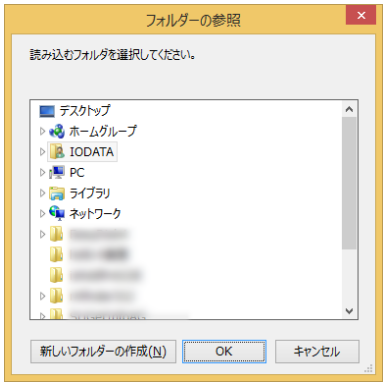
ヒント

[PC リスト] 表示内容一覧

PCリスト	SUManager4が保持しているPC情報のリスト
コンピューター名	コンピューター(パソコン)名
アカウント名	パソコンのアカウント名
コメント	許可候補へ追加またはagiファイル作成時にコメントを入力した場合に表示されます。
MAC	MACアドレス
削除	選択された項目を削除します。
フォルダから読み込む	指定されたフォルダ内に存在するすべてのagiファイルをインポートします。
ファイルから読み込む	指定したagiファイルをインポートします。

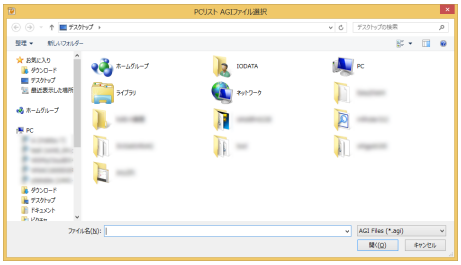
4 agiファイルまたはagiファイルがあるフォルダーを選択します。

▼AGI読込(フォルダ)を指定した場合



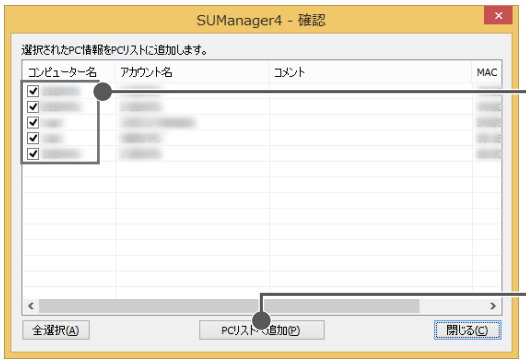
①agiファイルがあるフォルダーを選択
②[OK]をクリック

▼AGI読込(ファイル)を指定した場合



①agiファイルを選択
②[OK]をクリック

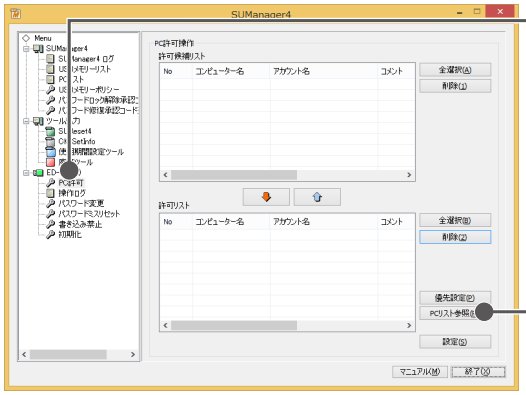
5 パソコンの情報をPCリストへ追加します。



①パソコン情報にチェック
※[全選択]をクリックすると、すべて選択できます。

②[PCリストへ追加]をクリック

6 PCリストを参照します。



①[PC許可]をクリック

②[PCリスト参照]をクリック

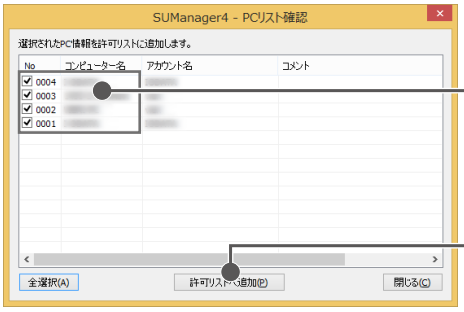
ヒント

[PC 許可操作] 表示内容一覧

選択されたパソコン情報は［⬇］［⬆］ボタンで許可候補リストや許可リストに移動します。

許可候補リスト	USBメモリーに保存されている許可候補PCのリスト
コンピューター名	コンピューター(パソコン)名
アカウント名	パソコンのアカウント名
コメント	許可候補へ追加またはagiファイル作成時にコメントを入力した場合に表示されます。
MAC	MACアドレス
回数	許可したパソコンに接続した回数
全選択	リストの全項目を選択します。
削除	選択された項目を削除します。
優先設定	SUGate4の使用許可PC探索時に、優先的に扱われるパソコンを設定します。(最大10台まで設定可能)
PCリスト参照	PCリストからパソコン情報を追加します。
設定	[許可リスト]の内容の設定を確定します。

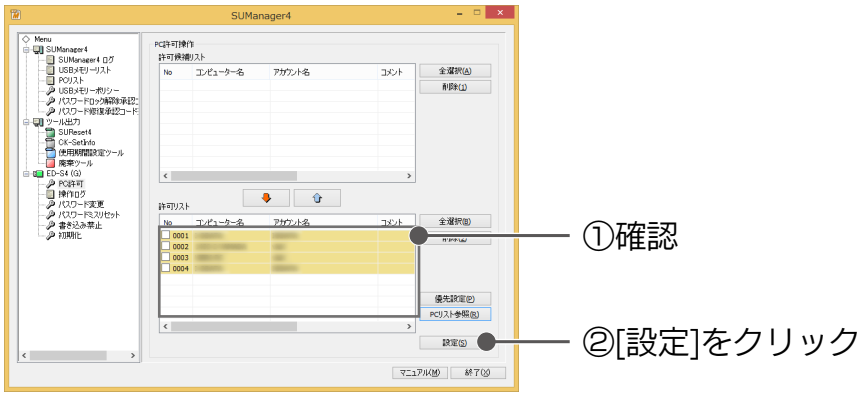
7 パソコンの情報を許可リストへ追加します。



①パソコン情報にチェック
※[全選択]をクリックすると、すべて選択できます。

②[許可リストへ追加]をクリック

8 許可リストに追加されたことを確認し、[設定]をクリックします。



ヒント

● [優先設定] について

優先設定されたパソコンは、SUGate4 の使用許可 PC 探索時に、優先的に扱われます。（最大 10 台まで設定可能。許可リスト No.0001 ～ 0010 まで。）
また、優先設定されていないパソコンについては、回数（接続回数）の多いパソコンから順に上位 50 台までは優先的に探索されます。

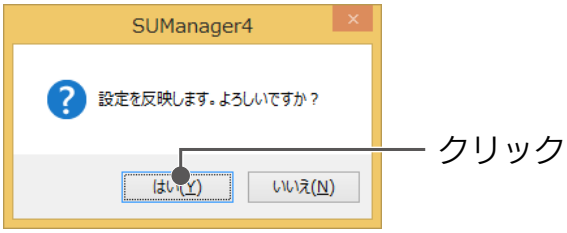
① 許可リストから優先設定したいパソコンにチェックをつけます。

②［優先設定］をクリックします。

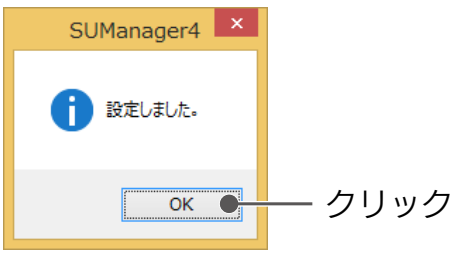
③ 優先設定されたパソコンが許可リストの上位に表示され、背景色がオレンジ色になります。

●許可、許可候補に設定する件数が多い場合は設定に時間がかかることがあります

9 [はい]をクリックします。



10 [OK]をクリックします。



ヒント

USB メモリー内に保存された許可 PC・許可候補 PC 情報は、別の USB メモリーにコピーできます

【■ 許可情報のコピー】（67 ページ）参照

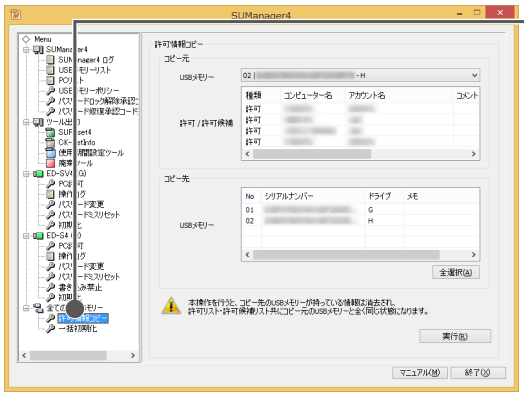
■ 許可情報のコピー

USB メモリーに保存されている許可 PC･許可候補 PC 情報を、別の USB メモリーにコピーできます。
同じ許可 PC・許可候補 PC 情報を、複数の USB メモリーに適用したい場合などに、PC 許可操作を簡略化することができます。
※ USB メモリーポリシーで［PC 識別］を [ON] にした USB メモリーを 2 本以上接続している場合のみ実行できます。
ただし、［PC 識別］を [OFF] にした USB メモリーを同時に接続している場合は実行されません。

1 SUManager4を起動します。

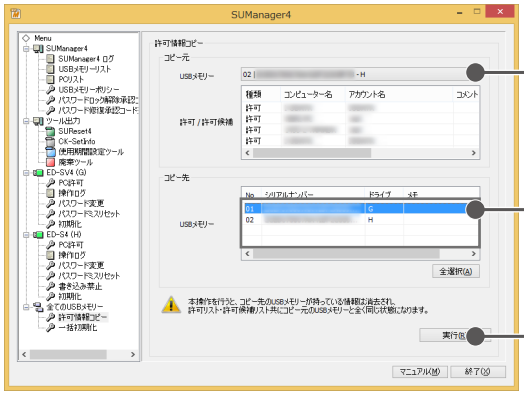
2 コピー元コピー先になるすべてのUSBメモリーをパソコンのUSBポートに接続します。

3 [許可情報コピー]をクリックします。



コピー元	コピー元となるUSBメモリーの情報を表示します。(最大4本まで)
USBメモリー	コピー元のUSBメモリーを選択します。
許可/許可候補	コピー元に選択したUSBメモリーが保有しているPC情報を表示します。
コピー先	コピー先となるUSBメモリーリストを表示します。
USBメモリー	コピー先のUSBメモリーを選択します。(最大3本まで)

4 許可情報のコピーを実行します。

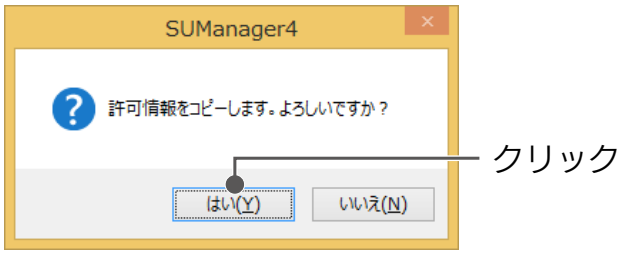


注　意

コピー先の USB メモリーが保有している PC 情報は消去されます

コピー元とコピー先の許可リスト、許可候補リスト情報は全く同じ状態になります。
※以下の場合、コピー動作は無視されます。
・コピー元とコピー先に同じ対応 USB メモリーを選択したとき
・初期化をしていない USB メモリーを選択したとき

5 [はい]をクリックします。

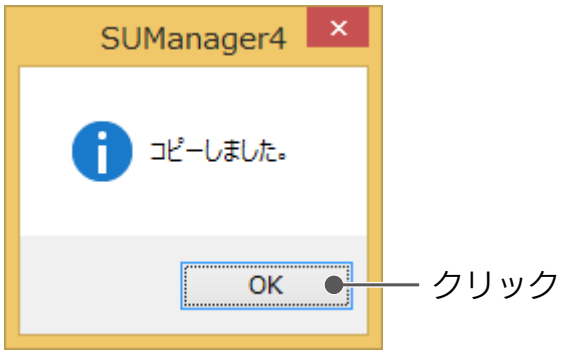


⇒コピーが開始されます。

※許可、許可候補に設定する件数が多い場合はコピーに時間がかかることがあります

注　意　**コピー中、USB メモリーを取り外したり、他の操作をしないでください**

6 [OK]をクリックします。



7 すべてのUSBメモリーをパソコンから取り外します。

以上で USB メモリーの許可情報のコピーは完了です。

パスワードロック解除承認コードを発行する

ユーザーが遠隔地にいる場合など管理者に USB メモリーを送付することが難しい場合に、ユーザーの手元でパスワードミス回数をリセットできます。
※本手順ではユーザー側の操作についても案内しています。
※本機能は Mac OS ではご利用いただけません。

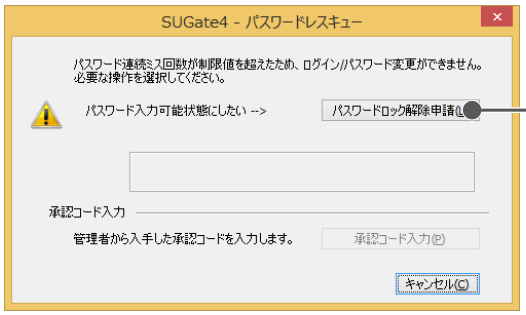
ヒント

本機能を使うには、「パスワードミスロック遠隔解除」を[ON]にしたポリシーで、USB メモリーを初期化する必要があります

■ Step1 ユーザー側：解除申請コードを発行する

1 USBメモリーをパソコンに接続し、SUGate4を起動します。

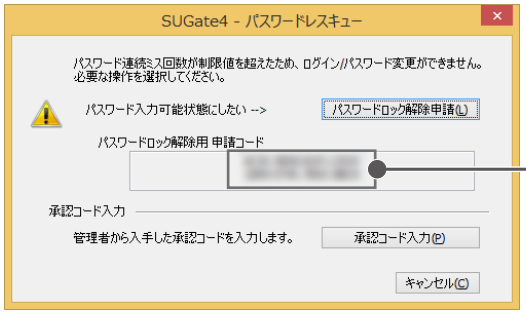
2 パスワードミスロック中は以下の画面が表示されます。
→[パスワード解除申請]をクリックします。



クリック

3 メッセージが表示されるので、[OK]をクリックします。

4 表示された解除申請コード（32桁）を管理者へ連絡します。

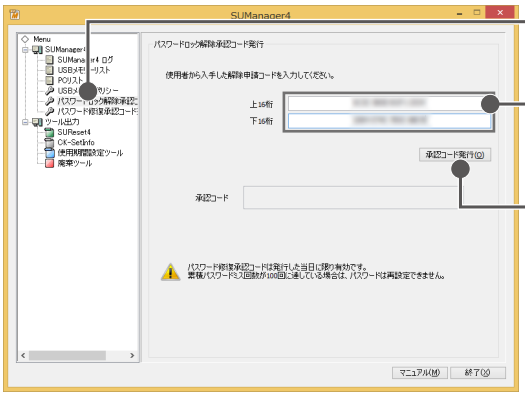


管理者へ連絡

5 管理者から解除承認コード（40桁）の連絡を待ちます。

■ Step2 管理者側：解除承認コードを発行する

1 SUManager4を起動し、ユーザーから連絡を受けた解除申請コード（32桁）を入力します。

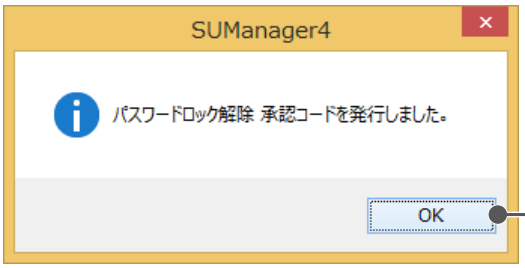


①クリック

②解除申請コードを入力

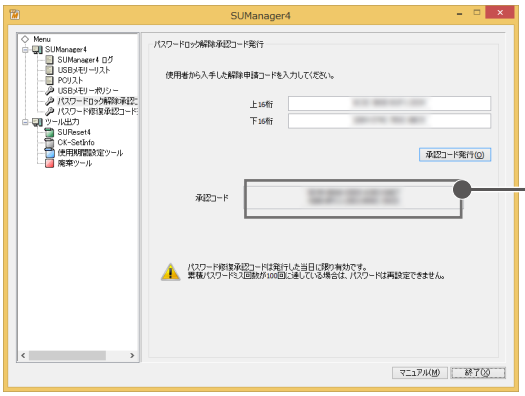
③[承認コード発行]をクリック

2 [OK]をクリックします。



クリック

3 表示された解除承認コードをユーザーに連絡します。



ユーザーへ連絡

注　意

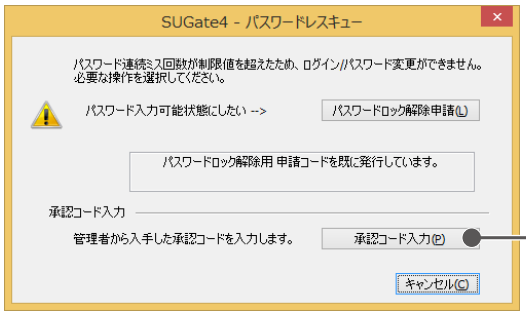
出力した解除承認コードは、その日のうちにユーザーに連絡してください

日付が変わる（深夜 0：00）と無効になり、再度解除承認コードの発行が必要になります。

■ Step3 ユーザー側：解除承認コードを入力する

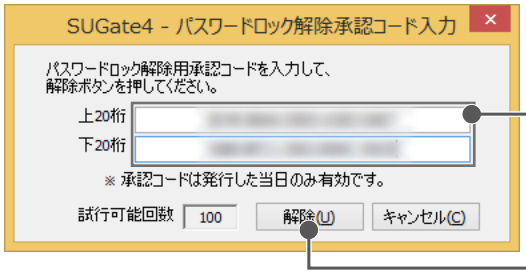
1 USBメモリーをパソコンに接続し、SUGate4を起動します。

2 解除申請コードを発行した場合は以下の画面が表示されます。
→[承認コード入力]をクリックします。



クリック

3 管理者から連絡を受けた解除承認コード（40桁）を入力します。



①解除承認コードを入力

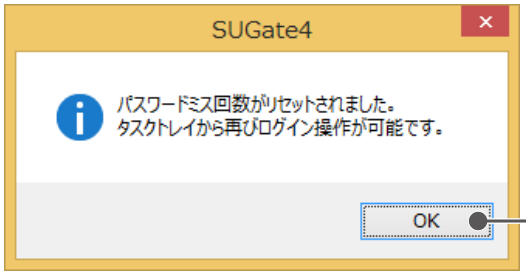
②[解除]をクリック

注　意

解除承認コードは、その日のうちに入力してください

日付が変わる（深夜 0：00）と無効になり、再度解除承認コードの発行が必要になります。

4 [OK]をクリックします。



クリック

5 パスワードミス回数がリセットされ、再度パスワードを入力できます。

以上でパスワードロック解除承認コードの発行は完了です。

パスワード修復承認コードを発行する

ユーザーが遠隔地にいる場合など管理者に USB メモリーを送付することが難しい場合に、ユーザーの手元でパスワードを再設定できます。
※本手順ではユーザー側の操作についても案内しています。
※本機能は Mac OS ではご利用いただけません。

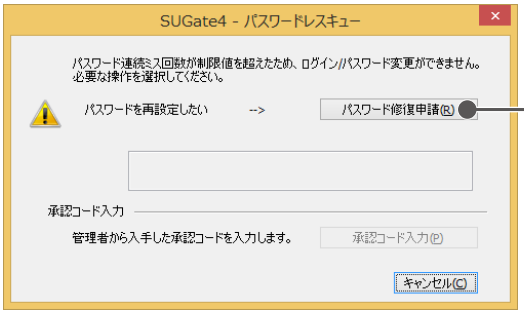
ヒント

本機能を使うには、以下のポリシー設定で、USBメモリーを初期化する必要があります
・「マスターコード機能」を[ON]
・「遠隔地パスワード修復機能」を[ON]

■ Step1 ユーザー側：修復申請コードを発行する

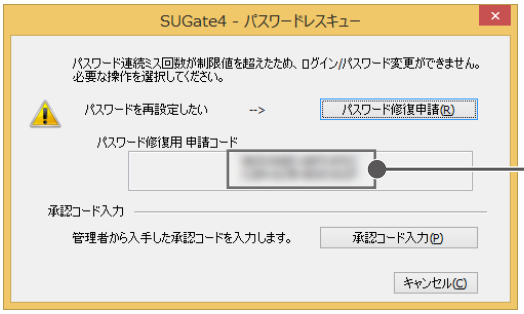
1 USBメモリーをパソコンに接続し、SUGate4を起動します。

2 パスワードミスロック中は以下の画面が表示されます。
→[パスワード修復申請]をクリックします。



3 [OK]をクリックします。

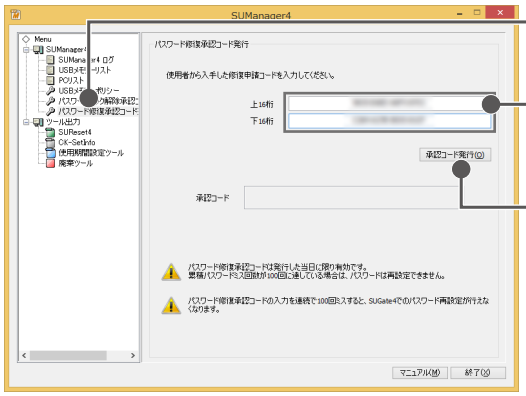
4 表示された修復申請コード（32桁）を管理者へ連絡します。



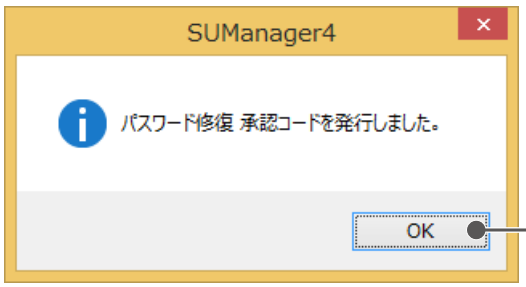
5 管理者からパスワード修復承認コード（40桁）の連絡を待ちます。

■ Step2 管理者側：修復承認コードを発行する

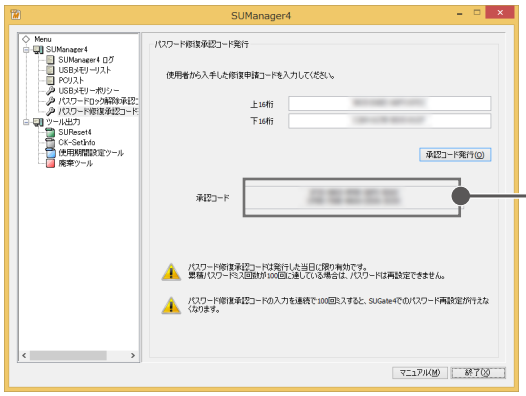
1 SUManager4を起動し、ユーザーから連絡を受けた修復申請コード（32桁）を入力します。



2 [OK]をクリックします。



3 表示されたパスワード修復承認コードをユーザーに連絡します。



注　意

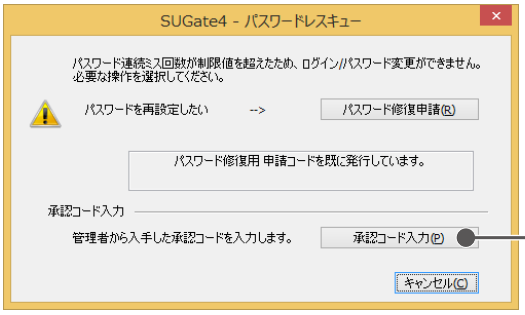
出力した修復承認コードは、その日のうちにユーザーに連絡してください

日付が変わる（深夜 0：00）と無効になり、再度修復承認コードの発行が必要になります。

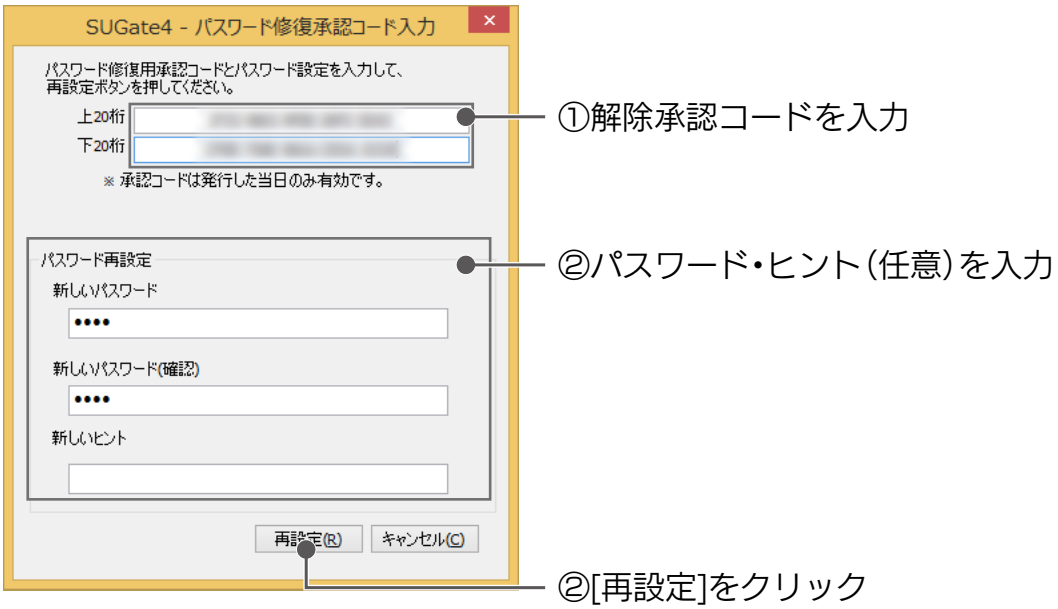
■ Step3 ユーザー側

1 USBメモリーをパソコンに接続し、SUGate4を起動します。

2 修復申請コードを発行した場合は以下の画面が表示されます。
→[承認コード入力]をクリックします。



3 管理者から連絡を受けた修復承認コード(40桁)を入力し、パスワードを再設定します。



> **注　意**
>
> **修復承認コードは、その日のうちに入力してください**
>
> 日付が変わる（深夜 0：00）と無効になり、再度修復承認コードの発行が必要になります。

4 [OK]をクリックします。

5 パスワードが再設定されました。タスクトレイのアイコンからログインできます。

以上でパスワード修復承認コードの発行は完了です。

SUReset4 について

SUReset4 は、USB メモリーを初期化するソフトウェアです。
SUManager4 で初期化された USB メモリーを SUManager4 がインストールされていない環境で初期化する場合、SUManager4 で出力した SUReset4 を使用してください。
※ SUManager4 で初期化された USB メモリーを初期化するには、SUManager4 で出力した SUReset4 が必要です。

ヒント **SUReset4の対応OSは【動作環境】(7ページ)をご覧ください**

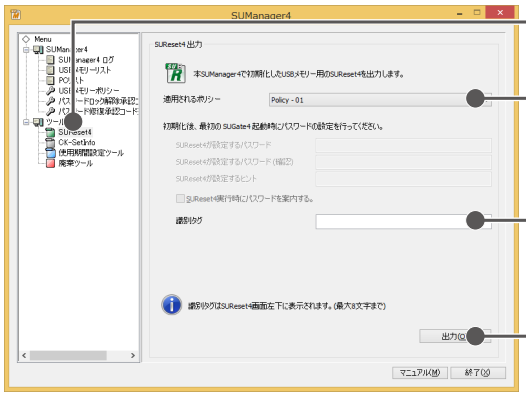
■ 出力する

注　意

- **USB メモリーに添付の SUReset4 では初期化できません**
  SUManager4 で初期化された USB メモリーは、USB メモリーに添付の SUReset4 では初期化できません。SUManager4 から SUReset4 を以下の手順で出力し、ご利用ください。
- **「マスターコード機能」が [ON] のポリシーでは SUReset4 を出力できません**
- **SUReset4 で初期化しても、データ保存領域のサイズは変更されません**
  領域サイズを変更する場合は SUManager4 で初期化してください。
  (【USB メモリーを初期化する】(30 ページ) 参照)

1 SUManager4を起動します。

2 SUReset4を出力します。



①[SUReset4]をクリック

②USBメモリーに適用するポリシーを選択

③任意で入力(最大8文字)
※SUReset4を区別したいときに設定します。
SUReset4画面に識別タグが表示されます。

④[出力]をクリック

ヒント

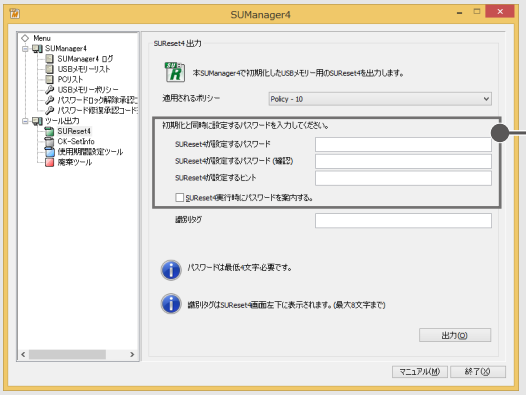
[適用されるポリシー]がSUReset4での初期化時にUSBメモリーに適用されます

出力したSUReset4のポリシーと、USBメモリーに既に適用されているポリシーが異なった場合にSUReset4で初期化すると、USBメモリーのポリシーはSUReset4のポリシーに変更されます。

ヒント

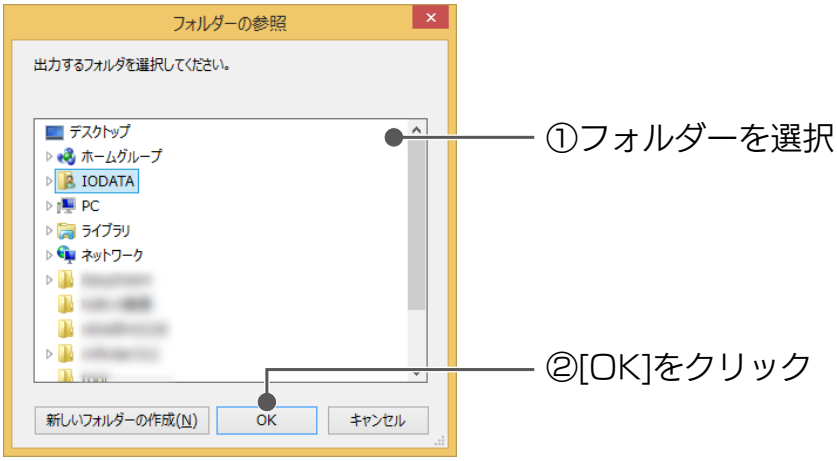
選択したポリシーが「初回起動時強制パスワード設定」を[OFF]にしている場合

SUReset4 での初期化と同時に、パスワードとヒント（任意）を設定します。

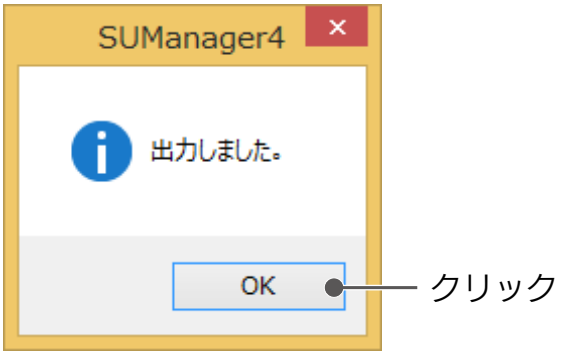


パスワード	パスワードとして設定する文字列を入力します。 (設定可能な文字や文字数は、設定したUSBメモリーポリシーにより異なります) ※大文字・小文字は区別されます。
パスワード(確認)	[パスワード]と同じ文字列を入力します。
ヒント	ヒントとして設定する文字列を入力します。(最大64文字) ※文字数に半角・全角の区別はありません。 ※適用されるUSBメモリーポリシーで[ヒント表示]が[ON]の場合のみ、設定が可能です。
SUReset4実行時にパスワードを案内する	SUReset4での初期化後、設定したパスワードを画面に表示するかどうかを設定します。

3 出力するフォルダーを選択します。



4 [OK]をクリックします。



以上で SUReset4 の出力は完了です。

■ 初期化する

出力した SUReset4 で、USB メモリーを初期化します。
SUManager4 で初期化された USB メモリーを SUManager4 がインストールされていない環境で初期化する場合、SUManager4 で出力した SUReset4 が必要です。

注　意

- **必要なデータがある場合は、あらかじめ USB メモリー内のデータのバックアップをしてください**
  初期化すると、データ保存領域のデータはすべて消去されます。必要なデータがある場合は、初期化の前にデータを別のメディア(DVD やハードディスク)にコピーするなどして、バックアップをしてください。
- **SUManager4 で初期化した USB メモリーは、USB メモリー添付の初期化ソフトウェア「SUReset4」では初期化できません**
  初期化前の設定状態は保持されません。
- **「マスターコード機能」が [ON] になっている USB メモリーは、SUReset4 で初期化できません**
  SUManager4 で初期化してください。

ヒント

まだ USB メモリーを接続しないでください
接続した場合は USB メモリーを取り外してください。

1 SUReset4を起動します。



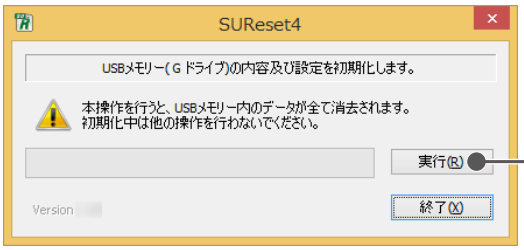
[SUReset4.exe]をダブルクリック

2 USBメモリーをパソコンのUSBポートに接続します。

ヒント

初期化するUSBメモリーは1本だけ接続します
同時に複数のUSBメモリーを初期化することはできません。

3 [実行]をクリックします。

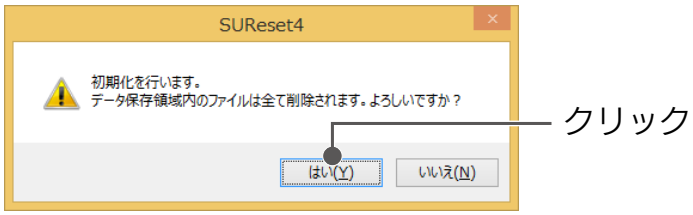


クリック

注　意

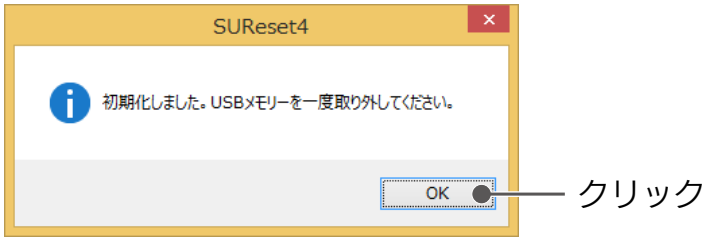
初期化中は USB メモリーを取り外したり、他の操作をしないでください

4 [はい]をクリックします。



⇒初期化されます。

5 [OK]をクリックします。



6 [終了]をクリックします。



7 USBメモリーをパソコンから取り外します。

※OSの取り外し処理は不要です。そのまま取り外してください。

以上で初期化は完了です。

ヒント

●SUReset4で初期化しても、操作ログの内容は削除されません

●PC識別機能が有効なUSBメモリーを、PC識別機能が無効に設定されているポリシーのSUReset4で初期化した場合、USBメモリー内に保存されている許可/許可候補PC情報はすべて削除されます

PC識別機能が有効に設定されているポリシーのSUReset4で初期化した場合、PC情報は削除されません。

●SUReset4の出力時に選択したポリシーがUSBメモリーに適用されます

出力したSUReset4のポリシーと、対応USBメモリーに既に適用されているポリシーが異なった場合にSUReset4で初期化すると、USBメモリーのポリシーはSUReset4のポリシーに変更されます。

簡易 PC 識別（CK-SetInfo）について

CK-SetInfo を使うと、USB メモリーに対して使用パソコンを簡易的に制限できます。
ユーザーは USB メモリーの管理者から CK-SetInfo を入手し、実行することで USB メモリーの使用許可設定をすることができます。
※ USB メモリーポリシーで「簡易 PC 識別」を [ON] にした USB メモリーで利用できます。
※本機能は Mac OS ではご利用いただけません。

注　意

CK-SetInfo は厳重に管理してください
安易にコピーして使うとセキュリティ上重大な問題になる可能性があります。

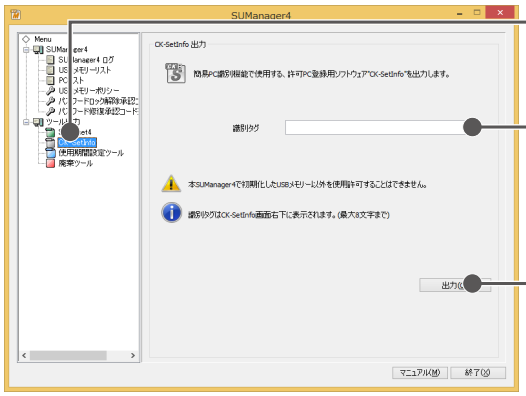
ヒント

CK-SetInfoの対応OSは【動作環境】(8 ページ)をご覧ください

■ 出力する

1 SUManager4を起動します。

2 CK-SetInfoを出力します。

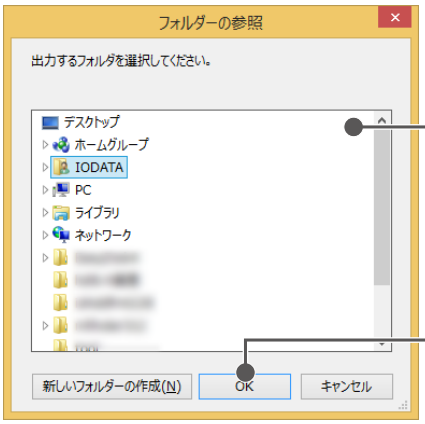


①[CK-SetInfo]をクリック

②任意で入力(最大8文字)
※CK-SetInfoを区別したいときに設定します。
CK-SetInfo画面に識別タグが表示されます。

③[出力]をクリック

3 出力するフォルダーを選択します。



①フォルダーを選択

②[OK]をクリック

4 [OK]をクリックします。

以上で CK-SetInfo の出力は完了です。

■ 設定する

1 管理者から受け取った「CK-SetInfo」を利用するパソコン上（デスクトップなど）にコピーします。

2 CK-SetInfoを起動します。



[CK-SetInfo.exe]をダブルクリック

3 [次へ]をクリックします。



クリック

4 [次へ]をクリックします。



クリック

5 [完了]をクリックします。



クリック

以上で設定は完了です。
CK-SetInfo をコピーして使用した場合はファイルを削除してください 。

■ 設定解除する

注　意　**設定解除をすると、使用許可されていた USB メモリーが使用できなくなります**

1 CK-SetInfoを起動します。



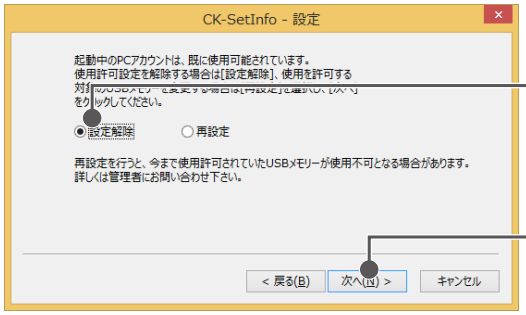
[CK-SetInfo.exe]をダブルクリック

2 [次へ]をクリックします。



クリック

3 設定解除します。



①[設定解除]にチェック

②[次へ]をクリック

4 [完了]をクリックします。



クリック

以上で設定解除は完了です。
CK-SetInfo をコピーして使用した場合はファイルを削除してください 。

■ 再設定する

すでに CK-SetInfo で設定されている PC に対し、管理者から新たに受け取った CK-SetInfo でセキュリティ情報を上書きします。
新しい CK-SetInfo に設定されているセキュリティ情報によっては、今まで使用可能だった USB メモリーが使用できなくなる場合もあります。

1 管理者から受け取った「CK-SetInfo」を利用するパソコン上（デスクトップなど）にコピーします。

2 CK-SetInfoを起動します。



[CK-SetInfo.exe]をダブルクリック

3 [次へ]をクリックします。



クリック

4 再設定します。



①[再設定]にチェック

②[次へ]をクリック

5 [完了]をクリックします。



クリック

以上で再設定は完了です。
CK-SetInfo をコピーして使用した場合はファイルを削除してください 。

使用期間設定ツールについて

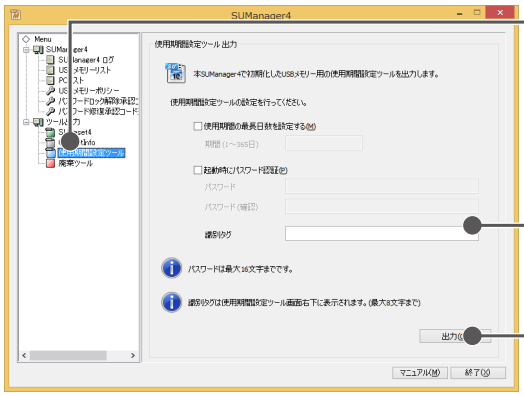
使用期間設定ツールを使うと、USB メモリーに使用可能期間を設定できます。
※ SUManager4 で初期化した USB メモリーの設定をするには、SUManager4 で出力した使用期間設定ツールが必要です。

ヒント **使用期間設定ツールの対応OSは【動作環境】(8 ページ)をご覧ください**

■ 出力する

1 SUManager4を起動します。

2 使用期間設定ツールを出力します。



①[使用期間設定ツール]をクリック

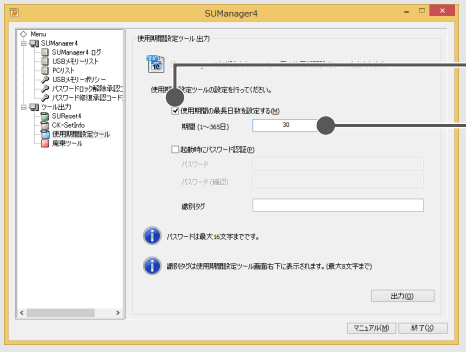
②任意で入力(最大8文字)
※使用期間設定ツールを区別したいときに設定します。
使用期間設定ツール画面に識別タグが表示されます。

③[出力]をクリック

ヒント

ログイン操作可能な最長日数を設定する

[使用期間の最長日数を設定する] にチェックをつけると、使用期間設定ツールで設定するログイン操作可能な最長日数を、設定できます。
チェックをつけない場合は、「設定可能な最長期間」が無制限になります。



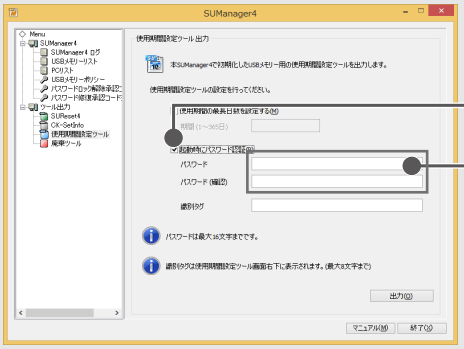
①チェック

②使用期間の最長日数を入力

ヒント

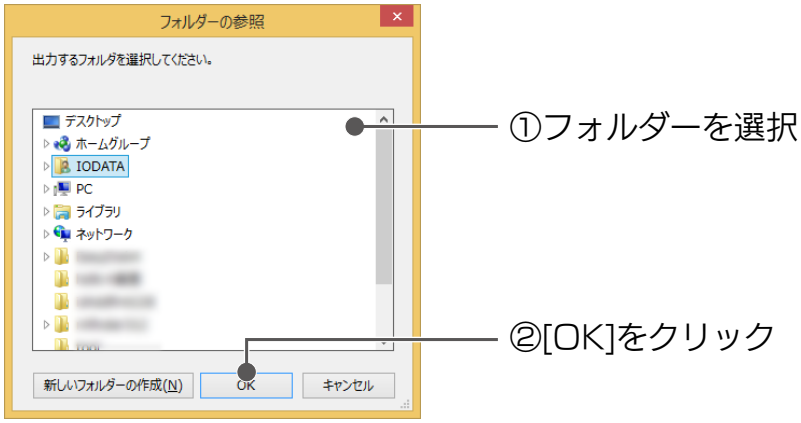
使用期間設定ツール起動時に、パスワード入力させる

[起動時にパスワード認証] にチェックしてください。



パスワード	パスワードとして設定する文字列を入力します。 (設定可能な文字や文字数は、設定したUSBメモリーポリシーにより異なります) ※大文字・小文字は区別されます。 ※最大16文字までです。
パスワード(確認)	[パスワード]と同じ文字列を入力します。

3 出力するフォルダーを選択します。



4 [OK]をクリックします。

以上で使用期間設定ツールの出力は完了です。

■ 設定する

USB メモリーの使用可能期間を設定します。

ヒント

まだ USB メモリーを接続しないでください

接続した場合は USB メモリーを取り外してください。

1 使用期間設定ツールを起動します。



[SUTermSet4.exe]をダブルクリック

ヒント

起動時にパスワード認証を設定した場合

パスワード入力画面が表示されるので、出力時に設定したパスワードを入力してください。

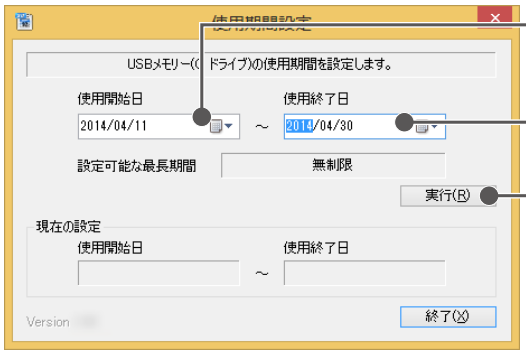
2 USBメモリーをパソコンのUSBポートに接続します。

ヒント

USBメモリーは1本だけ接続します

同時に複数のUSBメモリーを設定することはできません。

3 使用期間を設定します。



①使用開始日を設定※

②使用終了日を設定※

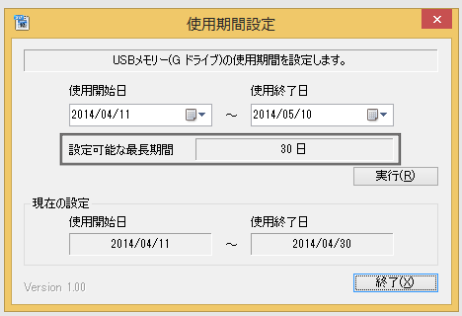
③[実行]をクリック

※カレンダーアイコンをクリックすると、カレンダー上から日を選択できます。

ヒント

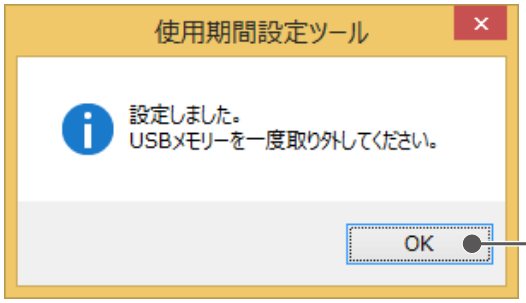
設定可能な最長期間が設定されている場合は、その範囲内で設定してください

設定可能な最長期間が「10 日」の場合、最長使用終了日は、使用開始日から 10 日経過した日（使用開始日から 11 日後）になります。



注　意　**実行中は USB メモリーを取り外したり、他の操作をしないでください**

4 [OK]をクリックします。



5 [終了]をクリックします。



6 USBメモリーをパソコンから取り外します。

※OSの取り外し処理は不要です。そのまま取り外してください。

以上で使用期間の設定は完了です。

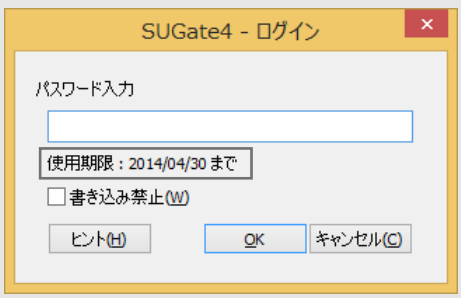
ヒント

●使用期間中の動作

SUGate4 起動時にメッセージが表示



ログイン画面に使用期間が表示



●使用期間を過ぎたとき

SUGate4 起動時、エラーが表示されログインできません。
USB メモリー使用期間の再設定をしてください。

廃棄ツールについて

廃棄ツールを使うと、本製品をより安全に廃棄できる状態へ移行することができます。
※ SUManager4 で初期化された USB メモリーの廃棄処理をするには、SUManager4 で出力した廃棄ツールが必要です。

注　意

- **廃棄処理をした USB メモリーは再利用できません**
- **廃棄処理をした USB メモリーは、保証期間もしくは保守契約期間に関わらず、修理・交換対応はお受けいたしかねます**
- **トレンドマイクロ社製アンチウイルスソフト「Trend Micro USB Security™ 」および「Trend Micro USB Security™ for Biz」を搭載したセキュリティ USB メモリーに対して廃棄処理をすると、ライセンス期間内であってもその権利が失われます**

ヒント

廃棄ツールの対応OSは【動作環境】(8 ページ)をご覧ください

■ 廃棄後の状態

●セキュリティ USB メモリーの状態

データ保存領域	データ保存領域のパスワードが変更され、ログインできません。 データ保存領域内はすべて0で埋められ、痕跡が残らない状態になります。
プログラム領域	プログラム領域内のデータはすべて削除され、「EDHaikiED4.txt」が保存されます。
その他設定情報	USBメモリー内に保存されている、セキュリティUSBメモリーの設定情報や操作ログなどを削除します。

●ログ

廃棄処理終了後、下記情報をログとして記録します。
ログファイル「EDHaikiED4_log[xxxx（実行した日時）](.csv)」は、「EDHaikiED4（.exe)」と同じフォルダーに保存されます。

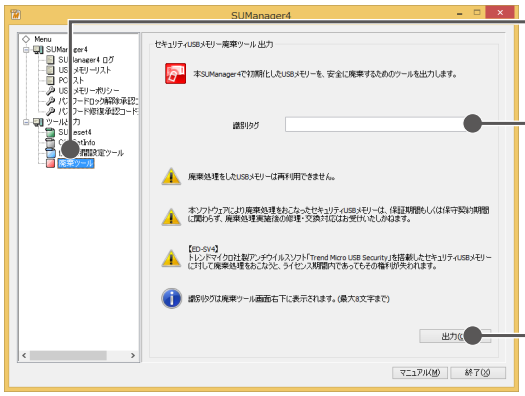
- 廃棄処理開始時刻
- ドライブレター
- VID（Vender ID）
- PID（Product ID）
- USB シリアルナンバー※
- 廃棄処理結果

※USB メモリー本体に記載･貼付されているハードウェアシリアル番号（S/N）ではなく、USB メモリー自体の個別情報です。

■ 出力する

1 SUManager4を起動します。

2 廃棄ツールを出力します。



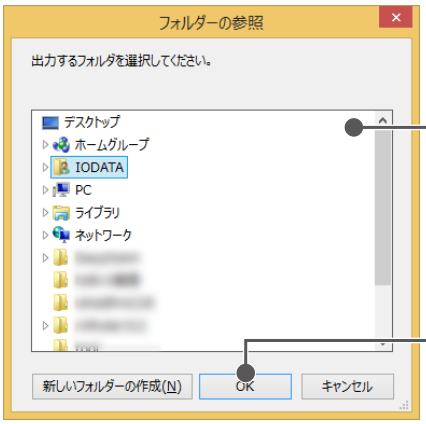
①[廃棄ツール]をクリック

②任意で入力(最大8文字)

※廃棄ツールを区別したいときに設定します。
廃棄ツール画面に識別タグが表示されます。

③[出力]をクリック

3 出力するフォルダーを選択します。



①フォルダーを選択

②[OK]をクリック

4 [OK]をクリックします。

以上で廃棄ツールの出力は完了です。

■ 廃棄処理する

注　意

●省電力モードには対応しておりません

一定時間経過すると自動で省電力モードになるように設定してある場合は、廃棄処理中に省電力モードにならないように設定を変更してください。

●廃棄ツールは USB メモリーを安全に廃棄するために、データを消去した上で使用不可能な状態にするものです

●廃棄処理をすると、廃棄対象の USB メモリー内のデータはすべて消去されます

必要なデータがある場合はバックアップしてください。

●廃棄処理実行中は中断できません

ヒント

まだ USB メモリーを接続しないでください

接続した場合は USB メモリーを取り外してください。

1 廃棄ツールを起動します。



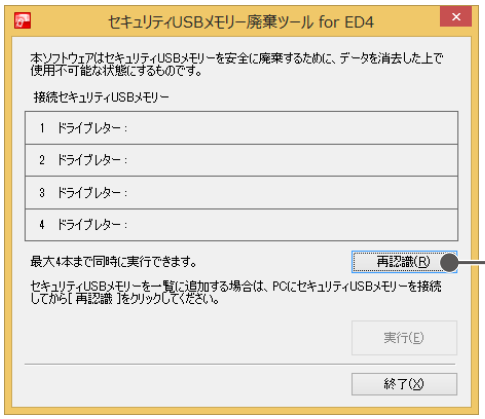
[EDHaikiED4.exe]をダブルクリック

2 USBメモリーをパソコンのUSBポートに接続します。

ヒント

最大4本まで同時に廃棄処理できます

3 すべてのUSBメモリーを接続後、[再認識]をクリックします。



クリック

⇒パソコンに接続された USB メモリーを認識します。

注　意

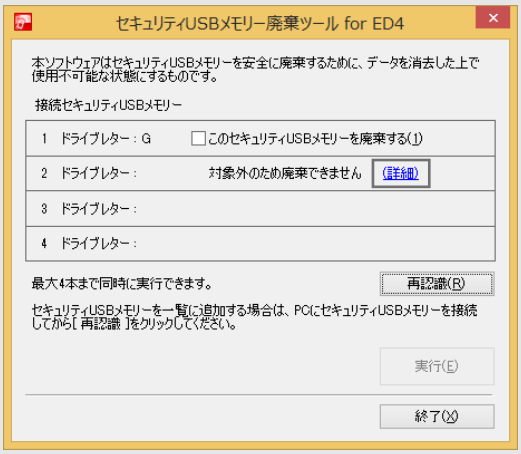
廃棄対象の USB メモリーを 5 本以上接続した場合、エラー画面が表示されます

[OK] をクリックしてエラー画面を閉じ、パソコンからセキュリティ USB メモリーを取り外してください。

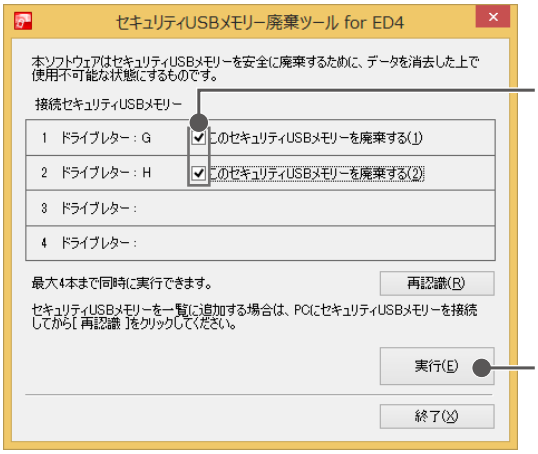
最大で 4 本接続されている状態にして、[再認識] をクリックしてください。

ヒント

廃棄対象外のセキュリティUSBメモリーを接続した場合は、[詳細]をクリックすると、エラーメッセージを確認できます



4 廃棄処理するすべてのUSBメモリーにチェックし、[実行]をクリックします



①チェック

②[実行]をクリック

5 廃棄処理するセキュリティUSBメモリーのアクセスランプが点滅していることを確認します。
[確認したのでアクセスランプを消灯する]にチェックし、[次へ]をクリックします。



①チェック

②[次へ]クリック

ヒント

- **すべてのチェックボックスにチェックしてください**
- **チェックをつけた2、3秒後にアクセスランプが消灯します**

6 [データについて]をお読みいただき、同意する場合は[同意する]にチェックし、[次へ]をクリックします。



①[同意する]にチェック

②[次へ]をクリック

7 [修理・交換について]をお読みいただき、同意する場合は[同意する]にチェックし、[次へ]をクリックします。



①[同意する]にチェック

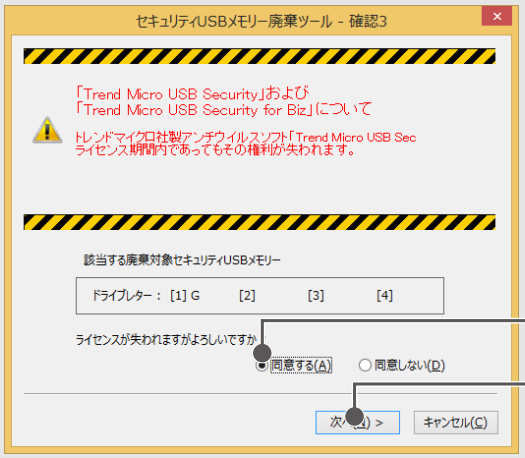
②[次へ]をクリック

ヒント

TMUSB搭載モデルを廃棄する場合

以下の画面が表示されます。

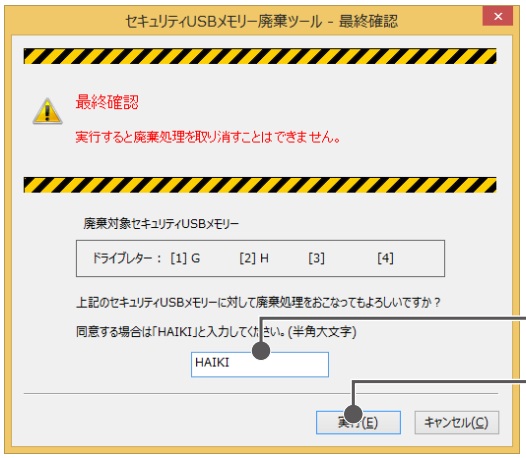
注意事項をお読みいただき、同意する場合は[同意する]にチェックし、[次へ]をクリックします。



①[同意する]にチェック

②[次へ]をクリック

8 半角・大文字で「HAIKI」と入力し、[実行]をクリックします。



⇒廃棄処理が実行されます。

注　意　**廃棄処理実行中は、中断できません**

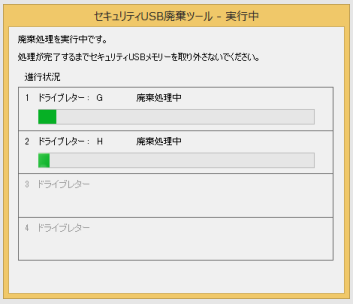
ヒント

●廃棄処理にかかる時間（目安）

4GB の場合（1 本あたり）
※ご使用のパソコン環境により異なります。

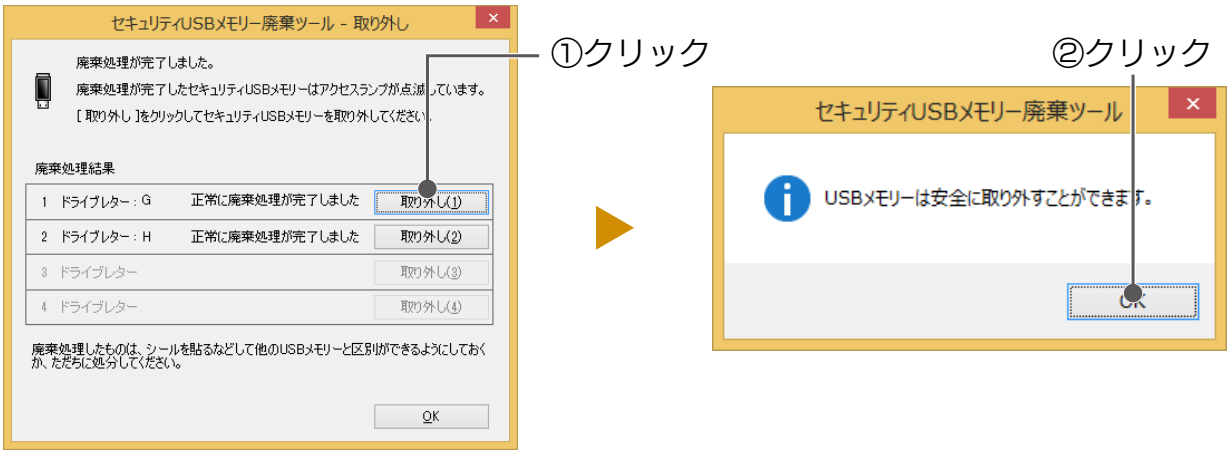
USB 3.0ポートに接続	約15分
USB 2.0ポートに接続	約45分

●廃棄処理の進捗状況が表示されます



9 廃棄処理が完了したら、[取り外し]をクリックします。

⇒取り外しの完了画面が表示されるので、[OK]をクリックし、USBメモリーをパソコンから取り外してください。
USBメモリーが複数ある場合は、同様に取り外してください。



注　意

廃棄処理に成功したセキュリティ USB メモリーは、シールを貼るなどして他の USB メモリーと区別ができるようにしておくか、ただちに処分してください

ヒント

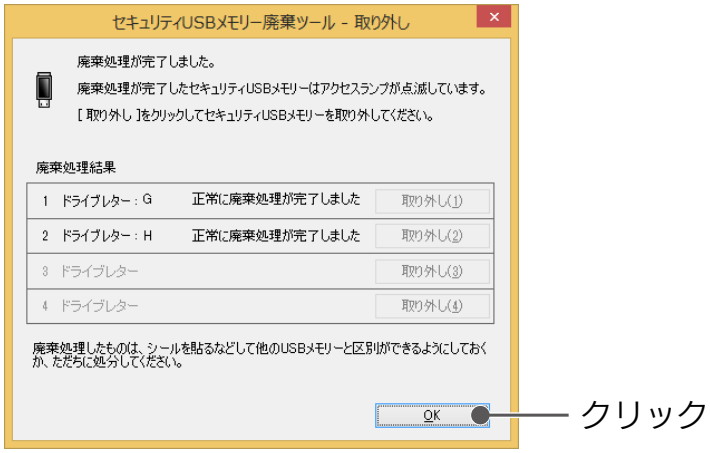
● USB メモリーの取り外しに失敗した場合

① [OK] をクリックし、取り外し画面を終了します。（初期画面が表示されます）
②タスクトレイの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコンをクリックし、
USB メモリーを取り外してください。

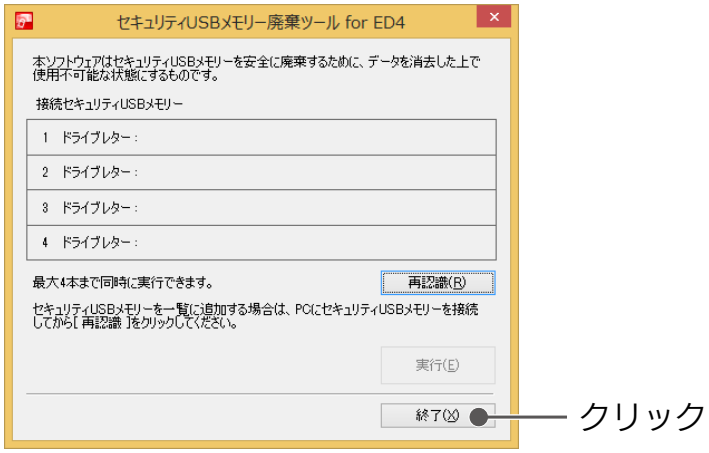
● [取り外し]をクリックできない場合

廃棄処理中にエラーが発生したUSBメモリーは、[取り外し]が無効になります。
Windowsのタスクトレイの「ハードウェアの安全な取り外し」から取り外してください。

10 すべてのUSBメモリーの取り外しが終了したら、[OK]をクリックします。



11 初期画面が表示されます。
廃棄処理を終了する場合は、[終了]をクリックして画面を閉じます。



ヒント **続けて廃棄処理をする場合は、画面を閉じずに 2 から進めてください**

以上で廃棄処理は完了です。

困ったときには

■弊社ホームページをご覧ください
サポート Web ページには、過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。
⇒ http://www.iodata.jp/support/

■トラブルの状態と対処
エラーメッセージ等トラブルが発生した場合は、下記を参考にしてください。
なお、エラーメッセージについては、USB メモリー内の「画面で見るマニュアル」も合わせてご確認ください。

SUKeyID4 でのトラブル ([No.Dxxx]) 96 ページ

SUManager4 でのトラブル ([No.Cxxx]) 97 ページ

CK-SetInfo でのトラブル ([No.Exxx]) 102 ページ

SUGetInfoAG でのトラブル ([No.Fxxxx]) 103 ページ

SUReset4 でのトラブル ([No.Bxxx]) 104 ページ

対応 USB メモリーおよび SUGate4 でのトラブル ([No.Axxx]) 105 ページ

使用期間設定ツールでのトラブル ([No.Mxxx]) 108 ページ

廃棄ツールでのトラブル ([No.Jxxx]) 110 ページ

SUKeyID4 でのトラブル ([No.Dxxx])

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
D001	Guestアカウントでは本ソフトウエアはご使用できません。	Guestアカウントで動作させた。	Windows 8.1/8/7の管理者(Administrator)権限か、ユーザーアカウントでご使用ください。
D002	お使いのOSでは本ソフトウェアはご利用できません。	対応外のOSで動作させた。	対応OSで動作させてください。なお、SUKeyID4はSUManager4の動作環境と同じです。(【動作環境】(7ページ)参照)
D003	製品シリアルナンバーには12桁の半角英数字を入力してください。	[製品シリアルナンバー]欄に、半角英数字以外を入力した。	SUManager4(SUM-S4)の製品シリアルナンバーを確認し、半角英数字で入力してください。
D004	製品シリアルナンバーが不正です。SUM-S4のシリアルナンバーを入力してください。	SUManager4(SUM-S4)の製品シリアルナンバーが入力されていない。	SUManager4(SUM-S4)の製品シリアルナンバーを再度確認し、正しい値を入力してください。
D005	製品シリアルナンバーが不正です。シリアルナンバーシールの内容を確認の上、再入力してください。	SUManager4(SUM-S4)の製品シリアルナンバーが正しく入力されていない。	SUManager4(SUM-S4)の製品シリアルナンバーを再度確認し、正しい値を入力してください。

SUManager4 でのトラブル ([No.Cxxx])

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
C001	お使いのOSでは本ソフトウェアはご利用できません。	対応外のOSで動作させた。	対応OSでご使用ください。(【動作環境】(7ページ)参照)
C002	Guestアカウントでは本ソフトウェアはご使用できません。	Guestアカウントで動作させた。	Windows 8.1 / 8 / 7 の管理者(Administrator)権限かユーザーアカウントでご使用ください。
C003 -xx	DLLの初期化に失敗しました。	SUManager4に必要なDLLファイルが存在しない。または破損している。	SUManager4を一度アンインストールし、再度インストールをおこなってください。
C004 -xx	設定ファイルの読み込みに失敗しました。 (xはエラーを示す値)	保存されている情報の読み込みに失敗した、または、そのファイルが壊れている。	SUManager4を再起動してください。 または、SUManager4を一度アンインストールし、インストールしなおしてください。
C005	SUGate4が動作しています。 USBメモリーを接続している場合は一度取り外し、本ソフトウェアが起動してから接続しなおしてください。	SUGate4動作中にSUManager4を起動した。	USBメモリーを取り外し、SUManager4起動後に再度接続してください。
C006	SUReset4が動作しています。 SUReset4を終了してから本ソフトウェアを実行してください。	SUReset4動作中にSUManager4を起動した。	SUReset4を終了し、SUManager4を再度起動してください。
C007	CK-SetInfoが動作しています。 CK-SetInfoを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	CK-SetInfo動作中にSUManager4を起動した。	CK-SetInfoを終了し、SUManager4を再度起動してください。
C008	使用期間設定ツールが動作しています。 使用期間設定ツールを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	使用期間設定ツール動作中にSUManager4を起動した。	使用期間設定ツールを終了し、SUManager4を再度起動してください。
C009	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールが動作しています。 廃棄ツールを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツール動作中にSUManager4を起動した。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールを終了し、SUManager4を再度起動してください。
C010	指定されたファイルは存在しません。	指定されたファイルが存在しない、または壊れている。	正しいファイルを指定してください。
C011 -xx	KIDファイルの読み込みに失敗しました。 (xはエラーを示す値)	保存されている情報の読み込みに失敗した、または、そのファイルが壊れている。	SUManager4を再起動してください。 または、SUManager4を一度アンインストールし、インストールしなおしてください。
C012	パスワード認証処理にエラーが発生しました。	SUManager4の起動パスワード入力時になんらかの問題が発生した 。	SUManager4を再起動してください。
C013	パスワードが正しくありません。	SUManager4の起動パスワードが間違っている。	正しい起動パスワードを入力してください。
C014	USBメモリーリスト読み込みに失敗しました。	保存されている情報の読み込みに失敗した、または、そのファイルが壊れている。	SUManager4を再起動してください。 または、SUManager4を一度アンインストールし、インストールしなおしてください。
C015	CSVファイルの保存に失敗しました。	SUManager4ログ、USBメモリーリスト、USBメモリー操作ログのCSVファイルの保存に失敗した。	ファイルの保存をやりなおしてください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
C016 -xx-xx	パスワード変更時にエラーが発生しました。 (xはエラーを示す値)	何らかの原因でパスワード変更処理に失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、パスワード変更操作をおこなってください。
C017	ヒントに入力できる文字数は64文字までです。	64文字を超えてヒントを入力した。	ヒントは64文字以内で入力してください。
C018	パスワード文字列をヒントに設定することはできません。	ヒント文字列の中に、パスワードに使用した文字列が入力されている。	パスワードに使用した文字列は、ヒントに入力しないでください。
C019	パスワードは最低xx文字必要です。	パスワード最小文字数に満たないパスワードを設定した。	ポリシーで設定したパスワード最小文字数以上の長さのパスワードを入力してください。
C020	パスワードは最低xx文字必要です。また、以下の条件に従って設定してください。 英大文字:xx文字以上 英小文字:xx文字以上 数字:xx文字以上 記号:xx文字以上	ポリシーに設定したパスワード条件に合った文字列が入力されていない。	エラーメッセージに表示された文字数に合ったパスワードを入力してください。
C021	「新しいパスワード」と「新しいパスワード(確認)」が一致しません。	パスワード変更時に、新しいパスワード欄に入力した文字列と、確認欄に入力した文字列が一致しない。	新しいパスワード欄、確認欄に同じ文字列を入力してください。
C022	現在と同じパスワードを設定することはできません。	新しいパスワードに、既に設定されているパスワードと同じパスワードを設定しようとした。	既に設定されているパスワードとは異なるパスワードを設定してください。
C023	「パスワード」と「パスワード(確認)」が一致しません。	パスワード欄に入力した文字列と、確認欄に入力した文字列が一致しない。	パスワード欄、確認欄に同じ文字列を入力してください。
C024 -xx	初期化に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	初期化処理が何らかの原因で失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、初期化をやりなおしてください。
C025	USBメモリーリストの更新に失敗しました。 リストの内容を確認してください。	何らかの原因で、初期化またはパスワード修復実行後のUSBメモリーリストのデータ更新に失敗した。	初期化またはパスワード修復をやりなおしてください。
C026	パスワード設定に失敗しました。	SUManager4起動パスワードの設定に失敗した。	起動パスワードの設定をやりなおしてください。
C027	このパスワードは設定できません。違うものを指定してください。	SUManager4起動パスワードの設定に失敗した。	別の起動パスワードを設定してみてください。
C028	SUManager4操作ログの全削除に失敗しました。	SUManager4操作ログの削除に失敗した。	操作ログの削除をやりなおしてください。
C029	ポリシー名称は1～32文字の範囲内で入力してください。	ポリシー名欄が空欄の状態で[設定]ボタンをクリックした。	1～32文字の範囲でポリシー名を入力してください。
C030	既に同じ名称が存在しています。	他のポリシーで同じ文字列が既に使われている。	ポリシー名を別の名称で設定してください。
C031	パスワード連続ミス可能回数は、1～100の間で設定してください。	ポリシーのパスワード連続ミス回数欄に、範囲外の数字を入力した。	ポリシー設定画面に表示される範囲で設定してください。
C032	パスワード最小文字数は、1～16の間で設定してください。	ポリシーのパスワード最小文字数欄に、範囲外の数字を入力した。	ポリシー設定画面に表示される範囲で設定してください。
C033	文字制限の設定値の合計は16文字以下になるようにしてください。	ポリシーのパスワード文字制限で、英大文字/英小文字/数字/記号の最小文字数の合計が16文字を超えている。	パスワード文字の合計が16文字以下になるよう設定してください。
C034	有効期限は、0～36500の間で設定してください。	ポリシーのパスワード有効期限欄に、範囲外の数字を入力した。	ポリシー設定画面に表示される範囲で設定してください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
C035	累積パスワードミス回数の警告表示は、1～99の間で設定してください。	ポリシーのパスワードミス回数の警告欄に、範囲外の数字を入力した。	ポリシー設定画面に表示される範囲で設定してください。
C036	ポリシーの保存に失敗しました。	何らかの原因でポリシーの保存に失敗した。	ポリシーの保存をしなおしてください。
C037	削除する実行パスをリストから選択してください。	ポリシーのログイン後ファイル自動実行で、リストのパスを選択せずに[削除]ボタンをクリックした。	削除したいパスをリストから選択し、[削除]ボタンをクリックしてください。
C038	実行パスを指定してください。	ポリシーのログイン後ファイル自動実行で、実行ファイル欄に何もパスを入力せずに[追加]ボタンをクリックした。	実行ファイル欄に追加したいパスを入力し、[追加]ボタンをクリックしてください。
C039	AGIファイルの読み込みに失敗しました。	保存されている情報の読み込みに失敗した、またはそのファイルが破壊されている。	ファイルの存在を確認し、もう一度 読込み操作をおこなってください。 または、AGIファイルの生成から再度おこなってください。
C040	AGIファイルが見つかりませんでした。	指定されたAGIファイルが存在しない、または壊れている。	正しいAGIファイルを指定してください。
C041 -xx	PC情報の設定に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	何らかの原因で、許可/許可候補PC情報の設定に失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、許可情報のコピーをしなおしてください。
C042	許可PC/許可候補PCの合計が設定可能な最大数(1000)を超えています。	1台のUSBメモリーに登録できるパソコン台数(1000件)を超えた情報を書き込もうとした。	許可PCもしくは許可候補PCのリストから不要なパソコン情報を削除してください。
C044	パスワードのミス連続回数が制限値を越えたため、ログイン/パスワード変更ができません。	パスワード入力 / パスワード変更をポリシーで定めた規定回数以上ミスした。	SUManager4でパスワードミスリセットをするか、初期化をおこなってください。
C045	パスワードのミス回数の累積が制限値を越えたため、ログイン/パスワード変更 / パスワード修復 ができません。再初期化を行ってください。	パスワード入力 / パスワード変更 / パスワード修復 を連続100回ミスした。	SUManager4で初期化をおこなってください。
C046	後1回パスワード認証に失敗した場合、リムーバブル領域へのアクセス及びパスワード変更ができなくなります。	パスワード入力を連続99回ミスした。	後１回パスワードを間違えると初期化が必要になります。
C047 -xx-xx	リセット時にエラーが発生しました。 (xはエラーを示す値)	何らかの原因でパスワードミスリセット処理に失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、リセットを実行してみてください。
C048 -xx-xx	操作ログの保存に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	USBメモリー操作ログの保存に失敗した。	本エラーは通常は表示されません。 表示された場合は、その時実施したUSBメモリーを操作したログについては、記録されません。
C049 -xx-xx	データ保存領域の書き込み禁止設定に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	何らかの原因で、データ保存領域の書き込み禁止に失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、書き込み禁止設定をしなおしてください。
C050 -xx-xx	データ保存領域の書き込み許可設定に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	何らかの原因で、データ保存領域の書き込み許可に失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、書き込み許可設定をしなおしてください。
C051 -xx-xx	パスワードの修復に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	何らかの原因で、パスワードの修復に失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、パスワード修復をしなおしてください。
C052	マスターコードが正しくありません。	SUManager4に設定されているマスターコードが、対象のUSBメモリーを初期化した際のものとは異なっている。	SUManager4に、対象のUSBメモリーを初期化した際のマスターコードを設定し、パスワード修復をしなおしてください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
C053	SUReset4出力時にエラーが発生しました。	何らかの原因でSUReset4の出力に失敗した。	出力先に問題が無いか(空き容量が無いなど)を確認し、出力操作をしなおしてください。
C054	CK-SetInfo出力時にエラーが発生しました。	何らかの原因でCK-SetInfoの出力に失敗した。	出力先に問題が無いか(空き容量が無いなど)を確認し、出力操作をしなおしてください。
C055	セキュリティUSBメモリー廃棄ツール出力時にエラーが発生しました。	何らかの原因でセキュリティUSBメモリー廃棄ツールの出力に失敗した。	出力先に問題が無いか(空き容量が無いなど)を確認し、出力操作をしなおしてください。
C056	使用期間設定ツール出力時にエラーが発生しました。	何らかの原因で使用期間設定ツールの出力に失敗した。	出力先に問題が無いか(空き容量が無いなど)を確認し、出力操作をしなおしてください。
C057	最大期間は、1～365日に間で設定してください。	最大期間に1～365日の範囲以外の値を入力した。	最大期間は、1～365日に間で設定してください。
C058	申請コードは32桁の文字(上16桁、下16桁)を入力する必要があります。	申請コードの入力文字数が足りない。	上下二つの入力部に、16桁ずつ(ハイフン除く)の申請コードを入力してください。
C059	入力された申請コードは、修復処理用の物ではありません。	誤ったコードを入力している。	正しい申請コードを入力してください。
C060	入力された申請コードは、ロック解除処理用の物ではありません。	誤ったコードを入力している。	正しい申請コードを入力してください。
C061	入力された申請コードは、本SUManager4用の物ではありません。	本SUManager4の管理対象ではないUSBメモリーにて出力した申請コードを入力している。	本SUManager4で初期化した、USBメモリー上のSUGate4で出力した申請コードを入力してください。
C062	フォルダーを選択してください。	フォルダを指定していない状態で、バックアップまたは復元操作を行おうとした。	フォルダーを指定してください。
C063	以下のファイルのバックアップに失敗しました。	"何らかの原因でバックアップ先フォルダへの書き込みに失敗した。 または、バックアップ元となるファイルが存在しない。"	バックアップ先フォルダにアクセスできるか、空き容量は十分であるか確認してください。 SUManager4ログ、USBメモリーリスト、PCリストは、リスト自体にデータが存在しない場合は、ファイルが無いためエラー扱いとなります。
C064	以下のファイルの復元に失敗しました。	復元元のファイルが見つからない、もしくは壊れている。	復元元のファイルが指定したフォルダ内に正しく存在しているか確認してください。
C065	全てのUSBメモリーの設定を行ってください。	一括初期化で、初期化する全てのUSBメモリーにポリシーを設定していない状態で初期化をしようとした。	初期化しないUSBメモリーはパソコンから取り外し、リストに表示されている全てのUSBメモリーに対してポリシーの設定をおこなってください。
C066	未初期化のUSBメモリーをコピー元・コピー先に選択することはできません。	許可情報のコピー元/コピー先に、SUManager4で初期化していないUSBメモリーを選択した。	本ソフトウェアで初期化済のUSBメモリー情報を選択してください。 または、USBメモリーを初期化してから許可情報のコピーをおこなってください。
C067	許可情報コピー中にエラーが発生しました。	何らかの原因で、許可PC情報のコピーに失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、許可情報のコピーをしなおしてください。
C068 -xxxx xxxx	アップデートサーバーへの接続に失敗しました。 (xxxxxxxxはエラーを示す数値)	インターネットに接続されていない、または、ネットワークの設定(ファイアウォール・プロキシ等)により、当社のWebサーバーへの接続に失敗した。	ブラウザでWebを閲覧出来る環境(HTTP通信できる環境)でアップデート確認をおこなってください。
C069	本製品用ではない設定ファイルが指定されました。	SUM-S4LITEでバックアップした、設定ファイルをSUM-S4で復元しようとしている。または、その逆。	設定ファイルは、バックアップを行った製品と同じ製品で復元を行ってください。 SUM-S4LITEから、SUM-S4へデータ移行を行う場合には、移行手順に従って行ってください。
C070	PC情報をこれ以上登録できません。最大(10000台まで)	10000台を超えるPC情報を登録しようとした。	SUManager4のPCリストには、10000台分の情報しか登録できません。不要な登録情報を削除してください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
C071	USBメモリー操作ログの全削除に失敗しました。	USBメモリー操作ログの削除に失敗した。	操作ログの削除をやりなおしてください。
C072	USBメモリー情報をこれ以上登録できません。最大(50000本まで)	50000本を超えるUSBメモリー情報を登録しようとした。	SUManager4で管理可能なUSBメモリーは、最大50000本です。不要な登録情報を削除してください。
C073	"アップデーターが動作しています。 アップデーターを終了してから本ソフトウェアを実行してください。"	アップデーター動作中にSUManager4を起動した。	アップデーターを終了し、SUManager4を再度起動してください。
C098	Internal Error:～	内部的な問題が発生した。	本エラーは通常では表示されません。 もし表示された場合は、当社サポートへのお問合せ時に、表示内容をお伝えください。
C098 -xx-xx	Internal Error (xはエラーを示す値)	内部的な問題が発生した。	本エラーは通常では表示されません。 もし表示された場合は、当社サポートへのお問合せ時に、表示内容をお伝えください。

CK-SetInfo でのトラブル ([No.Exxx])

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
E001	お使いのOSでは本ソフトウェアはご利用できません。	対応外のOSで動作させた。	対応OSでご使用ください。(【動作環境】(7ページ)参照)
E002	SUGate4が動作しています。USBメモリーを接続している場合は一度取り外し、再度本ソフトウェアを起動してください。	SUGate4動作中にCK-SetInfoを起動した。	USBメモリーを取り外し、CK-SetInfoを再度実行してください。
E003	SUManager4が動作しています。SUManager4を終了してから本ソフトウェアを実行してください。	SUManager4動作中にCK-SetInfoを起動した。	SUManager4を終了し、CK-SetInfoを再度実行してください。
E004	SUReset4が動作しています。SUReset4を終了してから本ソフトウェアを実行してください。	SUReset4動作中にCK-SetInfoを起動した。	SUReset4を終了し、CK-SetInfoを再度実行してください。
E005	CK-SetInfo.dat ファイルの読み込みに失敗しました。	CK-SetInfo.datがCK-SetInfo.exeと同じフォルダに存在しない、または、壊れている。	CK-SetInfo.datをCK-SetInfo.exeと同じフォルダに置く、または、SUManager4でCK-SetInfoを再度出力してください。
E008	Guestアカウントでは本ソフトウェアはご使用できません。	Guestアカウントで動作させた。	管理者(Administrator)権限またはユーザーアカウントでご使用ください。

SUGetInfoAG でのトラブル ([No.Fxxxx])

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
F001	PCの情報取得に失敗しました。	ネットワークアダプターが存在しないか、有効になっていない。 または、何らかの原因で情報取得に失敗した。	ネットワークアダプターが装備されているパソコンで実行してください。 無効になっている場合には有効にしてください。 ネットワークアダプターが有効の場合には、再度実行してください。
F002	ファイルの出力に失敗しました。	ファイルの出力に何らかの原因で失敗した。	出力先に問題が無いか（空き容量が無いなど）を確認し、再度出力操作をおこなってください。

SUReset4 でのトラブル ([No.Bxxx])

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
B006	SUReset4.DATファイルの読み込みに失敗しました。	SUReset4を実行するのに必要なファイルが不足している。	SUReset4を実行するには「SUReset4exe、SUReset4.dat、EX4COM.dll、ED63.DLLI」の4ファイルを同一フォルダ内に用意する必要があります。
B011	接続されたUSBメモリーは管理者ソフトウェアで初期化されているため、 初期化するには専用のSUReset4が必要となります。	SUManager4で管理されたUSBメモリーを初期化しようとしている。	SUManager4で管理されているUSBメモリーは、プログラム領域にあるSUReset4では初期化できません。 管理者からSUReset4を入手する必要があります。
B012	このUSBメモリーはマスターパスワード機能が有効なため、 SUReset4での初期化はできません。 管理者に連絡してください。	SUManager4で管理されたUSBメモリーを初期化しようとしている。	マスターパスワード機能が有効になっているため、初期化ができるのは管理者のみとなります。 管理者に連絡して初期化をおこなってもらってください。
ー	SUReset4が起動しない。	SUManager4やCK-SetInfo等のUSBメモリー用のアプリケーションが動作中にSUReset4を起動した。	関連アプリケーションを終了してから、SUReset4を起動してください。

対応 USB メモリーおよび SUGate4 でのトラブル ([No.Axxx])

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
A002	残り x回のパスワード認証に失敗した場合、データ保存領域へのアクセス及びパスワード変更ができなくなり、初期化が必要になります。	対象USBメモリーがパスワード入力 / パスワード変更を後x回ミスすると、SUReset4による初期化が必要である。回数はUSBメモリーポリシーで設定した累積パスワードミス回数により変化する。	正しいパスワードを入力してください。
A003	このPCは既に許可候補となっています。USBメモリーを取り外してください。 接続中のPCで本USBメモリーを使用する場合は、管理者に許可依頼を行ってください。	PC識別機能が有効となっているUSBメモリーを、許可候補PCとなっているパソコンに再び接続した。	許可候補PC環境でこのUSBメモリーを利用したい場合は、このUSBメモリーあるいはSUGateInfoAG.exeを利用して、管理者に許可候補PCの許可依頼をおこなってください。
A004 - x	ご使用のPCまたはアカウントは、本製品の使用が許可されていません。 使用許可設定については管理者にお問い合わせください。	簡易PC識別機能が有効となっているUSBメモリーを、使用を許可されていないパソコンに接続した。	CK-SetInfo.exeを利用して、PCの許可設定をおこなってください。 xには1,2,3のいずれかが入ります。 CK-SetInfo.exeは管理者から入手してください。
A011	パスワードは最低x文字必要です。	新しいパスワードに入力した文字数が、USBメモリーポリシーが定める最低文字数よりも少ない。	新しいパスワードの文字数をx文字以上にしてください。 xはUSBメモリーポリシーで定めた最低文字数が表示されます。
A013	パスワード文字列をヒントに設定することはできません。	パスワードがヒントメッセージに含まれている。	パスワードを含まないようにヒントとなる文字列を設定してください。
A014	パスワードは以下の条件に従って設定してください。 英大文字:a文字 英小文字:b文字 数字:c文字 記号:d文字	新しいパスワードに入力した文字が、USBメモリーポリシーが定めるパスワード文字制限を満たしていない。	新しいパスワードの文字を文字制限を満たす文字列にしてください。 a,b,c,dにはUSBメモリーポリシーで定めた半角英数字、半角記号の最低文字数が表示されます。 仮にa = 2 の場合、A～Zの半角大文字アルファベットが最低でも2文字以上パスワードに含まれている必要があります。
A016	パスワードのミス回数の累積が制限値を越えたため、ログイン/パスワード変更ができません。 初期化を行ってください。	パスワード入力を連続100回ミスした。	SUReset4またはSUManager4で初期化をおこなってください。 (SUReset4およびSUManager4については管理者へお問い合わせください。)
A020	現在と同じパスワードを設定することはできません。	パスワード変更画面で新しいパスワードに入力した文字列が、現在のパスワードと同じ文字列である。	新しいパスワードに入力した文字列を、現在のパスワードと異なる文字列にしてください。
A022	ネットワークアダプタが見つかりませんでした。 USBメモリーを取り外してください。 接続中のPCではPC識別機能をお使いいただくことはできません。	PC識別機能が有効となっているUSBメモリーを、ネットワークアダプタの無いパソコンに接続した。	ネットワークアダプタが接続されていない環境では、PC識別機能は利用できません。
A023	内部エラーが発生しました。PC情報が取得できません。 USBメモリーを取り外してください。	PC識別機能が有効となっているUSBメモリーが、識別処理中に何らかの問題が発生した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
A024	ご使用のOSで本USBメモリーを利用することは、USBメモリーポリシーにより制限されています。使用許可設定については管理者にお問い合わせください。	使用OS制限機能が有効になっているUSBメモリーが、許可されていないOSまたはService Packのパソコンに接続された。	管理者に許可されているOS、ServicePackのパソコンを利用してください。 あるいは、管理者に相談して制限されるOSの設定を変えてもらってください。
A025	許可候補リスト追加処理に失敗しました。	PC識別機能が有効となっているUSBメモリーが、許可候補PCに登録する処理に失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。
A040	パスワードの有効期間が過ぎています。 パスワード変更を行って下さい。	パスワードの有効期限が過ぎている。	パスワードの変更をおこなってください。
A041	パスワードの有効期間が過ぎています。 管理者に問い合わせて、パスワード変更を依頼して下さい。	パスワードの有効期限が過ぎている。	SUManager4によるパスワードの変更をおこなってください。
A042	許可候補PCリストに登録できる最大数を超えた為、新規で追加できません。 USBメモリーを取り外してください。 管理者に、許可候補リストの編集を依頼してください。	許可候補PCリストに登録できるPCの最大数を超えている。	SUManager4を使って、許可候補となっているPCリストを編集して、不要なPC情報を削除してください。
A058	承認コードの試行回数が制限値を超えたため、パスワードロックの解除は行えません。 管理者にお問い合わせください。	承認コードの入力ミス回数が制限値(100回)を超えた。	管理者にお問い合わせいただき、承認コードに問題がないか確認してください。
A059	承認コードは40桁の文字(上20桁, 下20桁)を入力する必要があります。	承認コードの入力欄に半角英数字で40文字入力されていない。	承認コードの入力欄に半角英数字で40文字入力してください。
A060	承認コードに不明な文字コードが入力されています。	承認コードの入力欄に半角英数字以外の文字が入力されている。	承認コードの入力欄に半角英数字で40文字入力してください。
A061	承認コードが正しくありません。入力したコードの値を確認してください。 ※ 承認コードは発行日のみ有効です。 ※ 入手した承認コードでパスワードが再設定できない場合、管理者にお問い合わせください。	入力された承認コードが間違っている。 あるいは、管理者が承認コードを発行した日から、1日以上経過してからコードを入力した。	正しい承認コードを管理者が発行した日に入力してください。
A062	パスワードのミス回数の累積が制限値を超えているため、パスワードの再設定ができません。初期化を行ってください。	パスワード連続ミス回数と承認コードの入力ミスを連続100回した。	SUManager4で初期化をおこなってください。 SUManager4については管理者へお問い合わせください。
A066	USBメモリーの使用期間が過ぎました。 USBメモリー使用期間の再設定をおこなってください。	「USBメモリー使用期間設定ツール」で指定した、使用終了日を過ぎた状態で、USBメモリーを使用した。	USBメモリー使用期間の再設定が必要です。 管理者に相談してください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
A079	下記ポリシーが有効であるため、本USBメモリーを使用できません。 管理者にお問い合わせください。 - PC識別機能 - 簡易PC識別機能 - 使用OS制限	「-PC識別機能」が表記されている場合、「PC識別機能」ポリシーが有効になっている。 「-簡易PC識別機能」が表記されている場合、 「簡易PC識別機能」ポリシーが有効になっている。 「-使用OS制限」が表記されている場合、「使用OS制限」ポリシーが有効になっており、許可されていないMac OSに接続された。	「-PC識別機能」、「-簡易PC識別機能」が表記されている場合 、MacOSでSUGate4を利用するには「PC識別機能」、「簡易PC識別機能」ポリシーが無効である必要があります。 ポリシーの変更については管理者に相談してください。 「-使用OS制限」が表記されている場合、 管理者に許可されているMac OSを利用してください。 あるいは、管理者に相談して制限されるOSの設定を変えてもらってください。
A081	USBメモリーにログインしている状態で、OSのログアウト処理が行われています。 [OK]ボタンを押すと、USBメモリーが取り外されます。	USBメモリーがログインしている状態で、ユーザーアカウントのログアウト、システム終了、または、再起動を行った。	USBメモリーを取り外した状態でユーザーアカウントのログアウト、システム終了、再起動を行ってください。

使用期間設定ツールでのトラブル ([No.Mxxx])

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
M001	お使いのOSでは本ソフトウェアはご利用できません。	対応外のOSで動作させた。	対応OSで動作させてください。(【動作環境】(7ページ)参照)
M002	Guestアカウントでは本ソフトウェアはご使用できません。	Guestアカウントで動作させた。	Windows 8/7の管理者(Administrator)権限かユーザーアカウントでご使用ください。
M003	SUTermSet4.dat ファイルの読み込みに失敗しました。	使用期間設定ツール を実行するのに必要なファイルが存在しない。または、壊れている。	使用期間設定ツール を実行するには、以下のファイルを同一フォルダ内に用意する必要があります。 ·SUTermSet4.exe ·SUTermSet4.dat ·EX4COM.DLL ·ED63.DLL
M004	SUGate4が動作しています。 USBメモリーを接続している場合は一度取り外し、本ソフトウェアが起動してから接続しなおしてください。	SUGate4動作中に使用期間設定ツールを起動した。	USBメモリーを取り外し、使用期間設定ツール 起動後に再度接続してください。
M005	SUReset4が動作しています。 SUReset4を終了してから本ソフトウェアを実行してください。	SUReset4動作中に使用期間設定ツールを起動した。	SUReset4を終了し、使用期間設定ツールを再度起動してください。
M006	SUManager4が動作しています。 SUManager4を終了してから本ソフトウェアを実行してください。	SUManager4動作中に 使用期間設定ツールを起動した。	SUManager4を終了し、使用期間設定ツールを再度起動してください。
M007	CK-SetInfoが動作しています。 CK-SetInfoを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	CK-SetInfo動作中に 使用期間設定ツールを起動した。	CK-SetInfoを終了し、使用期間設定ツールを再度起動してください。
M008	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールが動作しています。 廃棄ツールを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツール動作中に 使用期間設定ツールを起動した。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールを終了し、使用期間設定ツールを再度起動してください。
M009	アップデーターが動作しています。 起動しているアップデーターを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	ED-x4シリーズアップデータ等動作中に使用期間設定ツールを起動した。	アップデーターを終了し、使用期間設定ツールを再度起動してください。
M010-xx	DLLの初期化に失敗しました。	使用期間設定ツール を実行するのに必要なDLLファイルが存在しない。または破損している。	使用期間設定ツール を実行するには、以下のファイルを同一フォルダ内に用意する必要があります。 ·SUTermSet4.exe ·SUTermSet4.dat ·EX4COM.DLL ·ED63.DLL
M011	パスワード認証処理にエラーが発生しました。	使用期間設定ツールの起動パスワード入力時になんらかの問題が発生した 。	使用期間設定ツールを再起動してください。
M012	パスワードが正しくありません。	使用期間設定ツールの起動パスワードが間違っている。	正しい起動パスワードを入力してください。
M013	USBメモリーは１つのみ接続してください。	対象USBメモリーが2本以上接続されている。	設定をおこなう場合は必ず1本のみ接続してください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
M014	このUSBメモリーには設定できません。	対象外のUSBメモリー、または、SUManager4で未初期化のUSBメモリーが接続されている。	対象外のUSBメモリーを全て取り外し、設定するUSBメモリーのみをパソコンに接続してください。SUManager4で未初期化のUSBメモリーの場合は、SUManager4で初期化を行う必要があります。管理者へご相談ください。
M015-1	このUSBメモリーは本ツールでは設定できません。設定するには専用のツールが必要になるため、管理者に問い合わせてください。	KEY-IDの異なるSUManager4で管理されたUSBメモリーが接続されている。	使用期間設定ツールを出力したSUManager4とは別のSUManager4で管理されたUSBメモリーは、設定することはできません。管理者から適切な使用期間設定ツールを入手する必要があります。
M015-2	このUSBメモリーは本ツールでは設定できません。設定するには専用のツールが必要になるため、管理者に問い合わせてください。	異なるSUManager4で管理されたUSBメモリーが接続されている。	使用期間設定ツールを出力したSUManager4とは別のSUManager4で管理されたUSBメモリーは、設定することはできません。管理者から適切な使用期間設定ツールを入手する必要があります。
M016	「使用終了日」は、「使用開始日」以降の日付に設定してください。	「使用終了日」の日付が、「使用開始日」より前の日付となっている。	「使用終了日」を、「使用開始日」以降の日付に設定してください。
M017	設定可能な日付は、yyyy/mm/ddまでです。(yyyy/mm/ddは日付を表す数字)	「使用終了日」の日付が、「使用開始日」から設定可能な最大期間を超えている。	「使用終了日」は、「使用開始日」から設定可能な最大期間以内の日付に設定してください。
M018	設定に失敗しました。	(原因なし)	設定処理中に、USBメモリーにアクセスや取り外しといった操作はおこなわないでください。また、USBメモリーを監視する常駐ソフトウェア等が導入されている場合には、それらを一時的に無効にした状態で、再度、本ソフトウェアを起動してください。
M019	「使用開始日」は2001年以降の日付に設定してください。	「使用開始日」が2001年より前の日付となっている。	「使用開始日」は2001年以降の日付に設定してください。
M020	「使用終了日」は2100年を超えて設定できません。	「使用終了日」が2100年より先の日付となっている。	「使用終了日」は2100年以前の日付に設定してください。
M099-xx-xx	内部エラーが発生しました。(xはエラーを示す値)	内部的な問題が発生した。	本エラーは通常では表示されません。もし表示された場合は、当社サポートへのお問合せ時に、表示内容をお伝えください。

廃棄ツールでのトラブル ([No.Jxxx])

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
J001	お使いのOSでは本ソフトウェアはご利用できません。	対応外のOSで動作させた。	対応OSでご使用ください。(【動作環境】(7ページ)参照)
J002	Guestアカウントでは本ソフトウェアはご利用できません。	Guestアカウントで動作させた。	本ソフトウェアはGuestアカウントでの動作を許可していません。 管理者(Administrator)アカウントまたはユーザーアカウント(一部OS除く)で動作させてください。 詳細は【動作環境】(7ページ)参照。
J004	SUGate4が動作しています。 USBメモリーを接続している場合は一度取り外し、本ソフトウェアが起動してから接続しなおしてください。	SUGate4動作中にセキュリティUSBメモリー廃棄ツールを起動した。	USBメモリーを取り外し、廃棄ツール起動後に再度接続してください。
J005	SUManager4が動作しています。 SUManager4を終了してから本ソフトウェアを実行してください。	SUManager4動作中にセキュリティUSBメモリー廃棄ツールを起動した。	SUManager4を終了し、廃棄ツールを再度起動してください。
J006	SUReset4が動作しています。 SUReset4を終了してから本ソフトウェアを実行してください。	SUReset4動作中にセキュリティUSBメモリー廃棄ツールを起動した。	SUReset4を終了し、廃棄ツールを再度起動してください。
J007	起動に必要なファイルが不足しています。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールを実行するのに必要なファイルが不足している。	管理者ソフトからの出力時に「EDHaiki.exe」または「EDHaikiED4.exe」と同一フォルダー内にあったファイルは、廃棄ツール実行時にも同一フォルダー内に必要です。ファイルがない場合は、管理者から廃棄ツールを再度入手してください。
J011	5本以上のセキュリティUSBメモリーが接続されています。 同時に廃棄処理をおこなえるUSBメモリーは最大4本です。 接続本数を確認して[再認識]をクリックしてください。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールの対象USBメモリーが5本以上接続されている。	廃棄ツールを使用する場合、接続するUSBメモリーは4本以下にしてください。
J012	このUSBメモリーはSUManager4で管理されています。 本ソフトウェアは使用できません。	SUManager4で管理されたUSBメモリーでは利用できない。	SUManager4で管理されたUSBメモリーは、管理者にご相談ください。
J013	このUSBメモリーはSUManager4で管理されていません。 SUManager4から出力したセキュリティUSBメモリー廃棄ツールは使用できません。	SUManager4から出力したセキュリティUSBメモリー廃棄ツールに、管理されていないUSBメモリーを接続した。	SUManager4で管理外のUSBメモリーを廃棄する場合は、専用の廃棄ツールを使用する必要があります。
J014	このUSBメモリーは対象製品ではありません。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールに対応していないUSBメモリーを接続した。	対応のUSBメモリーでご使用ください。(【動作環境】(7ページ)参照)
J015	このUSBメモリーは廃棄対象に選択したUSBメモリーではありません。	廃棄対象のドライブレターに、廃棄対象を選択した時とは異なるUSBメモリーが割り当てられている。	廃棄するUSBメモリーを接続し、廃棄処理を実行しなおしてください。
J016 -xxxx	データ保存領域の初期化に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	廃棄処理中に、データ保存領域の初期化処理が何らかの原因で失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
J017 -xxxx	プログラム領域への書き込みに失敗しました。 (xはエラーを示す値)	廃棄処理中に、プログラム領域へのログの書き込みが何らかの原因で失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。
J018 -xxxx	プログラム領域のフォーマットに失敗しました。 (xはエラーを示す値)	廃棄処理中に、プログラム領域のデータ消去が何らかの原因で失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。
J019	データ保存領域の消去に失敗しました。	廃棄処理中に、データ保存領域のファイル消去が何らかの原因で失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。
J020 -xxxx	秘匿領域のデータ消去に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	廃棄処理中に、秘匿領域の消去が何らかの原因で失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。
J021	プログラム領域への廃棄確認用ファイルの保存に失敗しました。	廃棄処理中に、プログラム領域への廃棄確認用のファイル(EDHaikiED4.txt)の保存が何らかの原因で失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。
J022	プログラムファイルの読み込みに失敗しました。	セキュリティUSBメモリー廃棄ツールを実行するのに必要なファイルが破損している。	管理者から廃棄ツールを再度入手してください。
J023 -xxxx	廃棄ツールの実行情報の保存に失敗しました。 (xはエラーを示す値)	廃棄処理中に、廃棄ツールの実行情報の保存が何らかの原因で失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。
J024 -xxxx	廃棄処理が正常におこなわれませんでした。 (xはエラーを示す値)	何らかの原因で、廃棄処理に失敗した。	USBメモリーを取り外し、再度接続してください。 その後、廃棄処理を実行しなおしてください。
J025	以下のUSBメモリーの廃棄処理のログを出力できませんでした。 ドライブレター： x	廃棄処理後に、EDHaikiED4.exeと同じフォルダーに出力される廃棄ログ(EDHaikiED4_log[xxxx].csv)の記録に失敗した。 (xは廃棄ツールを起動した日時)	廃棄処理が正常終了したかどうかは、廃棄したUSBメモリーを、再度廃棄ツールにて認識させて確認してください。 「このセキュリティUSBメモリーは廃棄処理済みです」と表示されれば正常に終了しています。
J026	USBメモリーの取り外しに失敗しました。	何らかの原因で、USBメモリーの取り外しに失敗した。	USBメモリーのアクセスランプが消灯していることを確認し、OSの「デバイスの安全な取り外し」アイコンから取り外しをおこなってください。
J028	以下のUSBメモリーのアクセスランプを点滅できませんでした。 ドライブレター：x	何らかの原因で、USBメモリーのアクセスランプの点滅に失敗した。	「廃棄対象確認」画面でこのエラーが発生した場合: USBメモリーを取り外し、再度接続してから、廃棄対象を選択しなおしてください。 「取り外し」画面でこのエラーが発生した場合: 表示されているドライブレターに割り当てられているUSBメモリーをPC上で確認し、Windowsのタスクトレイの「ハードウェアの安全な取り外し」から取り外してください。
J029	廃棄対象に選択したUSBメモリーが接続されていません。	廃棄対象に選択したUSBメモリーが接続されていない。	廃棄するUSBメモリーを接続し、廃棄処理を実行しなおしてください。
J031 -xxxx	内部エラーが発生しました。 (xはエラーを示す値)	内部的な問題が発生した。	当社サポートへお問合せください。 その際には、xxxxの表示内容をお伝えください。
J032	廃棄処理中です。 廃棄処理は、スタンバイ・休止状態にはできません。	廃棄処理中に、スタンバイ・休止状態に入ろうとした。	廃棄処理が終了してから、スタンバイ・休止をおこなってください。 一定時間経過すると自動でスタンバイ・休止状態になるように設定してある場合は、廃棄処理中にスタンバイ・休止状態にならないように設定を変更してください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対処
J033	廃棄処理中にスリープ･休止状態に入ったため、廃棄処理に影響する場合があります。 正しく廃棄処理が完了したか画面の表示内容を確認してください。	廃棄処理中に、スリープ･休止状態に入った。	廃棄処理がエラー終了した場合は、再度廃棄処理をおこなってください。 一定時間経過すると自動でスリープ･休止状態になるように設定してある場合は、廃棄処理中にスリープ･休止状態にならないように設定を変更してください。
J034	SecureDevice for EasyDiskが動作しています。SecureDevice for EasyDiskを終了してから本ソフトウェアを実行してください。	SecureDevice for EasyDisk動作中にセキュリティUSBメモリー廃棄ツールを起動した。	SecureDevice for EasyDiskを終了し、廃棄ツールを再度起動してください。

パソコンを入れ替える場合（環境移行する）

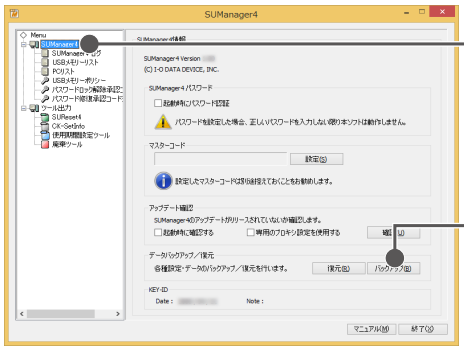
パソコンを入れ替えるときなどは、以下手順で SUManager4 の環境を移行します。

注　意　**旧パソコンでインストール時に作成した KEY-ID ファイルが必要です**

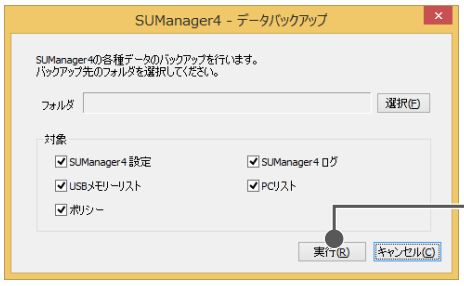
Step1．旧パソコンで SUManager4 情報をバックアップする

1 旧パソコンでSUManager4を起動します。

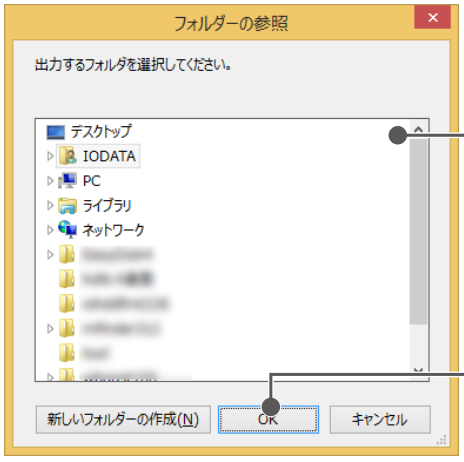
2 SUManager4情報をバックアップします。



3 すべての□にチェックした状態で、[実行]をクリックします。



4 設定情報ファイルを保存します。



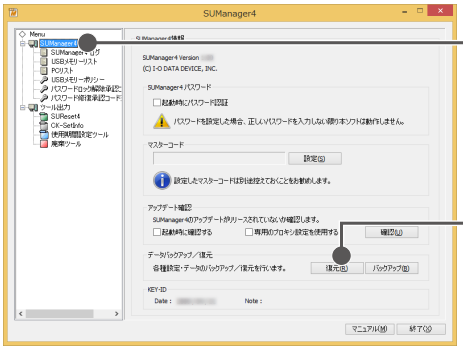
5 保存した「設定情報ファイル」と利用していた「KEY-IDファイル」を、新しいパソコンにコピーします。

Step2. 新しいパソコンに SUManager4 をインストールする

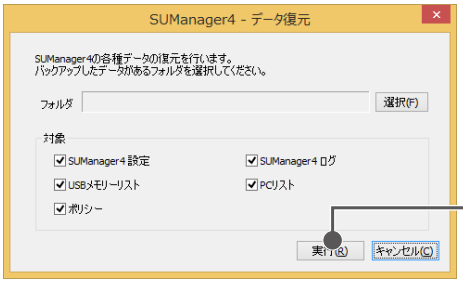
1 新しいパソコンにSUManager4インストールします。
※手順は【インストールする】（12ページ）をご覧ください。

2 SUManager4を起動し、古いパソコンで利用していたKEY-IDファイルを読み込みます。
※手順は【SUManager4を起動する】（14ページ）をご覧ください。

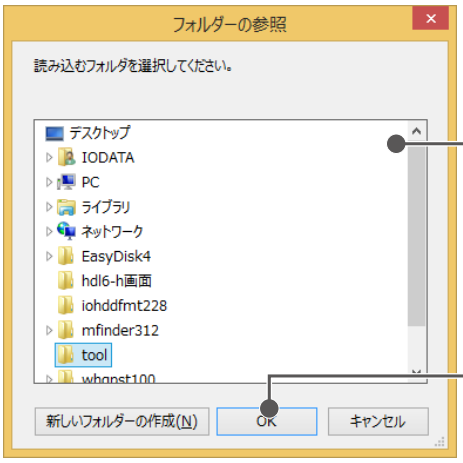
3 SUManager4情報を復元します。



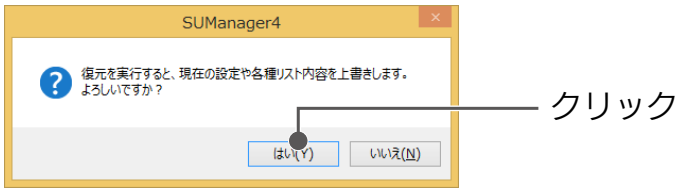
4 すべての□にチェックした状態で、[実行]をクリックします。



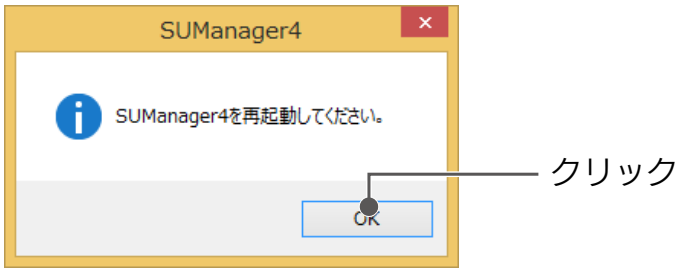
5 設定情報ファイルを選択します。



6 [はい]をクリックします。



7 [OK]をクリックします。



⇒SUManager4が終了します。

8 SUManager4を起動します。

以上で、完了です。

アンインストールする場合

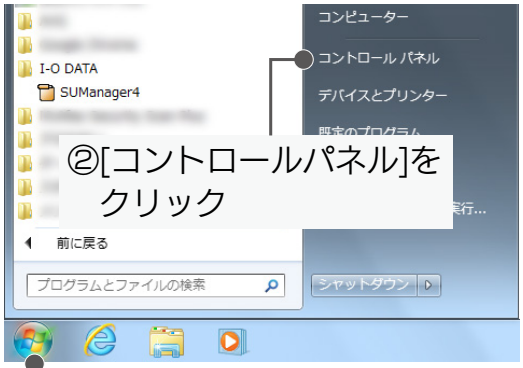
注　意　**インストール時に作成した KEY-ID ファイルは SUManager4 を再インストールする際に備えて、大切に保管しておいてください**

1 コントロールパネルを表示します。

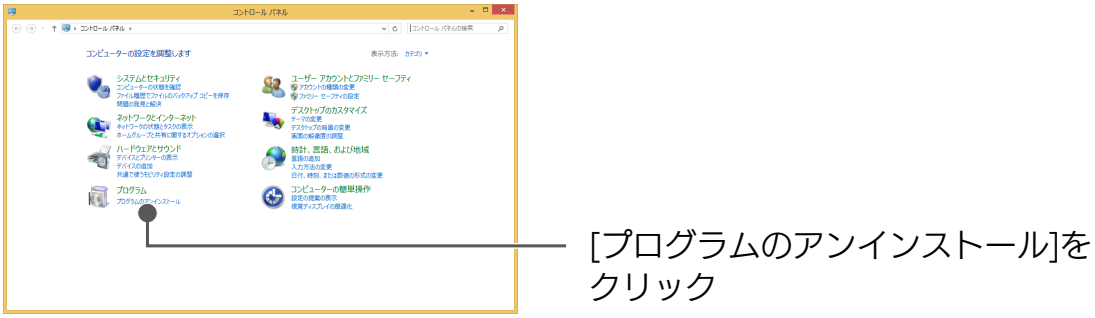
▼Windows 10/8の場合



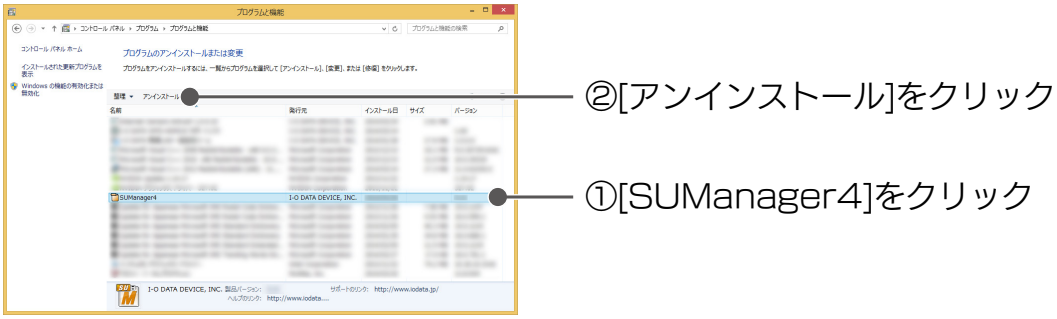
▼Windows 7の場合



2 [プログラムのアンインストール]をクリックします。



3 [SUManager4]を選択し、アンインストールします。



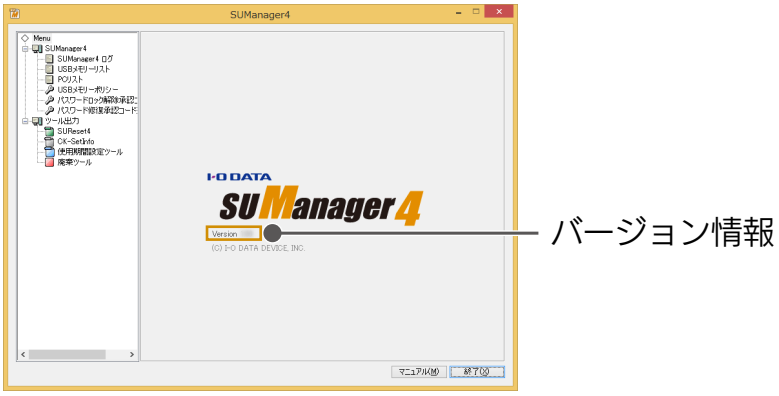
⇒画面の指示に従って、アンインストールします。

以上で、SUManager4 のアンインストールは完了です。

バージョン情報の確認

■ SUManager4 のバージョンの確認方法

SUManager4 を起動した直後の画面に、バージョン情報が表示されています。



■ バージョンアップ等に関する情報について

バージョンアップなど「SUManager4」に関する最新の情報は、下記 Web ページをご覧ください。

●サポート Web ページ ⇒ **http://www.iodata.jp/support/**

●サポートライブラリ ⇒ **http://www.iodata.jp/lib/**

アフターサービス

本製品の修理対応、電話やメール等によるサポート対応、ソフトウェアのアップデート対応、本製品がサーバー等のサービスを利用する場合、そのサービスについては、弊社が本製品の生産を完了してから５年間を目途に終了とさせていただきます。ただし状況により、５年以前に各対応を終了する場合があります。

■ お問い合わせについて

お問い合わせいただく前に、**以下をご確認ください**

- **本マニュアルの「困ったときには」を参照** (95 ページ)
- **弊社サポートページのQ&Aを参照**
- **最新のソフトウェアをダウンロード**

➡ **http://www.iodata.jp/r/4582**



それでも解決できない場合は、**サポートセンターへ**

電話：050-3116-3021
※受付時間　9：00～17：00　月～金曜日（祝祭日をのぞく）
FAX：076-260-3360
インターネット：http://www.iodata.jp/support/

＜ご用意いただく情報＞
製品情報（製品名、シリアル番号など）、パソコンや接続機器の情報（型番、OSなど）

個人情報の取り扱いについて

個人情報は、株式会社アイ・オー・データ機器のプライバシーポリシーに基づき、適切な管理と運用をおこないます。

[商標について]
○ TREND MICRO、および Trend Micro USB Security は、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
○記載されている会社名、製品名等は一般に各社の商標または登録商標です。